

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Experimental research of reading deficiencies :
Analytical classification of oral reading
deficiencies

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001223

国立国語研究所報告 9

読みの実験的研究

—音読にあらわれた読みあやまりの分析—

国立国語研究所

1955

国立国語研究所報告 9

読みの実験的研究

—音読にあらわれた読みあやまりの分析—

国立国語研究所

1955

はじめに

研究報告9として、「読みの実験的研究—音読にあらわれた読みあやまりの分析—」を刊行する。

国立国語研究所は、国民の言語生活の実態を科学的に調査し、そこに発生している問題を関連的にとらえ、それを整理することによって、国語の純化と、言語生活の合理化のための確実な基礎を築こうとして、各研究室において、それに必要な研究事項を分担して調査研究を進めている。

この研究報告9に収められたものは、第三研究室において、いまの国語教科書が当面している、言語および文字に関する問題点を究明するためにおこなった調査の成果であって、所期の問題点の一部が明らかにされていると同時に、学習指導のうえにも参考になると考え、刊行することとした。

昭和30年2月20日

国立国語研究所長 西 尾 実

目 次

はじめに	1
I この調査研究の目的	1
II 調査の計画	3
1 読みあやまりの調査の種類	3
2 調査の計画	4
III 調査の方法	10
IV 調査結果の処理	16
1 調査結果の処理の手順	16
2 調査結果の集計	21
(1) 読みあやまりの種類とその事例	21
(2) 全般的な態度にあらわれた読みの異常	26
(3) 1人当りの読みあやまり数を中心とした集計	29
(4) 音読の速さの集計	36
V 読みあやまりの事例集	40
1 文字の読みがわからない事例	40
2 発音作用が正常でない事例	49
3 とばし読み(省略)をする事例	74
4 おきかえ読み(代置)をする事例	91
5 つけ加え読み(挿入)をする事例	137
6 くりかえし読み(くりかえし)をする事例	147
7 ひろい読みをする事例	190
8 読みの休止が不自然な事例	208
9 読みなおしをする事例	236
10 なんどもまちがえた後で正しく読む事例	254
VI 読みあやまりの原因を推定するための実験的調査	257

1	実験的調査の1	258
2	実験的調査の2	259
3	実験的調査の3	262
4	実験的調査の4	264
5	実験的調査の5	265
6	実験的調査の6	266
7	実験的調査の7	268
8	実験的調査の8	270
9	実験的調査の9	271
10	実験的調査の10	273
VII	総合的な考察	275
1	読みあやまりの原因についての推定	275
2	今後の課題	280
	数表・図表一覧	283

I この調査研究の目的

「読みの実験的研究」という題目でここに報告するものは、国語研究所第3研究室が、1952（昭和27）～1953（昭和28）年の2カ年にわたっておこなった「文字言語の学習負担についての研究」の主要部分を占めるものである。この研究調査は、調査表による読みの困難・欠陥などについての全国調査と特定の学校の児童についての録音器による音読の調査との二つに分かれている。どちらも、そのだいたいの結果は、中間報告として、「国立国語研究所年報」の4（昭和27年度）および5（昭和28年度）に発表してある。「音読にあらわれた読みあやまりの分析」と、副題する本書では、中間報告に発表しなかった部分、および最終的に処理がすんだ結果を中心として、とくに、音読を手がかりとして明かにされた読みあやまりの類型と、その予想される原因とをくわしく報告するものである。したがって、年報に発表されている項目はなるべくはぶいてあるので、くわしくは年報をも見ていただきたい。本書では、本書の記述の理解に必要な限りで、ごくわずかの事項を再録するにとどめた。

本調査の目的は、児童が文字言語に接してどのような困難・障害・抵抗を示すかを明かにし、予想される原因を推定することによって、国語の文字言語の面への改善にヒントを与え、国語の学習指導の面への改善の資料を提供しようとするのであった。したがって、読みあやまりの種類の調査についてはかなり結果が得られたけれども、予想される原因の推定についてはいろいろな問題が未解決のままで残っている。しかし、推論的な報告でも、国語教育の実践面には参考になる点も多いと考えて、あえて発表することにした。

この調査研究の担当者は、当時の第3研究室の所属

平井昌夫 上甲幹一 高橋 進 寺島 愛

い

の4人である。なお、調査および実験の実施のため協力学校の先生がた，県外派遣生として研究所で勉強中の佐野芳夫（山梨県），狩野尾陸鷹（青森県），大久保芳継（兵庫県）の3君の協力を受けた点が多い。ここに付記して感謝する。

Ⅱ 調査の計画

1 読みあやまりの調査の種類

読みあやまりの調査は、大きくわけて、黙読と音読との二つについておこなわれる。黙読の場合には、

- (1) 黙読のときの眼球の運動の異常
- (2) 文および段落の内容の理解の異常
- (3) 鑑賞の異常

の三つの分野が調査の対象となる。したがって、黙読のときには、理解の困難・障害・欠陥・抵抗などの調査が中心を占めてくる。また、調査の方法も観察と客観テストを用いことが多い。

観察による方法はその性格が実践的であるために、多くの学校で教室的方法として用いられて、実践的な価値が認められている。しかし、主観的であるので科学的な調査研究にはあまり用いられなくなった。科学的な調査方法としてはテストによることが多く、アメリカあたりでは、多くの有力なテストが研究者や団体によって考案されている。たとえば次のようなものがある。

- (1) Monroe, Marion. *Diagnostic Reading Examination*
- (2) Durrell, Donald. D. *Durrell Analysis of Reading Difficulty.*
- (3) Dvorak, and M. J. Van Wagenen. *Diagnostic Examination of Silent Reading Ability.*
- (4) Buswell, C. T. *SRA Reading Record.* Science Research Associates.
- (5) Committee of Diagnostic Tests, Inc. *Diagnostic Reading Tests.*

なお、黙読における眼球運動の異常を調べるには、オフサルモグラフ (Ohtharmograph) や、テレビノキュラー (Telebinocular) などが実用に供されている。

これに対して、音読の場合には理解や鑑賞は音読化という手段を通して数

量的につかまえられる限りこの調査が可能であり、それ以外に音読そのものの技能についてのさまざまな異常が調査されることになる。

音読を手がかりとする読みあやまりの調査では、これまでは音読させながらじかに調査表へ異常を記入していくという方法がおこなわれていた。特定の材料を被調査者が音読していき、調査者は同じ内容の材料を見ながら、異常と思われる箇所へ一定の符号で記入をしていくのである。この調査方法はアメリカなどで、ふつうに採用されていて、ストーン (C. R. Stone)、グレイ (W. S. Gray)、ゲーツ (A. I. Gates) などの音読調査もみなこの方法によっていた。この調査方法の欠点は、被調査者の音読が一回だけに限られているために、(1)しゅんかん的に一回だけの聞きとりで読みまちがいをつかまなければならないこと、(2)調査者の間に観察の相違があっても客観的に一定する依りどころがないということであった。

テープ・レコーダーが手軽に使われるようになってから、音読の調査はきわめて楽になった。われわれの調査もテープ・レコーダーを用いて、児童の第1回の音読を録音し、これを幾回となく再生しつつ異常と考えられるものを巨細もらさず記録する方法を採用した。1回だけの音読を聞きながら記録する方法であると、あらかじめ想定しておいた記録表の項目にあてはまる異常以外はなかなかつかみにくい。録音の再生を中心として記録すると、予定した項目以外の異常まで発見できて、異常と考えられるあらゆるものをつかむことができる。

2 調査の計画

テープ・レコーダーを用いて、音読にあらわれる読みあやまりの程度をあますところなく発見しようとして、だいたい次のような手順を考えた。

- (1) 調査する学校および児童の選定
- (2) 調査に使う材料の選定
- (3) 再生による観察のための観察者の訓練
- (4) 調査結果の処理

- (5) 読みまちがいの分析と類型化
- (6) 読みまちがいの原因の想定
- (7) 原因を想定するための補正的実験
- (8) 読みまちがいの種類と原因の整理

調査する学校はいちおう小学校に限ったが、サンプリング法は用いなかった。いわば事例研究的な調査であるので、調査への協力の程度、テープ・レコーダーの有無、研究所からの交通の便利などを考え、学校の規模の大小、採用している教科書のちがひ、指導法のちがひ、地域差をも考慮して、11校を協力学校にえらんだ。

11校の学年別の内訳は次の通りである。

11校の内訳	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
東京都内9校	31	31	29	29	29	16	165人
山梨県1校、千葉1校			30		50		80
合計	31	31	59	29	79	16	245人

次に、これらの協力学校における被調査児童の選定については、知能検査の結果（知能指数または知能偏差値）および国語の総合成績によって、いちおう上・中・下の3段階に区分した。この上・中・下のそれぞれのグループから1学級につき2～3名ずつをえらび被験者とした。

音読の材料は各学年とも被験者の学力に適応したものでなければならぬとともに、既習のものであってはならぬため、協力学校で使用しない教科書をえらび、その学年のその時期よりも約6ヶ月ほど前に相当する部分を材料とした。

なお、材料を選定した基準としては、

- (1) なるべく児童の生活経験範囲内のもの
- (2) 具体的な内容をもったもの
- (3) 会話文が入って児童が親しみやすい文章
- (4) あまり抵抗の多い漢字や語句が入っていないもの
- (5) 平均して5分以内で読みおわるもの

の5つを大ざっぱな目標にした。使用した材料は次のとおりである。

1学年生用 (原文はたて書き。Ⅱは改行，Ⅰは新行，または段落のはじめ)

<p>めだかすくい まさおさんが すくいましⅡた。Ⅰ めだかが いっぴきⅡはいりました。 Ⅰ「はいった、はいった。」Ⅱと、ゆ きこさんが いいましⅡた。</p>	<p>ⅠみちおさんがⅡすくいました。Ⅰめ だかは すうっとⅡにげました。 Ⅰ「にげた、にげた。」Ⅱと、すみこ さんがⅡいいました。</p>
--	---

2学年生用

<p>う し ぼくは、いちろうさんと、うしを 見に いきました。Ⅱおやうしがじっ と立って います。Ⅰ目を 小さくし て、口を うごかして います。Ⅰ よしこさんが、Ⅱ「おじさん、こうし は。」Ⅱと、ききました。「Ⅰよく 見 て ごらん。」Ⅰ「いた、いた。」Ⅰこ</p>	<p>うしは、おやうしのⅡちちを、おいし そうにⅡのんで います。Ⅰ足が、し っかり しないのでⅡしょ。おやう しが うごとく、Ⅱころげそうに なります。Ⅰおじさんが、Ⅱ「トン、ト ン トン。」Ⅱと、かいばおけを た たきました。Ⅰこうしは きょんと して、こちらを 見ました。</p>
---	---

3学年生用

<p>ゆきだるま Ⅰ「ねえさん、ゆきだるまをⅡ作ろ う。」Ⅱと、まさおさんが いいまし た。Ⅰ「作ろう、作ろう。」Ⅱと、ひ ろしさんも いいました。Ⅰみんな は 外へ 出ました。Ⅰしろも うれ しそうに、ゆきの上を 走って いき まⅡす。Ⅰねえさんが ゆきをⅡ固め てころがしました。Ⅱ「たまころがし のようだね。」Ⅱと、ひろしさんが い いました。Ⅰたまは だんだん大きく Ⅱなって いきます。Ⅰまさおさんも ゆきのⅡたまを ころがしました。Ⅰ 大きいのと 小さいのと、Ⅱたまが ふ</p>	<p>たつ できました。Ⅰ「わっしょい、 わっしょい。」みんなで たまを かさ ねⅡました。ゆきだるまのⅡ形が で きました。Ⅰよしこさんが すみをⅡ もってきました。Ⅰねえさんが、まゆ げやⅡ目を いろいろに つけかえる と、Ⅱゆきだるまは おこったように Ⅱなったり、わらったように なった りしました。Ⅰひろしさんが、Ⅱ「こ れを かぶせたら いいよ。」と いっ て、むぎわらぼうしを 持って きま した。Ⅰまさおさんが かぶせました。 Ⅰ「おもしろい、おもしろい。」Ⅱと いて、みんなが 大わらいⅡしました。</p>
--	--

3~4学年生用

学芸会

もうすぐ学芸会が始まります。| みちおくんの おとうさんが、おいでになりました。ゆきこさ君のおかあさんも おいでになりました。| だんだん お客さんが 集まって、会場は いっぱいになりました。| まもなく ふえが なって、学芸会が始まりました。| たかしくんが立って、はじめの あいさつを しました。|| 「わたくしたちは、これから学芸会を します。お話、歌、おどり、げき、そのほか おもしろいものが、たくさん あります。みんな いっしょけんめい 練習を した

ましたが、まだ|| じょうずに できないもの あります。しかし力いっぱい し|| ます。では これから 始めます。」| たかしくんは、元気な 声で いました。| あちからも ちからも、はくしゅ|| がおこりました。|| 一ばん始めに ゆきこさんが、「わたしは 春の 使いです。」|| と いう、歌を 読みました。つぎに、みちおくんが、友だちと、|| 「風の子、雪の子」の 合唱を しました。| まさおくんたちは、「春が きた」|| と いう げきを しました。| 「みんなでおどる ところが|| かわいいね。」|| と、お客さんが ほめました。

4学年生用

まさおくんの病氣

まさおくんはねむりからさめました。| 静かな朝です。まくらもとの火ばちにかけた、やかんのお湯が、|| 「シュン。シュン。」と音をたてています。しめきってあるしょうじ|| に明かるい冬の日がさして、のきぼで鳴いているすずめの声が、気|| 持よく聞こえます。| まさおくんは、ひとつ大きく息をしました。| その時、ふすまがすうっ|| とあいて、おかあさんがにこにこしながらは いてきました。| 「まあ、よくねむったこと。気分はどう。」| おかあさんのあたたかいことばに、まさおくんはにっこりして|| うなずきました。

| 三日ほど前のことです。学校から帰ってきたまさおくんは、いつ|| ものような元気がありません。おかあさんは、まさおくんの顔を見|| るなり、|| 「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」|| といいながら、ひたいに手をあててみられました。| 「あ、熱もありますよ。」|| とあわてて、ふとんをしいてくださいました。|| まもなく、お医者さんがおいでになって、脈をみたり、熱を計|| ったり、のどを見たりしていられましたが、|| 「ああ、かぜだよ。あたたかくしてねいたら|| よくなるよ。」|| と、おっしゃいました。| それから、学校を休んで、ずっとねているの|| です。

5学年生用

ドッジボール大会

試合が始まった。相手は五年西組である。みんなが、さかにはく手を送っ〓てくれる。〓西組のセンター山本君のボールは、すばらしい勢いをもって飛んで来る。し〓かも、こしから下をねらうので、なかなか取りにくい。味方が、ひとりふたり〓とたおされていく。じょうずな道男君まで、たおされてしまった。そのうちに、〓ぼくを目がけてボールが飛んで来た。すくいあげるようにすると、うまく取る〓ことができた。「ワァッ」という声が聞こえた。〓この時、味方は三人になっていた。すぐに道男君にわたすと、道男君は取る〓がはやいか西組の人のせなかに投げつけた。ボールはころがって、また外野へ〓返って来た。かず子さんが投げる、春男君が投げる。内野の味方がつきつぎに〓ふえてきた。しかし、西組もなかなかじょうずである。外野へわたすボールを、〓とちゅうで

取っては逆にせめて来る。たおしたり、たおされたりして、勝負の〓見分けもつかないうちに、前半終りのふえは鳴った。人数を調べると、九対八。〓一点のちがいで勝つことができた。〓場所をこうたいして、後半戦にはいった。ぼくは外野にまわった。〓西組は、こんどこそはと、いっしょうけんめいである。とりわけ女子がぐん〓ぐんせめてくる。投げつけると、じょうずに受けて、男子のセンターにわたし〓ていく、れんらくのみごとなこと。そのため、味方は、ばたばたとたおれてい〓く。おうえんだんは、「フレー、フレー」と声をからしてさげんでいる。その時、〓かず子さんが、ボールを受けて、ぼくにわたしてくれた。力いっぱい西組の人〓に投げつけると、うまくあたって、ボールはは〓ね返って来た。その時、終りのふえが鳴った。〓子ども六対五で勝ち、いよいよ決勝戦に進む〓ことになった。

5学年生用

母の思い出

青山の家は、ささやかなすまいであった。〓小さい庭のすみに、もみじの木が一本はえて〓いた。〓母は、家の中の用事をすませると、夕暮れの庭にいすを〓出してすわり、わたくしをひぎの上にのせた。そして、母〓と子は、やがて新聞社から帰ってくる父を待つ

のだった。〓母の白い手がうすやみの中に入っていて、わたくしをささえ〓た。〓母は学校のころ習った歌だといって、「庭の千草」や「夕空晴れ〓て」や「ほたるの光」を、美しい声でなんべもうたって、わたくし〓に教えた。母は、かるい気持ちで歌をうたう時ですら、なみだを大きな〓目のにじませるくせが

あった。わたくしは母にだかれたまま、母の顔を見つめて、美しい歌声を聞いていた。| 青山の夕暮はすばらしかった。| 空気はすみ、あたりは静かで、こっこくと自然は色をかえ、形をかへていった。| 数々の鳥が、あわた

だしく大空を飛び去っていった。それがわたり鳥であるということも、母からおそわった。| 母は、自然が詩のように美しいことを、わたくしのおさない心にしみこませた。

6学年生用

きのう、電車の中でのことです。その電車はわりにすいていて、わたくしはこしをかけていました。わたくしのとなりにも、ひとりしかけられるぐらいいっていました。| 電車が停留所に着くと、ふたりの女の人が乗りこんで来ました。ふたりとも乗るがはやいか、わたくしのとなりの席を見つけて、走つて来ました。ひとりには荷物を持っていたために少しおそかったので、席をとられてしまいました。| 荷物を持った人は、いかにも残念そうな顔をして、こしかけた人を見えています。| こしかけた人は、「やれやれ、かけられて助かった。」と、ひとりごとを言っています。| わたくしは、「お婆さん、どうぞ。」と、荷物を持った人に席をゆずろうとしました。ところが、あんなにかけたがっていた人が、「いいんですよ、ありがとう。」と、いって、どうしてもかけようとしません。すると、さきこしかけて喜んでいた人が、「おねえちゃん、子供だから、かけていらっしやいよ。」| そう言ってから荷物を持った人に向か

って、「あなた、どうぞおかけください。お荷物があってたいへんでしょうから。」と、さっきおしのけるようにして取った席を、ゆずろうとしました。荷物を持った人は、「いいえ、たいした荷物ではございません。どうぞ、おかまいなく。」と、いって、かけようとしません。すると、「では、お荷物を持ちましょう。」といながら、自分のひざの上にむりやりに取って、ていねいに預かりました。| それからふたりは、前から知っていた人のように、なかよく話し合っています。| わたくしが電車からおりる時には、ふたりの女の人は、「お氣をつけてね、さようなら。」と、声をそろえて送ってくださいました。| わたくしの席には、荷物を持ったお婆さんが、こんどは安心してかけられませんでした。ふたりはきつと、なかよく話して行かれたことと思います。| わたくしは、初めあんなに席を取りあった女の人が、おしまいにはゆずり合ようになったのが、たいへんおもしろいと思いました。

Ⅲ 調査の方法

音読による読みまちがいの調査の具体的な方法について述べる。

(1) 調査の開始

音読による読みまちがいの調査を開始するに当っては、前記の協力依頼校を訪問し、学校関係者と打ち合わせたのち、あらかじめ用意しておいた調査観察表を使って調査を開始した。

まず、被調査者となった児童を一室に集め、音読の調査の方法について説明し、極度の緊張と不安をとりのぞくようにした。そのあとで個別に調査を開始した。その方法はだいたい次のとおりである。

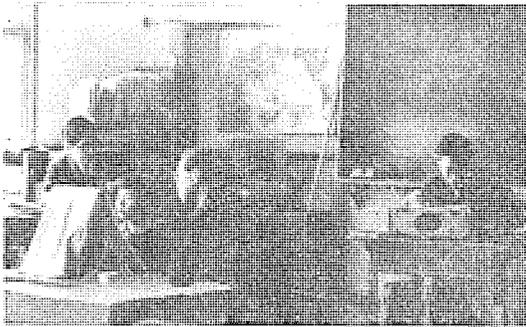


写真 1 読みあやまりの調査実況の 1

調査者は、4名が1組になり、それぞれインストラクター、連絡係り、記録係、録音係となった。それぞれの係は、調査者が平常な状態でじゅうぶんに個人差に応じた能力が発揮でき、調査が効果

的におこなえるように考慮した。

(2) インストラクター

インストラクターは受持教師および調査表を通して、被調査者の個性についてすばやく特徴をつかみ、被調査者のよき協力者となるようにつとめた。

また、各係と協力して、位置や採光などについても、その場に応じた処置をとった。

(3) 連絡係

連絡係は、調査が能率的におこなえるように、被調査者を呼びだし、さまざまな注意を与え、準備と打合わせなどの全般的な仕事にも手足となってはたらいだ。

(4) 記録係

音読そのものはテープに録音されていくので、記録係は、録音器ではあらわれない被調査者の態度や読みぶりなどについて、できるだけこまかく観察し、あらかじめ用意した用紙に記入した。

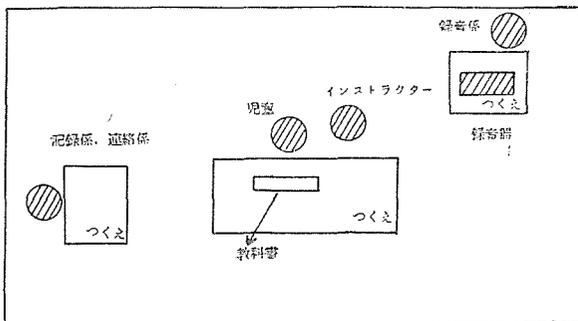


写真 2 読みあやまりの調査実施の2

に一定した簡単な手振の合図をきめて、それを実行した。

(6) 配置

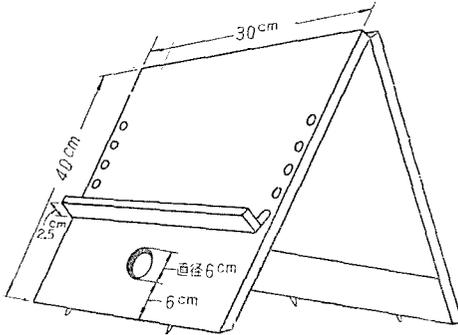
調査のさいの配置は、数回のテストの結果から、いちおう下記の図のような配置をとった。



(5) 録音係

録音係は、電力事情の考慮（電圧や停電）、録音器の調整、インストラクターとの打合わせなどについて配慮した。とくに実験中は、声を使うことができないので、つね

配置をきめるさい、とくに考慮したことは、被調査者に録音器による威圧をあたえないようにつとめたことである。それゆえ、あらかじめさまざまなテストをした結果を総合して、



教科書をのせる台（組立たところ）

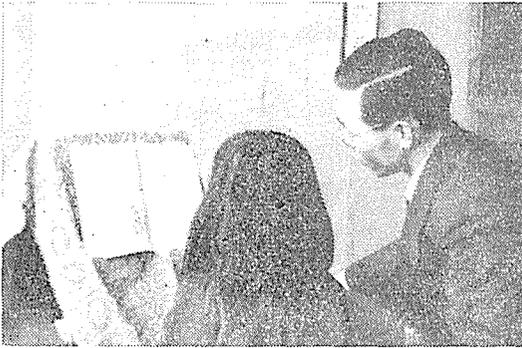


写真 3 教科書台とインストラクター

左図のような教科書台を構案した。なかへマイクロフォンをおき、全体をフロシキよりの布でおおい、そのうえに教科書をのせるのである。

(7) 録音作業

録音後のテープを処理するさいの能率化を考え、あらかじめ下のカッコ内のようなことを調査にさきだって録音しておいた。

呼び出された被調査者は連絡係の案内で所定の位置につき、インストラクターの指示をまつ。インストラクターは、被調査者に対してはなるべくふんい気をや

第3研究室 1952年度 録音第 号

これは1952年 月 日 曜日 時から 時まで、 都（県）市（区）立 小学校で、文字言語の障害の種類の実態を調べるための調査としての第 学年の記録です。

教材は、〇〇会社発行 〇〇〇〇編集の「〇〇〇〇」上（下）の〇ページから〇ページまでの、児童としてはじめて接する材料です。なお、録音器の感度は良好、インストラクターは、〇〇です。

わらげるような心持で着席させ、次のような指示を与える。

「私があなただの肩をそっとたたいたら、ここから読みはじめてください。」

「読む調子はいつも教室であなたが読むように読んでください。」

「読めない文字があったら、手でちょっと合図をしてください。私が教えてあげますから。」

「また、読めるか読めないかわからない文字については、あなたの考えでそのまま思ったとおりに読んでください。」

「この録音は、あなたの学校の成績にはなんの関係もありませんから、心配しないで読んでください。」

このような指示をあたえたのちに、被調査者の氏名を言わせ、録音係に合図をおくって録音に移った。

録音に移ったさいのそれぞれの係は、次のようなことを考慮した。

- 1 インストラクターは、被調査者が音読できない文字について、合図があったときには助言をあたえた。そして、用意した材料を被調査者が読み終えたときにはあらかじめつくっておいた問題によって、質問形式のごく簡単な理解テストを実施する。
- 2 記録係は、録音とともに、あらかじめ用意しておいた「総合的な考察において表われる障害の傾向表」（年報4に発表）に、いちじるしい現象を記入した。記録係は被調査者の読む速さについてもストップ・ウォッチでタイムをとった。
- 3 録音係は、インストラクターとの連絡を密にし、電圧と音量の関係に注意して、よい感度で正しく録音できるようにつとめた。
- 4 連絡係は、録音中は、それぞれの係に必要なに応じて協力した。

なお、なるべく被調査者が自然な調子で音読できるようにするための具体策として、受持教師をインストラクターにあててみて、ある程度の効果をおさめた。このときにも、はじめ数名の被験者に対して調査者側のインストラクターが模範を示して、その要領を指導した。

(8) 理解のたしかめ

音読によっては文全体の意味の理解について調べるのが困難なので、音読をさせたあとで、文全体の意味の理解をたしかめる目的で個人面接をおこなった。これは、音読による読みあやまりの原因を推定するとき大きな参考になるからである。個人面接で理解のたしかめをおこなうには、いくつかの発問をし、それに答えさせるという形式をとった。理解をたしかめる発問

には、いろいろな形式のものを用いたが、次にその1例として6学年生に対しておこなった発問の案を示す。

- 1 あなたの名まえは。
- 2 あなたの組の先生のお名まえは。
- 3 これからすこしききたいことがありますから、答えてくださいね。
 - a 今読んだ文は、内容を考えながら読めましたか。
 - b むちゅうでしたか。
 - c ただ読んだだけでしたか。
- 4 この文はだれのことか書いてありましたか。
- 5 お母さんは、どんな歌をうたってくれましたか。
- 6 お父さんは、どこにつとめていますか。
- 7 あなたのお母さんのことで、何か心に残っていることがありますか。
- 8 今読んだ速さは教室でいつも読むときと同じでしたか、ちがっていましたか。
- 9 あなたは声を出して読むとき、とくに初めての文を読むときに呼吸が苦しくありませんか。
- 10 あなたは読みまちがったときや、意味がわからないときに、もう一度くりかえして読みますか。

それとも、気がついて、そのまま読んでいくほうですか。
- 11 学校での勉強はおもしろくできますか。
- 12 とくに好きな学科や、きれいな学科がありますか。

国語はどうですか。
- 13 あなたは本を読むことは好きですか。

たくさん読むほうですか。

あまり読まないほうですか。
- 14 あなたは勉強中、何かのことに気をとられて、ぼんやりすることがありますか。
- 15 教室では自分の思ったことや、わかっていることは、いつも手をあげて話せますか。
- 16 組ではお友だちとなかよく遊べますか。
- 17 あなたには、お父さん、お母さんがいますか。

かわいがってくださいますか。
- 18 あなたには、お兄さん、お姉さん、弟さん、妹さんがいますか。

なかよくしていますか。
- 19 あなたのおうちは仕事がいそがしいですか。

おうちの手つだいをさせられますか。

それで体はつかれますか。

- 20 きょうはどこか体のぐあいの悪いところがありますか。
- 21 ゆうべはよくねむれましたか。

IV 調査結果の処理

1 調査結果の処理の手順

調査結果の処理にあたっては、まず録音テープを次のような基本事項をきめて処理し、さらにだんだんに改良を加えていった。

(1) 録音テープの再生をくりかえし聞きながら、読みあやまりの種類が記入できるような便宜を考えて、使用した読みの材料を次ページにあげる形式の「読みちがい記入用紙」としてプリントにしておいた。

(2) 録音テープをくりかえし再生しながら、読みあやまりの箇所を記入用紙に記入した。記入者は原則として3人以上とした。初めのうちは、同じ録音テープを共に聞いていても、読みあやまりの発見や種類分けに不一致が多かった。そのため、初めの1カ月ほどは記入者自身の訓練期間にあてた。訓練期間ののちは、だいたい一致するようになった。

記入後は、互いの記入用紙をてらし合わせて、不一致の箇所があるかどうかを調べた。不一致の箇所があれば、さらに再生をして、話合いのうえで統一した。

読みあやまりを記入するのに用いた記号および記入の例は、すでに報告ずみ(年報5)であるが、便宜のために再録する。

1. 文字の読みがわからない..... ×
2. とばし読みをする..... □ □
3. おきかえ読みをする..... 具体的に記入
4. つけ加え読みをする..... (具体的に記入) [^] <
5. くりかえし読みをする..... } ~~~~~
6. ひろい読みをする..... | ~~~~~
7. 意味を無視して休止する..... | —
8. 途中でためらう..... || =
9. 句読点を無視して読む..... ^ >
10. アクセントがちがう..... ,
11. はじめまたは終りの発音がはっきりしない..... ?
12. 読みが著しく速くなったり遅くなったりする..... f または s
13. はじめ読みまちがえ、のち正しく読みなおす..... (具体的に記入)
14. 唇読みをしたあとで普通に発音する..... K K
15. 記入のひらがなは表音的に用いる。ただし促音が読めない場合はつ、促音に読んだ場合はゞとする。

(記号が二つ並んでいるのは、右がわは横書き、左がわはたて書きのものに用いる。)

めだかすくい

まさおさんが すくいまし

た。

めだかが いっぴき

はいてました。

はいりました。

「はいった、はいった。」

と、ゆきこさんが いいまし

た。

みちおさんが

すくいました。

めだかは すうつと

にげました。

「にげた、にげた。」

と、すみこさんが

いいました。

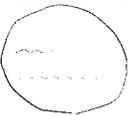
(3) 次に、読みあやまりを記入した用紙をもとにして、一つ一つの読みあやまりをカードにとった。カードの種類はAカードとBカードとし、それを

さらに学校別・学年別・読みあやまり別に分けた。なお、カードに記入の語句は、カードに記入されただけを読んでもだいたい前後の見当がわかる範囲とした。

(a) **Aカード** Aカードは、同じ箇所で見えられた読みあやまりの全部を記入した。Aカードの記入例を示すと、次のようである。

(左がわの上の数字は学年，下の数字は被調査者番号，下の右のローマ字はカードの種類である。右がわの上のローマ字は学校名の略号である。)

Aカードへの記入例

1	<u>すみこ</u> さんが	F
5 A		

上の記入例は、「すみこさん」と一度に読めないで、まず「す」と読み、次に「すみこ」と読み、最後にすみこさんがと読み続けて言った場合である。

1	<u>めだか</u> が いっぴき	A
4 A	'	

上の記入例は、「めがかが」の「か」と「が」は、普通なら同じ高さにいうはずなのを、この児童は「か」を高く、しかも強めて読み、そのうえ、「めだかが」という文節をひといきに読まないで、「めだ」と読み、しばらく休んで「か」と言った場合である。

(b) **Bカード** Bカードは読みあやまりの種類、その頻度をみるために、Aカードに記入したあやまりを種類別に分けて記入したものである。(カードに用いた記号などはAカードと同じ。)

Bカードの記入例を示すと、次のようである。

Bカードの記入例

2	よしこ <u>さん</u> が	H
13 B	□	

この記入例は、接尾語「さん」を読まないで、「よしこが」と読んだ場合である。

1	まさおさんが すく <u>い</u> ました	C
1 B	す	

この記入例は、「すくいました」を「すくいます」とよみまちがえたが、次に「すくいました」と正しくよんだ場合である。

2 調査結果の集計

(1) 読みあやまりの種類とその事例

読みあやまりの具体的事例を集計して、これらを整理するには、読みあやまりの種類の分けかたが問題になる。この調査でも、読みあやまりの種類の分けかたについては、調査をはじめる前に、あらかじめ仮定した分類（年報4に報告）、調査結果の処理にあたって修正した分類（年報5に報告）最終の分類（この報告書で用いた分類）と次々に変更した。

初めに調査表案を作製するにあたっては、その表にあらかじめ記載しておく読みあやまりの種類の決定が研究を要する仕事であった。音読を手がかりとする読みあやまりの種類なり型なりを、できるだけわしく発見しようとするのがこの調査の目的の一つでもあるので、作業仮設として、いちおう読みあやまりの種類の見通しをたて、それを調査表の項目としなければならない。そのために、これまでおこなわれた研究を調べる必要があった。

この方面の研究はドイツやアメリカに多くの業績がでている。全般的な傾向としては、ドイツの研究は医学的または臨床心理学的なものが多く、アメリカの研究は教育実践的または教育心理学的なものが多い。とくにアメリカでは、治療的学習指導または治療的教育 (remedial instruction, remedial teaching) の分野の研究がさかんであるので、読みあやまりの分析もいろいろ発表されている。このうち音読の読みあやまりについては、モンロー (Marion Monroe, 1932) の書物が影響力が多い。モンローの著書^(註1)によると、読みあやまりは次のように分類されている。

- (1) 母音の不正発音
- (2) 子音の不正発音
- (3) 文字のおきかえ

(註1) Monroe, Marion. Children Who Cannot Read. Chicago : The University of Chicago Press, 1932.

- (4) 音節のつけくわえ
- (5) 音節の省略
- (6) 単語のおきかえ
- (7) 単語のくりかえし
- (8) 単語のつけくわえ
- (9) 単語の省略
- (10) 読めないことと教師に助けられて読んだ単語

〔言語障害，方言，外国なまりなどによる発音のあやまりは，会話のときなどに出現するようなものならば，モンローはこれらを読みあやまり（reading error）とはしていない。〕

モンロー以外の研究者の分類もだいたい同じような項目が多く，それらを整理すると，すでに昭和28年度国立国語研究所年報(5)に述べたように，だいたい次の10項目になる。

- (1) 音読の速さ
- (2) 発声，発音，調子の不自然
- (3) 文字，語句，行の省略
- (4) 文字，語句，行の挿入
- (5) 文字，語句，行のくりかえし
- (6) 文字，語句，行のおきかえ
- (7) ひろい読み
- (8) 文字，語句の読めないこと
- (9) 音読の不自然な休止
- (10) 音読の全般的な態度

われわれの研究の目的の一つは，音読による読みあやまりの型をなるべく多方面にわたって発見しようとするのであったので，以上のような分類を参照し，さらにこれまで平井によって集められた各地における多くの学校の教室観察の手びかえを整理した結果，とりあえず次の項目をきめた。モンローとちがって，発音やアクセントの自然なあやまりをも取り入れたのは，言語障害や方言による発音やアクセントのあやまりにも一定の傾向が発見されるかも知れないとの予想を立てていたからである。（この点については，いくつかの傾向が言えそうであるが，まだ分析を終わっていないので，別の機会に発表した

い。)

以上の読みあやまりの分類は、具体的事例の再整理のときに、さらに変更された。この第三の分類変更は、本調査の整理の便宜ということが主であるので、教室実践のための分類はもっと簡単なほうが好都合である。読みあやまりの分類を変更した理由は、次の三つである。

- (1) 分類によって、ある程度まで原因の推定ができるようにしたほうが実用的である。
- (2) 助詞、音節など日本語の特色を示すものについて、読みあやまりの日本語的な傾向を推定しようとする分析に好都合である。
- (3) この調査の特異的な性質（学校数、児童数、学校のえらびかたなど）のため、事例が片よっていると思われ、その事例を分類するための便利を考える必要がある。

この新しい分類も(1)個々の具体的な読みあやまりと、(2)全般的な態度にあらわれた読みの異常とに二大別してある。

読みあやまりの新しい分類とそれによって整理した事例数とを表にすると、第1表のようである。

第 1 表 読 み あ や ま

学 年	順 位	1 年				2 年			
		上	中	下	小計	上	中	下	
									具体的な障害の種類
1.	文字の読みがわからない				3	3		3	16
(1)	ひらがな				3	3			1
(2)	かたかな								4
(3)	漢字							3	11
2.	発音作用が正常でない	19	19	71	109	5	25		83
(1)	不自然な音声で読む								
(2)	訛音で読む								
(3)	幼児音で読む				7	7			
(4)	アクセントがちがう	5	5	16	26				13
(5)	イントネーション(口調)がちがう								
(6)	初めまたは終りの発音がはっきりしない	4	1	15	20	4	11		12
(7)	唇読みをしたあとで普通に発音する			10	10				
(8)	読みが著しく遅くなったり速くなったりする	5		4	9		2		15
(9)	音節の発音が正しくない	5	3	29	37	1	12		43
3.	とばし読みをする	2		10	12	11	10		27
(1)	文字をとばして読む	2		9	11		8		24
(2)	単語をとばして読む					3	2		3
(3)	文節をとばして読む								
(4)	句をとばして読む								
(5)	行をとばして読む				1	1			
4.	おきかえ読みをする	10	10	16	36	11	36		49
(1)	別の音節で読む			1	1	1	6		22
(2)	別の単語で読む	10	10	15	35	10	30		27
(3)	前の行全部を読む								
5.	つけ加え読みをする	5	2	6	13	1	4		9
(1)	音節をつけ加えて読む	2	1	6	9		3		7
(2)	単語をつけ加えて読む	3	1		4	1	1		2
6.	くりかえし読みをする	13	31	51	95	14	35		73
(1)	文字をくりかえして読む	10	25	44	79	10	25		55
(2)	単語をくりかえして読む	3	2	2	7	1	4		6
(3)	文節や句をくりかえして読む		4	5	9	3	6		12
7.	ひろい読みをする	8	7	66	81		4		93
(1)	固有名詞	5	3	18	26				4
(2)	文字で	3	4	33	40		4		69
(3)	単語で			14	14				14
(4)	文節で				1	1			6
(5)	その他								
8.	読みの休止が不自然である	9	22	37	68	16	29		88
(1)	意味を無視して休止する	4	12	29	45	10	23		64
(2)	抵抗のある単語の前で	4	8	3	15	2	2		9
(3)	句読点を無視して休止する	1	2	5	8	4	4		15
9.	初め読みちがえて後に正しく読む	1	6	15	22		1		4
(1)	正常でない発音作用のあとで				2	2			
(2)	とばし読みのあとで				1	1		1	4
(3)	おきかえ読みのあとで	1	2	10	13				
(4)	つけ加え読みのあとで			3	3				
(5)	くりかえし読みのあとで								
(6)	ひろい読みのあとで		1	2	3				
(7)	不自然な休止のあとで								
10.	なんどもまちがえたあとで正しく読む			1	1		2		1
	小 計	67	98	275	440	58	149		443

(表中の「上中下」とあるのは、学級内の国語の学力がおおざっぱに上中下であるという意味である。)

り の 種 類 と 事 例 数

年	3 年				4 年				5 年				6 年				計
	小計	上	中	下	小計	上	中	下	小計	上	中	下	小計	上	中	下	
19	30	48	118	196	7	26	68	101	15	100	88	203	2	8	37	47	569
1			7	7			2	2		1	3	4			2	2	19
4							1	1									5
14	30	48	111	189	7	26	65	98	15	99	85	199	2	8	35	45	545
113	15	10	76	101	5	7	52	62	33	60	67	160	3	13	22	38	583
		1		1			1	1	1	3	2	6	1	2	4	7	15
																	7
13	2	2	2	6	1	1	5	7	7	9	11	27					79
27	5	3	32	40	4	4	20	28	19	40	33	92	1	11	13	25	132
																	10
17	4	1	5	10			4	4	2	4	10	16					56
56	4	3	37	44		2	20	22	4	4	11	19	1		5	6	184
48	9	32	28	71	7	4	29	40	33	61	91	185	4	9	25	38	394
40	3	23	17	43	7	3	17	27	24	42	65	131	1	4	12	17	269
8	6	9	11	26		1	12	13	8	19	23	50	3	5	13	21	118
			1	1					1		2	3					4
		1		1							1	1					2
																	1
96	29	73	130	232	14	34	70	118	103	176	283	562	5	23	86	114	1158
29	5	15	26	46		3	20	23	24	53	97	174	1	2	16	19	292
67	24	58	104	186	14	31	50	95	79	123	186	388	4	21	70	95	866
14	2	10	35	47	3	6	12	21	4	19	19	42	2	13	17	32	169
10	1	5	12	18		1	5	6	1	8	8	17		2	9	11	71
4	1	5	23	29	3	5	7	15	3	11	11	25	2	11	8	21	97
122	20	74	199	293	6	51	115	172	90	160	296	546	13	47	90	150	1378
90	11	52	136	199	4	30	73	107	45	88	147	280	7	29	42	78	833
11	7	16	49	72	1	14	30	45	26	45	93	164	3	9	33	46	345
21	2	6	14	22	1	7	12	20	19	27	56	102	3	9	15	27	201
97	7	13	85	105	2	6	44	52	15	24	60	99	1	4	17	22	456
4	1	1	10	12			4	4			3	3					49
73	2	6	46	54	1	3	16	20	11	22	40	73	1	3	16	20	280
14	3	6	21	30	1	2	15	18	2	1	9	12		1		1	89
6	1		8	9		1	7	8			1	1					25
							2	2	2	1	7	10					13
133	40	43	140	223	10	33	70	113	90	142	140	372	11	27	58	96	1005
97	19	27	93	139	2	20	41	63	34	41	54	129	1	14	33	48	521
13	5	8	14	27	6	10	13	29	52	66	62	180	9	13	19	41	305
23	16	8	33	57	2	3	16	21	4	35	24	63	1	0	6	7	179
5	6	4	8	18	12	25	41	78	36	68	94	198	4	17	39	60	381
						1	2	3	1	2	1	4					9
5	1		1	2		1	5	6	1	5	14	20	1	1	2	4	38
	4	4	6	14	9	16	19	44	28	46	58	132	3	11	29	43	246
	1		1	2	1	5	9	15	5	5	8	18		3	3	6	44
							1	1	1	3		4			1	1	6
							4	4		1	3	4					11
					2	2	1	5		6	10	16		2	4	6	27
3		1		1	4	2	6		1	2	21	24		2	4	6	41
650	158	310	819	1287	66	196	501	763	420	812	1159	2391	45	163	395	603	6134

読みあやまりの事例を学年別に整理すると、次の第2表のようになる。材料や人数の点から考えて、これらの事例数で学年の傾向や同一学年での読みあやまりを推定する資料にはならない。事例数を学年で整理しただけのものである。ただ注意すべき点は、読みの進行をさまたげるような抵抗があると、(2)の発音作用が通常でないか、(6)のくりかえし読みか、(8)の読みの休止が不自然、となってあらわれることが多いといえることである。

第2表 学年別読みあやまりの事例数

種 類	学 年					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. 文字の読みがわからない	3	19	196	101	203	47
2. 発音作用が正常でない	109	113	101	62	160	38
3. とばし読みをする	12	48	71	40	185	38
4. おきかえ読みをする	36	96	232	118	562	114
5. つけかえ読みをする	13	14	47	21	42	32
6. くりかえし読みをする	95	122	293	172	546	150
7. ひろい読みをする	81	97	105	52	99	22
8. 読みの休止が不自然である	68	133	223	113	372	96
9. 初め読みちがえて後に正しく読む	22	5	18	78	198	60
10. なんどもまちがえたあとで正しく読む	1	3	1	6	24	6

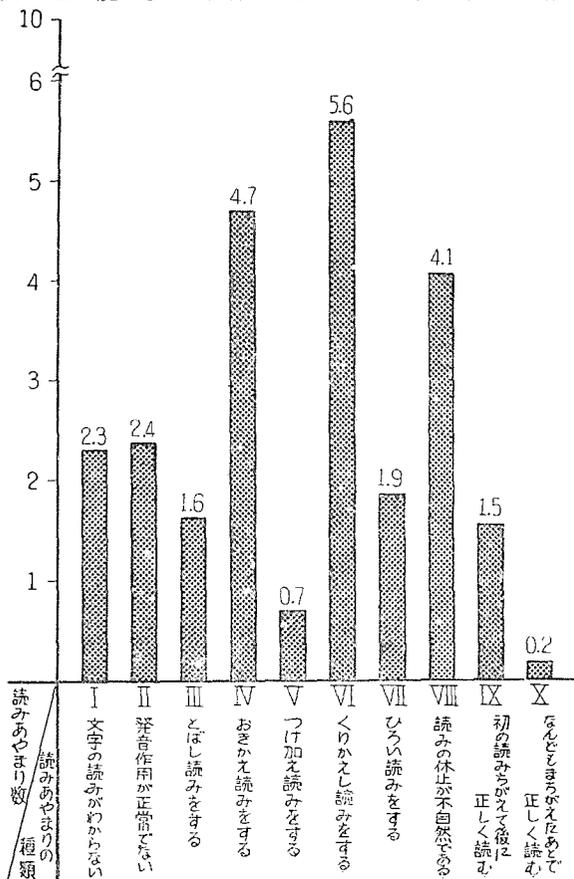
(2) 全般的な態度にあらわれた読みの異常

全般的な態度にあらわれた読みの異常の種類と人数とを整理すると、第1図(種類別の人数)と第2図(学年別の人数)のようになる。

第3表 全般的な読みの異常を示した児童と示さない児童との比較

	異常を示さない児童数	異常を示した児童数	異常を示した児童の割合	調査児童数
1 学年	11人	20人	43人	31人
2 学年	11	20	37	31
3 学年	25	34	57	59
4 学年	20	9	13	29
5 学年	43	36	93	79
6 学年	10	6	23	16
合計	120	125	266	245

第3図 読みあやまり別に見た1人当りの読みあやまり数



(3) 1人当りの読み

あやまり数を中心
とした集計

次に、具体的な読み
あやまりの事例につい
ての集計を、1人当り
の読みあやまり数を中
心として整理して述べ
る。

(a) 読みあやまり

別に見た1人当り

の読みあやまり数

読みあやまりの10大

分類のそれぞれの事例

総数を被調査者総数で

割って、児童1人当り

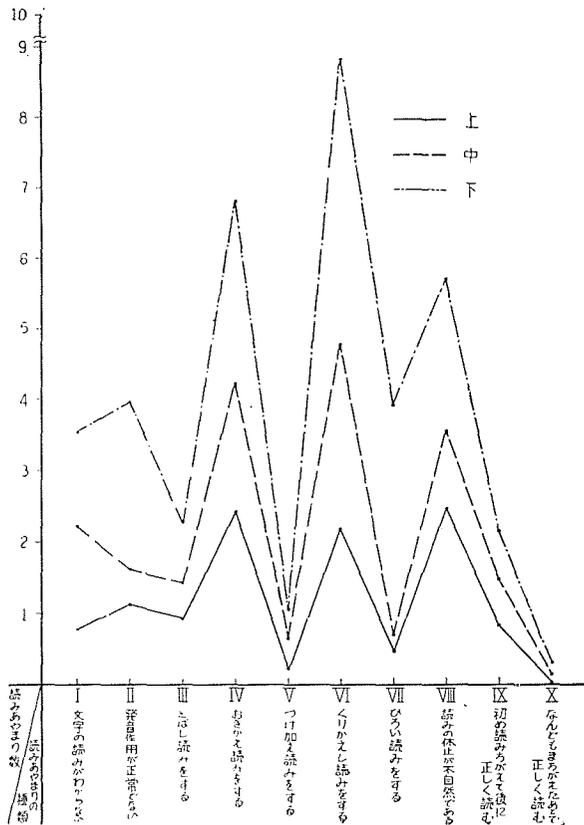
の読みあやまり数の平

均を出したものが第3

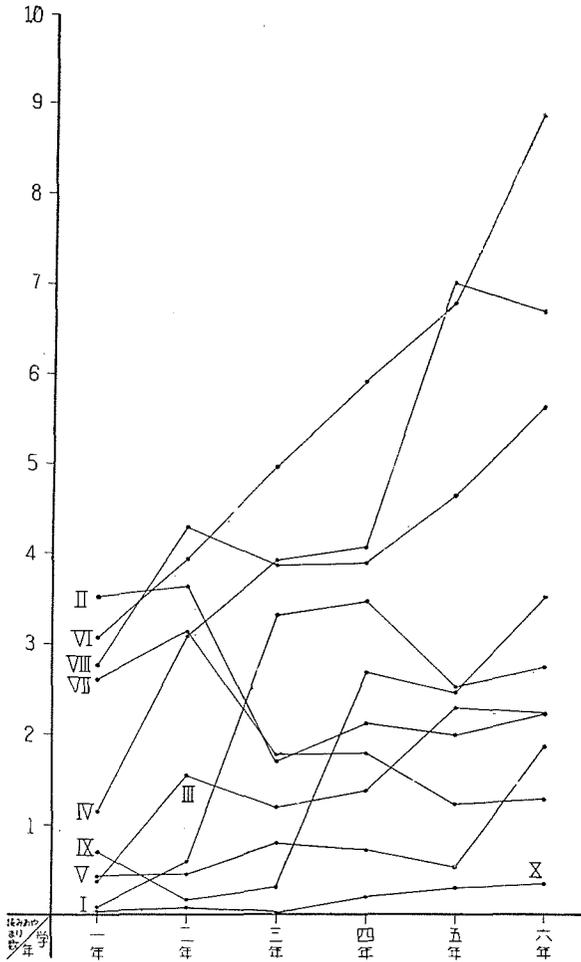
図である。この1人当

りの読みあやまり数と国語の学力（上・中・下）との関係を示したのが第4図である。さらにこれを、10大分類と学年別の関係で示したのが第5図である。

第4図 読みあやまり別に見た1人当りの平均読みあやまり数と国語の学力との関係



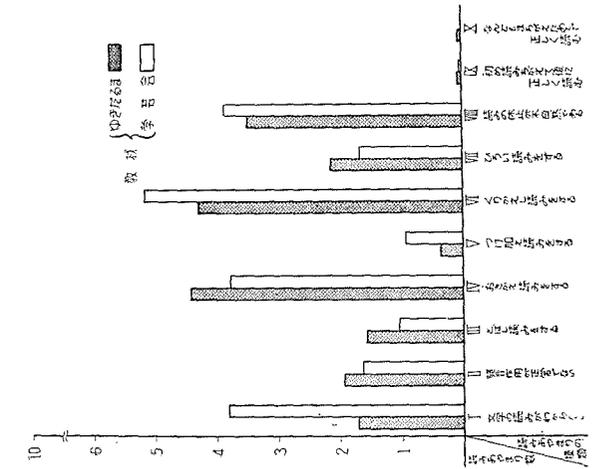
第 5 図 学年別に買った1人当りの読みあやまり数と各種の読みあやまりとの関係



(b) 教材を中心とした読みあやまりの集計

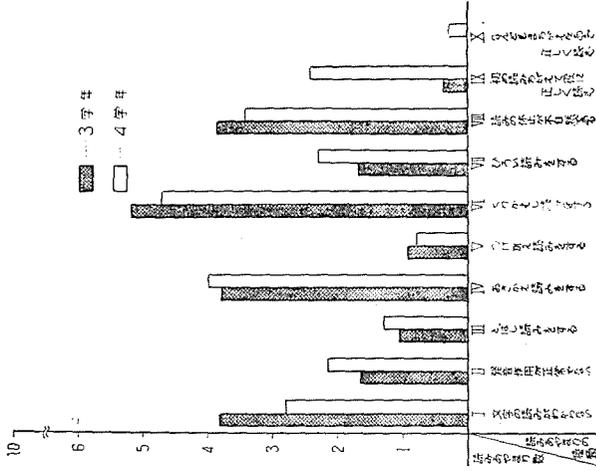
調査の材料に使った教材を中心として、学年別に1人当りの読みあやまりを調べてみると、第6, 7, 8, 9図のようになる。

第7図 教材別に見た1人当りの読みあやまり数
(3学年)

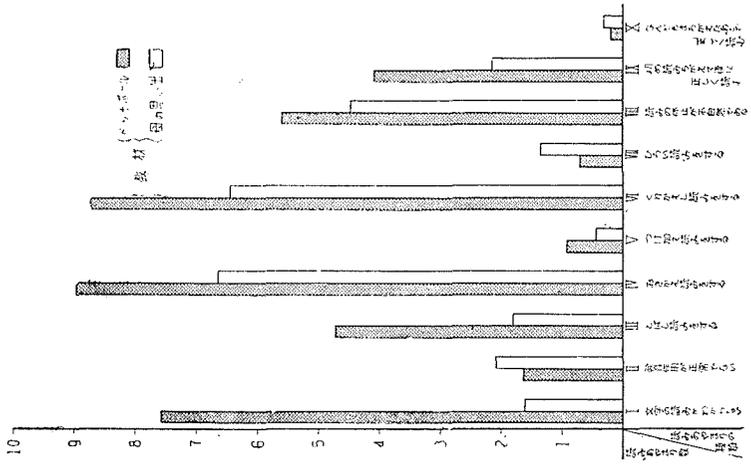


第6図 同一教材による学年別1人当りの読みあやまり数の比較(3学年および4学年)

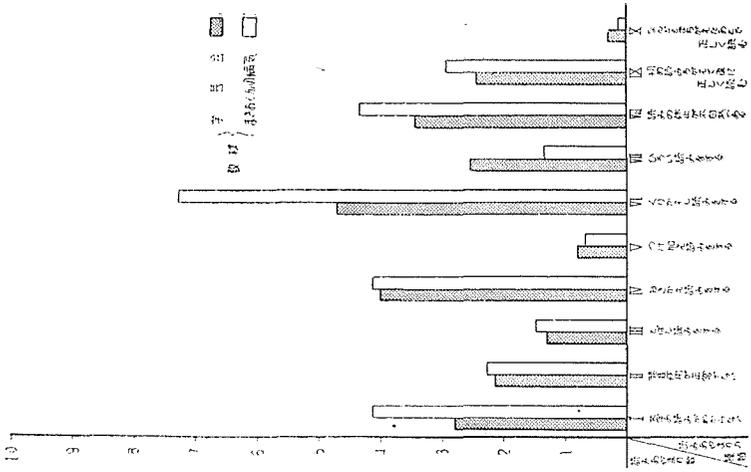
教材=学芸会



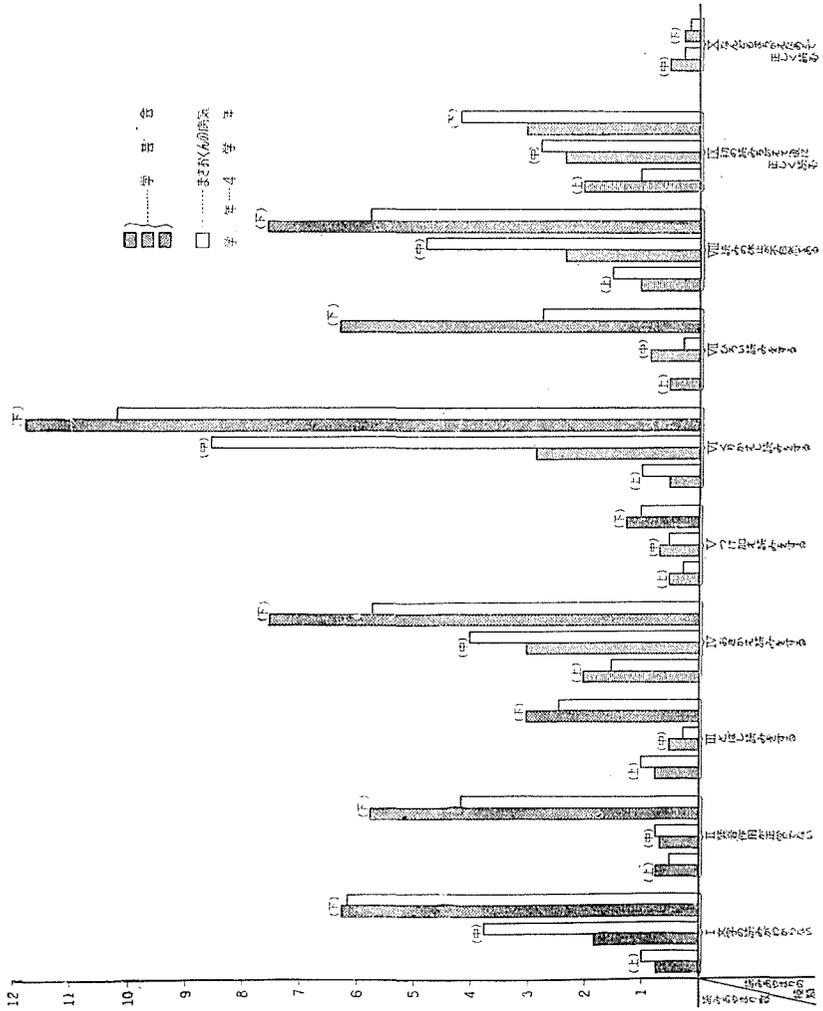
第9図 教材別に見た1人当りの読みあやまり数
(5学年)



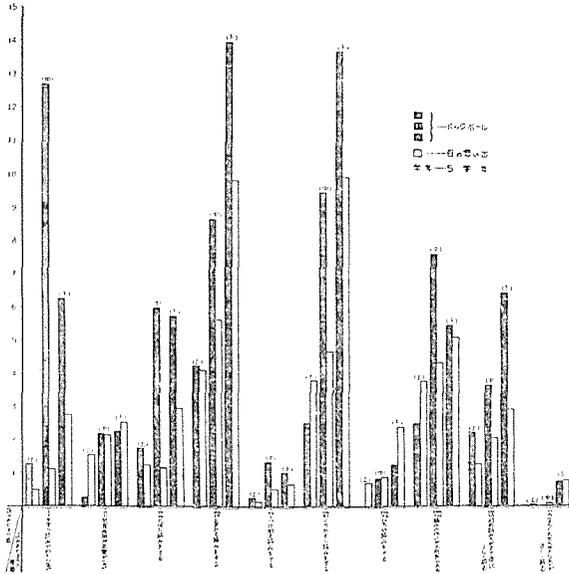
第8図 教材別に見た1人当りの読みあやまり数
(4学年)



第 11 図 国語の学力別に見た 1 人当りの読みあやまり数 (4 学年)



第 12 図 国語の学力別に見た 1 人当りの
読みあやまり数 (5 学年)



(4) 音読の速さの集計

音読の速さについて整理してみると、次のようになった。黙読の場合は当然語数を単位とすべきであるが、音読であるのでいちおう字数を単位として計算した。

(1) 1 年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第 4 表 1 年生の音読の速さ

「あだかすくい」 (総字数 89字)			
	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)
上	16秒 (333字)	37秒 (144字)	21秒 (254字)
中	41秒 (130字)	2分06秒 (42字)	1分15秒 (71字)
下	1分30秒 (59字)	3分05秒 (29字)	2分12秒 (40字)
平均	1分16秒 (1分間 70字)		

(2) 2年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第5表 2年生の音読の速さ

「うし」 (総字数 182字)			
	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)
上	34秒 (321字)	49秒 (223字)	36秒 (303字)
中	42秒 (260字)	1分29秒 (123字)	1分03秒 (173字)
下	47秒 (232字)	3分22秒 (54字)	1分21秒 (135字)
平均	1分 (1分間 182字)		

(3) 3年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第6表 3年生の音読の速さ

(a) 「ゆきだるま」 (総字数 352字)			(b) 「学芸会」 (総字数 374字)			
	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)
上	1分30秒 (335字)	1分18秒 (271字)	1分12秒 (293字)	1分 (374字)	1分37秒 (221字)	1分20秒 (281字)
中	1分11秒 (297字)	1分37秒 (218字)	1分26秒 (246字)	1分18秒 (287字)	2分26秒 (154字)	1分43秒 (218字)
下	1分29秒 (237字)	5分01秒 (70字)	2分43秒 (130字)	1分15秒 (299字)	9分08秒 (41字)	2分39秒 (141字)
平均	1分47秒 (1分間 197字)			1分54秒 (1分間 197字)		
	総平均 1分51秒 (1分間 197字)					

(4) 4年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第7表 4年生の音読の速さ

(a) 「学芸会」 (総字数 374字)			(b) 「まきおさんの病氣」 (総字数 421字)			
	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)
上	1分15秒 (299字)	1分29秒 (252字)	1分22秒 (274字)	1分07秒 (377字)	1分30秒 (280字)	1分19秒 (320字)
中	1分19秒 (284字)	1分50秒 (204字)	1分38秒 (229字)	1分55秒 (220字)	3分22秒 (125字)	2分37秒 (161字)

下	2分41秒 (139字)	3分19秒 (113字)	3分00秒 (125字)	1分29秒 (284字)	7分39秒 (55字)	4分20秒 (97字)
平均	2分 (1分間 187字)			2分45秒 (1分間 153字)		
	総平均 2分23秒 (167字)					

(5) 5年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第8表 5年生の音読の速さ

	(a) 「ドッジボール大会」 (総字数 634字)			(b) 「母の思い出」 (総字数 383字)		
	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)	最短(1分間字数)	最長(1分間字数)	平均(1分間字数)
上	2分23秒 (266字)	3分03秒 (208字)	2分43秒 (233字)	1分17秒 (298字)	1分58秒 (195字)	1分36秒 (239字)
中	2分11秒 (290字)	3分42秒 (170字)	2分55秒 (217字)	1分15秒 (306字)	2分45秒 (139字)	1分55秒 (200字)
下	3分37秒 (175字)	3分50秒 (165字)	3分44秒 (170字)	1分35秒 (242字)	6分13秒 (62字)	2分53秒 (133字)
平均	3分7秒 (1分間 205字)			2分8秒 (1分間 180字)		
	総平均 2分38秒 (1分間 194字)					

(6) 6年生の音読の速さを整理すると、次のようになる。

第9表 6年生の音読の速さ

	「おもしろい言葉」 (総字数 725字)		
	最短(1分間平均字数)	最長(1分間平均字数)	平均(1分間平均字数)
上	2分01秒 (359字)	3分12秒 (227字)	2分30秒 (290字)
中	2分18秒 (315字)	2分40秒 (273字)	2分24秒 (302字)
下	2分44秒 (265字)	6分24秒 (113字)	5分01秒 (144字)
平均	3分18秒 (1分間 219字)		

音読の速さを整理してみると以上のようなになる。ここで注意すべき点を考えてみると、次のようなことがあげられる。

- (1) 初めから学年発達を見るのが目的ではないので、この材料とこの人数では音読の速さの学年発達を示すことにはならない。
- (2) それぞれの学年についていえば、国語の学力の上のものは下のものよりも音読の速さが速いと一般的にはいうことができる。しかし、上と中のグループ、中と下のグループでは、かならずしもそうはいえない。これは、読解力と音読特有の技能とはかならずしも平行するものではないということを示すものである。したがって、黙読と音読とでは、その本質の点でいくつかの相違があることを暗示するものである。
- (3) それぞれの学年の1分間の平均字数をならべると、

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
70字	182字	197字	167字	194字	219字

のようになる。黙読の速さの場合では、材料の性質がひどくちがわない限り、速さは学年的に上昇していくことが報告されている。これに反して、音読の場合は、ある限度まで速すると、速さの上昇が頭打ちになることがいわれている。これは当然なことで、話しことばの場合の速さとだいたい似ていることが、音読では指導目標として考えられているからである。ちなみに、放送などでは、1分間250字から300字ぐらいの速さがいちおうの基準になっている。

V 読みあやまりの事例集

音読にあらわれた読みあやまりの具体的な事例総数 6,134 例を、読みあやまりの 12 分類に整理し、それぞれの分類のなかでさらにこまかく整理したものが次にあげる事例集である。事例を全部のせたのは、これによっていろいろな分析や推定をするための資料が提供できると考えたからである。

分類の項目のうちカクガッコでかこんであるものは、この調査では事例が発見できなかったが、今後の調査のために項目だけをあげたものである。

ほそくて長いたての線は教材で行かえになっている箇所を示すものである。

A, B, C などのローマ字は被調査学校の名まえの略号である。

上, 中, 下は学級内での国語の学力のだいたい程度を示すものである。

1, 2, 3 などの数字は児童数を示すものである。

1. 文字の読みがわからない事例

1 文字の読みがわからない	566
(1) ひらがな	19
(2) かたかな	5
(3) 漢 字	542

文字の読みがわからないという事例について、学年別に 1 人当りの読みあやまりの平均数を出してみると、第 13 図のようになる。

(1) ひらがな (は改行の符号)

めだかが いっぴき はいました。 (C下2)

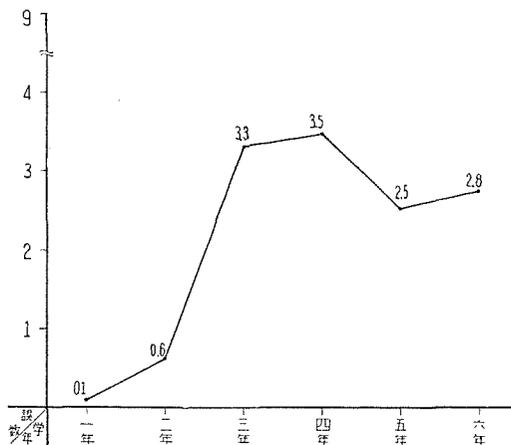
ゆきこさんが いいました。 (C下)
以上 1 年

「おじさん、こうしは。」 (H下)
以上 2 年

一ばん 始めに ゆきこさんが、 (K下)
×

第13図 文字の読みがわからない

(学年別, 1人当りの読みあやまりの平均数)



では これから 始めます。

(K 2)

おいでに × になりました。

(K 下)

練習を × しました。

(K 下)

はじめの × あいさつを しました。

(K 下)

じょうずに × できないのも あります。

(K 下)

×

以上 3 年

じょうずに ×××× できないのも あります。

(C 下)

いっしょうけんめい × 練習を します。

(B 下)

×

以上 4 年

ボールは ××× は × ね返って来た。

(C 中)

ささやかな ××× すまいであった。

(J 下)

いすを出して ××× すわり、

(K 下)

× こっくと自然は色をかえ、

(J 下)

××××

以上 5 年

かけられる ××× ぐらいあいていました。

(G 下)

×××

かけられるぐらいあいていました。
×

(G下)

以上6年

(2) かたかな

「トン, トン トン。」
××

(E下, C下)

「トン, トン トン。」
×

(E下)

「トン, トン トン。」
××

(E下)

以上2年

「シュン。シュン。
×××

(G下)

以上4年

(3) 漢 字

うしを 見に いきました。
×

(C中)(H中)(E下2, H下3)

こちらを 見ました。
×

(C中)(C下, E下)

「よく 見て ござん。」
×

(C下, E下)

じつと 立って います。
×

(E下)

目を 小さく して,
×

(C下)

以上2年

ゆきだるまの形が できました。
×

(C上2)(D中2, C中4)(D下, C下2)

ゆきを固めて ころがしました。
×

(D上2, C上)(C中3)(D下, C下)

みんなは外へ 出ました。
×

(D下2)

「ねえさん ゆきだるまを 作ろう。
×

(D中)(D下)

むぎわらぼうしを 持って きました。
×

(D下)

会場は いっぱいに なりました。
×

(I中, K中)(K下)

会場は～
×

(K中)(I下, K下2)

会場は～
××

(K上4)(K中2, I中)(I下, K下11)

合唱を しました。
×

(K上3)(K中6)(I下, K下6)

合唱を しました。
×

(K上2)(K中5)(K下6)

- 合唱を しました。 (K上2)(K下4)
 ××
 練習を しましたが, (K上3)(K中2)(K下2)
 ×
 練習を しましたが, (I上3, K上5)(I中4, K中6)(I下7, K下9)
 ××
 学芸会が 始まります。 (K上2)(K中2)(K下)
 ×
 学芸会が ~ (K中2)(K下3)
 ××
 学芸会が (K下)
 ××
 学芸会 (I中)(I下2)
 ×××
 これから 学芸会を します。 (K下)
 ×
 春の 使いです。 (K上)(K中4)(I下, K下9)
 ×
 歌を 読みました。 (K中)(K下4)
 ×
 歌を 読みました。 (K下)
 ×
 お話, 歌 おどり (K下)
 ×
 お話, 歌, (K下)
 ×
 学芸会が 始まります。 (K下8)
 ×
 これから 始めます。 (K下2)
 ×
 一ばん 始めに ゆきさんが, (K下2)
 ×
 一ばん 始めに (K下)
 ×
 しかし 力いっぱい します。 (K下3)
 ×
 「風の 子, 雪の 子」 (K下)
 × ×
 「風の 子, 雪の 子」 (K下)
 ×
 と, お客さんが ほめました。 (K下2)
 ×
 だんだん お客さんが, (K下4)
 ×
 みちおくんが 友だちと, (K下)
 ×
 たかしくんが 立って, (K下)
 ×
- 以上3年
- と, お客さんが ほめました。 (B下, C下)
 ×

- だんだん お客さんが 集まって、 (B下, C下2)
 ×
 会場は いっぱいになりました。 (B中)
 ×
 会場は いっぱいになりました。 (C中, B中)(C下2, B下2)
 ××
 「風の 子 雪の 子」の 合唱を しました。 (B中, C中)(B下3, 下3)
 ××
 「わたしは 春の 使いです。」 (B上)(C中)(B下2, C下)
 ×
 いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (B上2)(B中2, C中2)(C下2)
 ××
 学芸会 (C下2)
 ×××
 お話, 歌 (B下)
 ×
 お話, 歌 (B中)
 ×
 しかし 力いっぱい します。 (B下)
 ×
 お客さんが 集まって、 (B下)
 ×
 その時 ふすまがすうっとあいて、 (G下)
 ×
 「まあ、よくねむったこと。気分はどう。」 (G下2)
 ××
 すずめの声が、気持よく聞こえます。 (G下)
 ××
 しめきってあるしょうじに 明かるい冬の日がさして、 (G下)
 ×
 明かるい冬の日がさして、 (G下2)
 ×
 ひとつ大きく息をしました。 (G上2)(G中4)(G下7)
 ×
 静かな朝です。 (G中4)(G下6)
 ×
 脈をみたり、 (G上2)(G中4)(G下6)
 ×
 熱を計ったり、 (G中)(G下2)
 ×
 「あ、熱もありますよ。」 (G下)
 ×
 熱を計ったり、 (G下2)
 ×
 「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」 (G中)(G下)
 ×
 「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」 (G下)
 ××
 顔色が悪いわ。 (G下2)
 ×
 気持よく聞こえます。 (G下2)
 ×
 三日ほど前のことです。 (G下2)
 ×

学校から帰ってきたまさおくんは、 (G下)

のきばで鳴いているすずめの声が、 (G中)(G下)

「シュン。シュン。」と音をたてています。 (G下)

以上4年

こんども六対五で勝ち、 (C中)

じょうずな道男君まで、 (C中3)(C下2)

取り返さないうちに (C中)

かずさんが投げる。 (C下)

春男君が投げる。 (C中)

いよいよ決勝戦に進むことになった。 (C中)

場所をこうたいして、 (C中)

受持の先生が、 (C下)

勢いをもって飛んで来る。 (C下)

東組はぼくたちに、 (C中)

はく手を送ってくれる。 (C中)

全力をつくした。 (C中)

いよいよ決勝戦に進むことになった。 (C中)

いよいよ決勝戦に進むことになった。 (C中2)

そういわれてみると戦う前から (C中2)

戦おうと決心した。 (C中)

人数を調べると、九対八。 (C中)

人数を調べると、九対八。 (C中)

こんども六対五で勝ち、 (C中)

試合が始まった。 (C中)

全校が二つに分かれて (C中)

じょうずに受けて、男子のセンターにわたしていく。 (C中)

じょうずに受けて、男子のセンターにわたしていく。 (C中)

- また外野へ返って来た。 (C中)(C下)
 ×
- 内野と外野のれんらくがじょうずである。 (C中3)
 ×
- 味方はひとり残らず (C中)
 ×
- 味方が、ひとりふたりと、 (C上)(C中3)(C下)
 ×
- この時、味方は三人になっていた。 (C中3)
 ×
- この時、味方は三人になっていた。 (C中)
 × ×
- 見分けもつかないうちに、前半終りのふえは鳴った。 (C中4)(C下)
 × ×
- 相手はこの前ゆう勝した組で、 (C中)
 × × ×
- 相手はこの前ゆう勝した組で、 (C中2)
 ×
- とちゅうで取っては逆にせめてくる。 (C上2)(C中6)(C下3)
 ×
- 後半戦にはいった。 (C上)(C中2)(C下2)
 ×
- 後半戦の始まるふえが鳴った。 (C中2)(C下)
 ×
- 後半戦にはいった。 (C中2)
 × × ×
- 後半戦の始まるふえが鳴った。 (C中)
 × × ×
- また外野へ返って来た。 (C中3)(C下)
 ×
- 取り返さないうちに (C中)(C下)
 ×
- ボールははね返って来た。 (C中)
 × × ×
- 中の休みに、作戦をねった。 (C中3)(C下)
 ×
- 相手は五年西組である。 (C上)(C中)(C下)
 ×
- 勝負の見分けもつかないうちに、 (C中2)(C下)
 ×
- すばらしい勢いをもって、 (C中3)(C下2)
 ×
- 強い勢いのボールが、 (C中2)(C下2)
 ×
- 一方にかたまってはいけない。 (C中)
 ×
- 勝負 (C中2)(C下2)
 × ×
- 母の思い出 (F下)
 ×
- わたくしに教えた。 (F下)
 ×
- 母から教わった。 (J下)
 ×

- 家の中の用事をすませると、 (K下)
 ×
 やがて新聞社から (J下)
 ×
 夕暮れの庭にいすを出して (J上)(K中4)(K下3, J下)
 ×
 青山の夕暮れは (J上)(J中)(K下3)
 ×
 夕暮れの庭に (J上)(F中, K中)(F下, J下, K下)
 ××
 自然が詩のように美しいことを、 (K下2, J下, F下)
 ××
 こっこくと自然は色をかえ、 (K下2)
 ××
 こっこくと自然は色をかえ、 (K中)(F下)
 ×
 自然が詩のように美しいことを、 (K中)(F下2)
 ×
 父を待ったのだった。 (K下4)
 ×
 青山の家は、 (K中)
 ×
 青山の家は、 (J下)
 ××
 空気がすみ、 (J中)(K下)
 ×
 空気がすみ、 (J中)
 ××
 「夕空晴れて」 (K下, J下)
 ×
 「夕空晴れて」 (J上)
 ×××
 「夕空晴れて」 (J下)
 ××
 澁わの鳥が (K上, J上)(K中2, J中, F中)(K下2, J下2, F下)
 ×
 「庭の千草」 (J上)(F中)(F下)
 ×
 「庭の千草」 (J上, F上)(K中, F中)(K下4, J下2)
 ××
 飛び去っていった。 (J中)(F下, J下)
 ×
 学校のころに習った歌だといって、 (J上)(F中, J中2)(K下, F下)
 ×
 習った歌だといって、 (J下)
 ×
 美しい歌声を聞いていた。 (J下)
 ×
 美しい歌声を聞いていた。 (K下)
 ×
 あたりは静かで、 (F下, K下)
 ×
 うたう時ですら (F中)
 ×

以上5年

- 電車が停留所につくと、 (G下)
 ×
停留所につくと、 (C上)
 ×
停留所に着くと、 (C中)(C下2, G下3)
 ××
停留所に着くと、 (G下)
 ×
 ていねいに預かりました。 (C上)(C中3 G中2)(C下2, G下3)
 ×
 取った席を、 (G下)
 ×
席を取りあった。 (G下)
 ×
席をゆずろうと (G下)
 ×
 となりの席を見つけて、 (G下3)
 ×
 おしのけるようにして取った席を (G中)(C下, G下2)
 ×
 いかにも残念そうな、 (G下2)
 ××
荷物を持った人に (G下)
 ×
 初め (G下2)
 ×
 声をそろえて送っていただきました。 (C中)(G下)
 ×
 こんどは安心してかけられました。 (G下)
 ×
前から知っていた (G下)
 ×
 ふたりとも乗るがはやいか、 (G下)
 ×
荷物 (G下)
 ×
停留所に着くと、 (G下)
 ×
荷物を持った人に向って、 (G下)
 ×
 そう言ってから (G下)
 ×
 ゆずり合うように (G下)
 ×

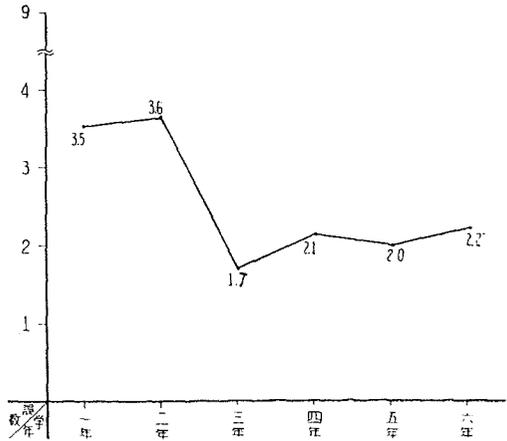
以上6年

2. 発音作用が正常でない事例

2	発音作用が正常でない	575
(1)	不自然な音声で読む	0
(2)	訛音で読む	15
(a)	「ひ」を「し」で	
(b)	その他の訛音で	
(3)	幼児音で読む	7
(4)	アクセントがちがう	79
(5)	イントネーション（口調）がちがう	0
(6)	初めまたは終りの発音がはっきりしない	233
(a)	抵抗を感じる文字が	
(b)	抵抗を感じる単語が	
(c)	助詞が	
(i)	「が」が	(v) 「を」が
(ii)	「は」が	(vi) 「と」が
(iii)	「に」が	(vii) 「で」が
(iv)	「の」が	(viii) 「も」が
(d)	文末が	
(e)	その他が	
(7)	唇読みをしたあとで普通に読む	10
(8)	読みが著しく速くなったり、遅くなったりする	56
(a)	読みが速くなる	
(b)	読みが遅くなる	
(9)	音節の発音が正しくない	185
(a)	長母音を表記する「う」をそのまま機械的に読む	
(b)	つまる音を不正に読む	
(i)	「つまる」音を普通の「つ」で読む	
(ii)	「つまる」音を「のぼす」音に読む	
(iii)	「つまる」音のところだけをつまらないように読む	
(iv)	「つまる」音のつまるところだけをはぶいて読む	
(v)	「つまる」音を不正に読む	
(c)	はねる音を不正に読む	
(d)	よう音を不正に読む	
(i)	よう音を表記するかなをそのまま機械的に読む	

- (ii) よう音のところを不正に読む
- (e) 清音と濁音とを反対にして
 - (i) 清音を濁音で
 - (ii) 濁音を清音で
- (f) その他の音節を不正に読む
 - (i) 「は」を「わ」と
 - (ii) その他を

第14図 発音作用が正常でない
(学年別、1人当たりの読みあやまりの平均数)



発音作用が正常でないという事例について、学年別に1人当たりの読みあやまりの平均数を出してみると、第14図のようになる。

(1) 不自然な音声で読む

(2) 訛音で読む

(a) 「ひ」を「し」で

まくらもとの火しばちにかけた。

(G下)

以上 4年

西組の 人 しと のせなかに投げつけた。

(C中)

わたくしをしひざの上しにのせた。

(K上)(K中2)(K下2)

以上 5年

荷物を持った人しは、

(G下)

こしかけた人しとは、

(G中)

こしかけた人しとを見えています。

(G中)(G下)

初めあんなに席を取りあつた女の 人 しと が、

(C上)(G下)

以上 6年

(b) その他の訛音で

いっしょうけんめい_え 練習をしましたが、 (K中)

以上 3年

と_ゆって、かけようともしません。 (G下)

以上 6年

(3) 幼児音で読む

と、すみこさんが | いいました。 (A下2)

みちおさんが | すく_{しゅ}いました。 (A下3)

すく_{しゅ} | しました。 (A下2)

以上 1年

(4) アクセントがちがう

と、すみこさんが | いいました。 (A上)(A中3)(A下2)

みちおさんが | すく_{しゅ}いました。 (A下)

みちおさんが | すく_{しゅ}いました。 (A下)

と、ゆきこさんが | いいました。 (A下2)

めだかが | いっびき | はいりました。 (A下)

めだかが | すう_{しゅ}と | にげました。 (A下)

みちおさんが | すく_{しゅ}いました。 (A上)(A中)

と、ゆきこさんが | いいました。 (A上2)(A中)(A下2)

まさおさんが | すく_{しゅ}いました。 (A下)

めだかが いっびき (A上)(A下2)

「にげた、にげた。」 (A下3)

以上 1年

よしこさんが、 (E下2)

いちろうさんと、うしを見に いました。 (E下, H下)

ちちを、おいしそうに (E下2)

のんで います。 (E下)

のんで います。 (E下)

こうしは きょんととして、 (E下)

うしを 見に いました。 (E下)

目を 小さく して、 (E下2)

「トッ、トッ、トッ」 (E下)

以上 2年

「たまころがしのようだね。」 (D中)(D下2)

「これを かぶせたら いいよ。」 (D上)

じょうずに できないの も あります。 (I上)

会場は いっばいに なりました。 (K中)

以上 3年

お客さんが ほめました。 (B下)

脈をみたり、 (G下)

あたたかくしてねていたらよくなるよ。 (G下)

まもなく、お医者さんがおいでになって、 (G上)

明かるい冬の日がさして、 (G中)

熱を計ったり、 (G下)
ねつ

まさおくんの顔を見たりなり、 (G下)

以上 4年

～逆にせめて来る。 (C下)

こんども六対五で勝ち、いよいよ～ (C下2)

～つぎつぎにふえてきた。 (C中)

かずがさんが投げる、 (C下)

青山の夕暮れはすばらしかった。 (J上)
ゆうぐ

こっくと自然は色をかえ、 (J中2)

こっくと自然は色をかえ、 (K上)(J中2)(J下)

美しい歌声を聞いていた。 (F下)

目にはじませるくせがあった。 (F上)

ささやかなすまいであった。 (J下)

ささやかなすまいであった。 (F上)

ささやかなすまいであった。 (J下)

自然が詩のように美しいことを、 (F上)

おさない心にしみこませた。 (F中)
こころ

もみじの木が一本はえて、 (K上)

もみじの木が一本はえて、 (F中)

父を待った。 (F中)

空気はすみ、あたりは～ (K下2)

色をかえ、形をかえていった。 (K下)

母は学校のころに～ (K上)
がっ

夕暮れの庭にいすを

(K中)

E. 5年

〔5〕 イントネーション (口調) がちがう]

(6) 初めまたは終りの発音がはっきりしない

(a) 抵抗を感じる文字が

これから 学芸会を します。

(I下)

一ばん 始めに ゆきこさんが、

(K下)

では これから 始めます。

(K下)

以上 3年

「風の 子 雪の 子」

(C下)

お話、歌、おどり

(C下)

学芸会が 始まります。

(B下, C下)

学芸会が 始まりました。

(C下)

以上 4年

東組はぼくたちに、

(C下)

その時受持の先生が、

(C下)

相手はこの前、ゆう勝しただけあって

(C中)

母は、家の中の用事をすませると、

(F上)(J下)

わたくしは母にだかれたまま、

(J下)

母は自然が詩のように、

(J中)

母の顔を見つめて、

(J上)(J中)

母の白い手が、

(J上)(J下)

母と子は、

(J上)

母からおそわった。

(J中)(J下2)

家の中の用事をすませると、

(J中)

帰ってくる父を待つのだった。

(J中)

青山の家は、 (J上)

大空を飛び去っていった。 (J中2)

美しい声で～ (K上)

わたり鳥であるということ、 (F上)

数々の鳥が、 (K中)

以上 5年

電車が停留所に着くと、 (G下)

いかにも残念そうな顔をして、 (F下)

声をそろえて送っていただきました。 (C下)

さっきおしのけるようにして取った席を、 (C中)

さきにししかけて喜んでいた人が、 (C中)

わたくしのとなりの席を見つけて、 (C下)

以上 6年

(b) 抵抗を感じる単語が

と、すみこさんがいいました。 (A上)

と、すみこさんがいいました。 (A中)

ゆきこさんがいいました。 (F下)

まさおさんがすくいました。 (A下)

以上 1年

ころげそうになります。 (E中)

おいしそうに (H下)

かいほおけをたたきました。 (H上)(E中)

以上 2年

ひろしさんが、 (C上)

おいでになりました。ゆきこさんの (K下)

以上 3年

それがわたりで鳥～ (K中)

わたくしのおさない心にしみこませた。(J下)

おさない心にしみこませた。(J上)

～心にしみこませた。(J下)

～心にしみこませた。(J下)

～心にしみこませた。(K下)

～心にしみこませた。(K中)

やがて新聞社から帰ってくる。(J下)

ささやかなすまいであった。(J中)

わたくしをささえた。(J中)

かるい気持で歌をうたう時ですら、なみだを～(K下)

うすやみの中にういて、(J下)

数々の鳥が、あわただしく大空を飛び～(J中)

以上 5年

席をゆずろうとしました。(C下)

おしまいにはゆずり合うようになったのが、(C中)

以上 6年

(c) 助詞が

(i) 「が」が

まさおさんがが すくいました。(C下)

以上 1年

よしこさんが「おじさん～(C中)

おやうしが、じっと立って(H中)

おじさんが、_? 「トン、トン トン」 (E中)(E下)
以上 2年

おどるところが_? かわいいね。 (K中)

たかしくんが_? 立って、 (I下)

みちおさんの おとうさんが_? おいでに～ (K中)
以上 3年

はくしゅが_? おこりました (C下2)

おもしろい ものが_?、たくさん (C中)

みちおくんの おとうさんが_? おいでに～ (C中)(C下)

だんだん お客さんが_? 集まって、 (C上)(C下)

いっしょうけんめい 練習をしましたが、まだ_? (C中)
以上 3年

かず子さんが_? ボールを 受けて、 (C下)

以上 5年

初めあんなに席を取りあった女の人が、_? (G上)(C下)

以上 6年

(ii) 「は」が

めだかは_? すうっと にげました。 (A上)(A下)

以上 1年

たかしくんは、_? 元気な声で～ (K下)

まさおくんたちは、_? 「春がきた。」 (K下)

以上 3年

会場は_? いっぱいに (C下)

まさおくんはねむりからさめました。_? (G下)

以上 4年

わたくしは母にだかれたまま、_? (J下)

自然は色をかえ、 (J上)

空気はすみ、 (J中)

以上 5年

その電車はわりにすいていて (C中)

荷物を持った人は、 (C中)

二人の女の人は、 (C中)

以上 6年

(iii) 「に」が

ころげそうに なります。 (E上)

おいしそうに のんでいます。 (E上)(E中2)

以上 2年

一ばん始めにゆきこさんが、 (K上)

会場はいっぱいになりました。 (K下)

以上 3年

つぎに、みちおくんが、 (C上)

以上 4年

味方は三人になっていた。 (C中)

わたくしをひざの上にのせた。 (K下)

目ににじませるくせがあった。 (J下)

以上 5年

(iv) 「の」が

ゆきこさんの おかあさんも (K中)

以上 3年

じょうずに できないのも あります。 (C下)

以上 4年

少しおそかったので、 (G中)

以上 6年

(v) 「を」が

かいばおけを たたきました。 (E上)
?

以上 2年

ぼくを目がけてボールが飛んで来た。 (C中)
?

うまくれんらくをとって (C中)
?

さかんにはく手を送ってくれる。 (C下)
?

かるい気持で歌をうたう (K上2)
?

母の顔を見つめて、 (J上)(J中)(J下)
?

美しいことを わたくしのおさない心に (F中)
?

大空を飛び去っていった。 (F中)
?

以上 5年

ひとりごとを言っています。 (G下)
?

以上 6年

(vi) 「と」が

こうしは きょんととして (E下)
?

以上 2年

つぎに、みちおくんが 友だちと、 (C上)
?

かわいいね。」と、お客さんが (C下)
?

以上 4年

なかよく話して行かれたことと思います。 (C中)
?

以上 6年

(vii) 「で」が

美しい声でなんべんもうたって、 (J下)
?

以上 5年

(viii) 「も」が

伊きこさんの おかあさんも おいでになりました。 (C上)
?

じょうずに できないのもあります。 (C下)

以上 4年

あるということも、母からおそわった。 (F中)

以上 5年

(d) 文末が

にげました。 (F下2)

はいりました。 (A上)

と、すみこさんが | いいました。 (A下)

「はいった、はいった。」 (A上)

以上 1年

たたきました。 (H下)

うしを 見に いきました。 (H下, E下)

おいしそうに | のんで います。 (E下)

口を うごかして います。 (E下)

「トン、トン トン」 (E中)

以上 2年

たまは だんだん 大きく なって きます。 (D下)

「これを かぶせたら いいよ。」 (D下)

春の 使いです。 (I下)

これから 始めます。 (I下2)

と、いう、歌を 読みました。 (K下2)

いっぱい に なりました。 (I上)

始まりました。 (I下)

たくさん あります。 (K下, I下2)

以上 3年 (B下)

できないのも あります。

では これから 始めます。 (C中)

合唱を しました。 (C下2)

はくしゅが おこりました。 (C下)

「シュン。シュン。」と音をたてています。 (G上)

以上 4年

ほくにわたしてくれた。 (C中)

相手は五年西組である。 (C中)

わたくしをひざの上にのせた。 (K中2)

～ひざの上にのせた。 (J下)

～ひざの上にのせた。 (J上)

父を待つのだった。 (F中)

父を待つのだった。 (J上)

父を待つのだった。 (K下)

父を待つのだった。 (J中)

目ににじませるくせがあった。 (J上)(K中)(J下)

形をかえていった。 (K下)

母からおそわった。 (K下)

以上 5年

「いいんですよ、ありがとう。」 (G下2)

たいへんおもしろいと思いました。 (C中)

かけていらっしゃいよ。 (C下)

以上 6年

(e) その他が

ゆきこさんが いいました。 (A下)

いっびき はいりました。 (F下2)

めだかは すうっと にげました。 (A下2)

すくいました。 (F下)

ゆきこさんが いいました。 (A下)

はいました。 (F下)

以上 1年

こうしは きょとんとして, (E中)(E下)

おいしそうに ので います。 (E中)

よく見て ごらん (H下)

おやうしが, じつと 立って います。 (E下)

ころげそうに なります。 (H下)

かいばおけを たたきました。 (E中)

以上 2年

ねえさんが まゆげや 目を (D下)

むぎわらぼうしを 持って きました。 (D下)

ゆきだるまは おこったように (D下)

その ほか おもしろいものが たくさん あります。 (K下)

おもしろいものが, たくさん あります。 (K下)

おもしろいものが, たくさん あります。 (K下)

「わたくしたちは, (I下)

合唱を しました。 (K下)

合唱を しました。 (I下)

なりました。 (I下)

練習を しました。 (I下)

げきを しました。 (I下)

あちらからも (I上)

「春が きた。」と いう げきを (I上)

いっしょうけんめい 練習を しましたが, (I下)

以上 3年

「わたしは 春の 使いです。」 (C下)
 ?
 まさおくんの 顔を見るなり (G下)
 ?
 顔色が悪いわ。」といいながら、 (G下)
 ?

以上 4年

うまくあたって、 (C中)
 ?
 取り返さないうちに、 (C中)
 ?
 男子のセンターにわたしていく。 (C中)
 ?

決勝戦に進む | ことになった。 (C中)
 ?
 しょうずな道男君まで、 (C下)
 ?
 習った歌だといって、 (J中)
 ?
 習った歌だといって、 (K下)
 ?
 なんべんもうたって、 (J下)
 ?
 なんべんもうたって、 (K上)
 ?
 大きな目ににじませるくせがあった。 (J中)
 ?
 飛び去っていった。 (J上)
 ?
 飛び去っていった。 (J中)
 ?
 用事をすませると、 (J下)
 ?
 美しい歌声を聞いていた。 (J下)
 ?

形をかえていった。 (J中)
 ?
 鳥であるということも、 (K上)
 ?
 いすを出してすわり、 (J下)
 ?
 父を待つのだった。 (J中)
 ?
 父を待つのだった。 (F上)
 ?
 母の顔を見つめて、 (J中)
 ?
 母からおそわった。 (J下)
 ?

ひざの上へのせた。
? (J中)

以上 5年

たいへんおもしろいと思いました。
? (C中)

さっきおしのけるようにして～
? (G下)

ていねいに預かりました。
? (C下)

「あなた、どうぞおかけください。」
? (C下)

以上 6年

(7) 唇読みをしたあとで普通に発音する

めだかは すうっと にげました。
K (C中)

まさおさんが すくいました。
K (C中)

「はいった、はいった。」とゆきこさんが いました。
K (C中)

みちおさんが すくいました。
K (C中)

めだかが いっぴきはいました。
K (C中)

「にげた、にげた。」と、すみこさんが いました。
K (C中)

「にげた、にげた。」
K (C中)

めだかは すうっと にげました。
K (C中)

「はいった、はいった。」
K (C中)

すくいました。
K (C中)

以上 1年

(8) 読みが著しく速くなったり、遅くなったりする

(a) 読みが速くなる

みちおさんが すくいました。
f (C下)

ゆきこさんが いました。
f (C下)

すうっと にげました。
f (A上)

すうっと | にげました。
f (F上)(A下)

みちおさんが | すくいました。
f (F上)

ゆきこさんが | いいました。
f (C下)

「にげた、にげた。」
f (F上)

めだかは すうっと
f (F上)

以上 1年

「おじさん、こうしは。」
f (C下)

いちろうさんと、
f (C下)

おやうしの | ちを、おいしそうに
f (E下)

口を うごかして います。
f (E下)

足が、しっかり | しないので | しょう。
f (C下)

口を うごかして います。
f (E下, C下)

ころげそうに | なります。
f (H下, C下)

おいしそうに | のんで います。
f (E下, C下)

かいばおけを たたきました。
f (E下, C下)

かいばおけを たたきました。
f (C中)

と、ききました。
f (C下)

見に いきました。
f (C下)

以上 2年

おこった ように | なったり、
f (C下)

わらった ように | なったり、
f (C下)

たかしくんが | 立って、はじめの
f (I上)

つぎに、みちをくんが 友だちと、 (K上)
f

ゆきこさ|んの おかあさんも おいでに～ (K下)
f

みちおくんの おとうさんが おいでに～ (K下)
f

ふえがなって、学芸会が始まりました。 (I上)
f

では これら 始めます。 (I中)
f

「風の子、雪の子」の合唱をしました。 (K上)
f

「わたしは 春の 使いです。」 (K下)
f

以上 3年

～ねむりからさめました。 (G下)
f

ふすまがすうとあいて、おかあさんがにこここ～ (G下)
f

三日ほど前のことです。学校から帰ってきた～ (G下)
f

ふとんをしいてくださいました。 (G下)
f

以上 4年

母と子は、やがて新聞社から帰ってくる～ (K下)
f

やがて新聞社から帰ってくる父を～ (K上)
f

やがて新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (K下)
f

小さい庭のすみに、もみじの木が一本はえていた。 (K下)
f

家の中の用事をすませると、夕暮れの庭に (K下)
f

いすを|出してすわり、わたくしを (K下)
f

わたくしをひざの上ににせた。そして、 (K下)
f

母の白い手が うすやみの中にういて、 (K下)
f

習った歌だといって、「庭の千草」や (K下)
f

- 美しい声でなんべんもうたって、わたくし (K下)
 かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
 空気はすみ、あたりは静かで、こっこくと (K中)
 自然は色をかえ、形をかえ～ (K中)
 形をかえていった。 (J中)
 ～あるということも、母からおそわった。 (J中)
 わたくしのおさない心にしみこませた。 (K上)

以上 5年

(b) 読みが遅くなる

- ぼくは、いちろうさんと、うしを見に～ (C中)

以上 2年

(6) 音節の発音が正しくない

(a) 長母音を表記する「う」をそのまま機械的に読む

- めだかはうっと にげました。 (A上)(A下)

以上 1年

ころげうに になります。 (C中3, E中)(C下, E下4)

ぼくは いちろうさんと、 (C下2, H下, E下3)

おいしに のんで います。 (C中2)(C下, E下3, H下4)

以上 2年

ゆきだるまを 作ろう。」 (D下)

「作ろう、作ろう。」 (D下)

しるも うれしに、 (D下)

ゆきだるまは おこったように なったり、 (D中)

むぎわらぼしを 持って きました。 (D下)

もうすぐ 学芸会が 始まります。 (K下3)

と いう、歌を 読みました。 (I下)

以上 3年

「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」 (G下)

「まあ、よくねむったこと。気分はどう。」 (G下2)

いつものような元気がありません。 (G下2)

その時、ふすまがすうっとあいて、 (G下)

以上 4年

あなた、どうぞおかけください。 (G下)

以上 6年

(b) つまる音を不正に読む

(i) 「つまる」音を普通の「つ」で読む

「はいった。はいった」 (C中)(A下, C下2)

「はいった。はいった。」 (C中)(C下)

めだかは すうっと (A下, F下2)

めだかが いっびき (A下, C下, F下2)

以上 1年

足が、しっかり (E下2)

おやうしが、じっと 立って います。 (E下2)

おやうしが、じっと (E下)

以上 2年

「わっしょい わっしょい」 (D下)

「わっしょい わっしょい」 (D下)

おこったように なたたり、 (D下)

わらったように なたたり しました。 (D下)

おこったように なたたり、 (D下)

むぎわらぼうしを 持ってきました。 (D下)

会場は いっばいに (K下)

たかしくんが 立って、 (K下)

以上 3年

脈をみたり、熱を計 ったり、 (G下)

以上 4年

こっこくと自然は色をかえ、 (J中)(J下2, F下, K下)

以上 5年

(ii) 「つまる」音を「のぼす」音に読む

めだかは すうっと (C中)(C下, A下)

以上 1年

しかし 力いっばい します。 (K下)

まもなく ふえがなあって、 (K下)

以上 3年

(iii) 「つまる」音のところだけをつまらぬように読む

おこったように なったり (D下)

しかし 力いっばい します。 (K下)

以上 3年

こっこくと 自然は 色をかえ (F上)(J中)

以上 5年

お荷物があつてたいへんで (G下)

以上 6年

(iv) 「つまる」音のつまるところだけをはぶいて読む

さっきおしのけるようにして取った席を、 (G下)

以上 6年

(v) 「つまる」音を不正に読む

めだかは すうっと (A上)

以上 1年

おやうしが じっと と立っています。
じーっ

(C下)

以上 2年

お こった ようになつたり、
こーっ

(D下)

以上 3年

(c) はねる音を不正に読む

「シ ムン。シ ムン。」

(G中2)(G下4)

「シ ムン。シ ムン。」

(G下)

以上 4年

(d) よう音を不正に読む

(i) よう音を表記するかなをそのまま機械的に読む

こうしは、き ょんととして、
よ

(C中3)(H下2, C下)

足が しっかり しないので | し ょう。
よう

(E上)(C中)(E下2)

こうしは、き ょんととして、
よう

(E下)

以上 2年

はくし ゆ | が おこりました。

(K下)

以上 3年

しめきってあるし ょうじに、
よう

(G下)

以上 4年

(ii) よう音のところを不正に読む

こうしは、き ょんととして、
っ

(E中)(C下2)

こうしは、き ょんととして、
ん

(C中)

こうしは、 き ょんととして、
きーよー

(E下)

以上 2年

まだ | じ ょうずに できないのも あります。
じゅう

(K下2)

まだ | じょうずに できないのも あります。 (K下)
ゆ

はく | しゆが おこりました。 (K中)(K下3)
しゆー

みんな いっ | しようけんめい 練習を (K下)
ゆ

みんな いっ | しようけんめい (K下)
いっしゆ

以上 3年

しめきってある | しようじに明かるい (G下)
ゆう

以上 4年

(e) 清音と濁音とを反対にして

(i) 清音を濁音で

まさおさんが すく | いまし | た。 (A下3)
く

めだか | すくい (A上2)(A下3)
が

以上 1年

おじさん, こう | しは (H下3)
う

ころげ | そうに (H下2)
ご

「トン, トン トン。」 (H下)
ト

以上 2年

「たまころが | しのようだね。」 (D下)
ご

まさお | くんたちは, 「春が | きた。」 (K上2)
だ

はじめの | あい | さつを | しました。 (I上)
ざ

以上 3年

その時, ふ | すまが | すう | とあいて, (G下)
す

学校から | 帰 | ってきた | まさ | おくんは, (G下)
が

静 | か | な朝 | です。 (G下)
が

以上 4年

あ | わ | だ | だ | く | 大 | 空 | を ~ (J上)(J下)
だ

以上 5年

(ii) 濁音を清音で

にげた (F下)
け

ゆきこさんが (F下)
か

以上 1年

おやうしが うごく (E下)
か

足が しっかり しないので (E下)
か

「よく 見て ござらん。」 (H下)
と

「たまころがしのようなね。」 (D上)
か

以上 2年

はくしゅが おこりました。 (K下)
か

おもしろい ものが、たくさん (K下)
か

「春が きた。」 (K下)
か

学芸会が 始まりました。 (K下)
か

お話, 歌, おどり, (I下)
と

以上 3年

のどを見たりして～ (G下)
と

おかあさんがにこにこしながらはいて～ (G下)
か

その時, ふすまがすうっとあいて, (G下)
か

まくらもとの火ばちにかけた, (G下)
は

以上 4年

ぼくを目がけてボールが～ (C中)
か

以上 5年

ひとりはかけられるくらいあいて～ (C上)
く

ひとりごとを言ってます。 (C下)
と

以上 6年

(f) その他の音節を不正に読む

(i) 「は」を「わ」と

めだかが いっぴき | はいりました。
わ

(C下, F下)

「は^わいった、は^わいった。」

(C下, F下)

「は^わいった、は^わいった。」

(C上)(C下, F下)

～後半戦には^わいった。

以上 1年
(C上)

もみじの木が一本は^わえて

(J下)

以上 5年

(ii) その他を

「春^はがきた。」

(K下)

以上 3年

「風^かの子、雪^せの子」

(I中)

たか^たし、くんが立って、

(G下)

たか^たあし

以上 4年

こっくくと 自然^しは色をかえ、

(K中)

青山^あの家は、

(F下)

美しい歌^ご声^{こゑ}を聞いていた。

(F上)

自然^しが詩^しのように～

(F下)

飛^とび去^とっていった。

(F下)

さ^すさやかなす^すまいであった。

(F下)

以上 5年

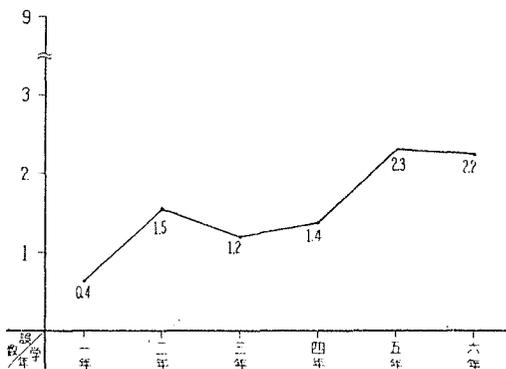
3. とばし読み（省略）をする事例

3. とばし読み（省略）をする	394
(1) 文字をとばして読む	269
(a) 抵抗のある単語のうちの文字を	
(b) 抵抗のある漢字を	
(i) 一部を	
(ii) 全部を	
(c) ほかの単語に読もうとして	
(d) 接頭辞「お」を	
(e) 発音しにくい部分の文字を	
(f) 接尾辞「さん」「たち」などを	
(g) つまる音の「つ」を	
(h) 口調で機械的に	
(i) 行かえの部分の文字を	
(j) 文末の文字を	
(2) 単語をとばして読む	118
(a) 文の意味を変えない単語を	
(b) 文の意味を変える単語を	
〔c) 文の意味は変わらないが、ほかの単語に読もうとして〕	
(d) 文の意味が変わって、ほかの単語に読もうとして	
(e) 抵抗のある単語を	
(f) 助詞を	
(i) 「が」を	(vii) 「か」を
(ii) 「は」を	(viii) 「や」を
(iii) 「に」を	(ix) 「で」を
(iv) 「の」を	(x) 「も」を
(v) 「を」を	(xi) その他の助詞を
(vi) 「と」を	
(g) 文末の単語を	
(3) 文節をとばして読む	4
(4) 句をとばして読む	2
(5) 行をとばして読む	1

とばし読み的事例について、学年別に1人当りの読みあやまりの平均数を

出してみると
第15図のよう
になる。

第15図 とばし読みをする
(学年別、1人当りの読みあやまりの平均数)



(1) 文字をとばして読む

(a) 抵抗のある単語のうちの文字を

まさをさんが すくいました。

(F上)

めだかすくい

(F上)(A下2)

みちおさんが すくいました。

(A下)

以上 1年

「おじさん、こうしは」

(C下)

こうしは きょんととして、こちらを見ました。

(H下)

こうしは おやうしのちちを、おいしそうに

(C下, H下)

「トン、トン トン。」と、かばおけをたたきました。

(H上)(C中)

こうしは、きょんととして、こちらを見ました。

(E上)(C中)

こうしは、きょんととして、こちらを見ました。

(E中)(E下, H下)

こうしは、きょんととして、こちらをみました。

(E上)(C下)

こうしは、おやうしのちちを、おいしそうに～

(C下)

こうしは、おやうしのちちを、おいしそうに～ (C下)

こうしは、きょんととして、こちらを見ました。 (C下)

おやうしが うごとと、ころげそうに なります。 (H下)

おやうしの ちちを、おいしそうに のんでいます。 (C下)

以上 2年

だんだん大きく なっていきます。 (C中)(C下)

うれしそうに、ゆきの 上を 走って いきます。 (D中)

まゆげや 目を いろいろにつけかえると、 (D下)

まゆげや 目を いろいろに つけかえると、 (C中)

「おもしろい、おもしろい。」 (C中)

「おもしろい、おもしろい。」 (C中)

まさおさんが かぶせました。 (C中)

あちらからも こちらからも、 (K中, I中)(I下)

あちらからも こちらからも、 (I下2)

まもなく ふえがなって、 (I中)

以上 3年

あちらからも こちらからも、はくしゅ (C上)

あちらからも こちらからも、 (C上)

あちらからも こちらからも、 (C上)(B下)

あちらからも こちらからも、 (C上)(B下)

「あたたかくして ねいたら よくなるよ。」 (G中)

以上 4年

みんなが、さかんにはく手を送ってくれる。 (C中)

こしから下をねらうので、なかなか取りにくい。 (C中)

すくいあげるようにすると、うまく取ることができた。 (C中)

味方が、ひとりふたりとたおされていく。 (C中)(C下)

みるみるうちに、内野はたおされていって、 (C中)

外野からせめられる時、一方にかたまってはいけない。 (C中)

勝負の 見分けもつかないうちに、 (C下)

内野はたおされていって、 (C中)

味方はひとり残らずたおされてしまった。 (C中)

おうえんだんは、「フレー、フレー」 (C下)

場所をこうたいして、後半戦にはいった。 (C下)

取り返さないうちに、終りのふえが鳴った。 (C中)

大きな 目ににじませるくせがあつた。 (J下)

小さい庭のすみに、もみじの木が (K下)

わたくしのおさない心にしみこませた。 (K下)

わたくしのおさない心にしみこませた。 (K下)

白い手がうすやみの中にういて、 (J中)(J下)

わたくしは母にだかれたまま、 (K中)(K下)

おさない心にしみこませた。 (J中)

大きな 目ににじませるくせがあつた。 (F中)

大きな 目ににじませるくせがあつた。 (K下)

母は学校のころ習った歌だといって、 (K下)

わたくしは母にだかれたまま、 (F下)

青山の家は、ささやかなすまいであった。 (K下)

青山の家は、ささやかなすまいであった。 (K下)

こっこくと自然は色をかえ、 (K上)

こっこくと自然は色をかえ、 (J上)(F下, K下)

こっこくと自然は色をかえ、 (K下)

こっこくと自然は色をかえ、 (K上2)(K中)(K下3, J下)

父を待つのだった。 (J下)

あわただしく大空を飛び去っていった。 (F下)

あわただしく大空を飛び去っていった。 (K下)

歌をうたう時ですら、なみだを大きな目に (F下, K下)

母の白い手がうすやみの中において、 (K下)

教わの鳥が、あわただしく大空を、 (F下)

以上 5年

(b) 抵抗のある漢字を

(i) 一部を

目を小さくして、口をうごかしています。 (E下)

くち

以上 2年

「風の子、雪の子」

かぜ

(K下)

以上 3年

決勝戦に進むことになった。 (C中3)

すす

すばらしい勢いをもって飛んで来る。 (C中)

いきお

相手はこの前、ゆう勝しただけあって、 (C下)

しょう

数々の鳥が、あわただしく大空を (F下)

すう

自然が詩のように美しいことを (J中)
うつく

あわただしく大空を飛び去っていった。 (J下)
ぞら

かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
うた

以上 5年

荷物を持った人に向って、 (G下)
むか

荷物を持った人は、 (G下)
にもつ

以上 6年

(ii) 全部を

目を小さくして、口をうごかしています。 (E下)
こ

以上 2年

お客さんが集まって、会場はいっぱいに (K下)(K中)
あ

みんなが大わらいしました。 (C下)
お

以上 3年

これから学芸会をします。 (C下)
が

「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」 (G下)
が

以上 4年

決勝戦は、六年西組とするのである。 (C中)
が

「相手が六年生だというので、おじている。 (C中)
が

九対八。一点のちがいで勝つことができた。 (C下)
が

「夕空晴れて」や (J上2)(J中2)(F下)
が

美しい歌声を聞いていた。 (F下)
が

以上 5年

電車が停留所に着くと、 (G下)
が

電車が停留所に着くと、 (G下)

以上 6年

(c) ほかの単語に読もうとして

足が しっかり しないので しょう。 (C上)(H下)

足が しっかり しないので しょう。 (E上)

うしを 見に いきました。 (E上)(E下)

以上 2年

ゆきだるまは おこったよになったり、 (C中)

おかあさんも おいでに になりました。 (I中)

「春が きた。」と いう げきを しました。 (I上)

みんな いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (I中)

まだ じょうずに できないの も あります。 (K中)

わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (K下3)(I下)

以上 3年

ゆきこさんが、「わたしは 春の 使いです。」 (C下)

みんな いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (C下)

わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (B下, C下2)

ふすまがすうっとあいて、 (G上)

以上 4年

西組の人のせなかに投げつけた。 (C中)

力いっぱい西組の人に投げつけると、 (C中)

わたくしのおさない心にしみこませた。 (F上, J上2)(J中2)

わたくしは母にだかれたまま、母の顔をみつめて、 (F上2)(J2)

なんべんもうたって、わたくしに教えた。 (J上)(J中2)(J下2, F下)

わたくしのおさない心にしみこませた。 (J中)

白い手がうすやみの中にういて、わたくしをささえた。
(K上, J上)(J下, F下, K下, I下)

わたくしをひぎの上にのせた。 (F下, K下)

父を待つのだった。母の白い手が～ (K下)

以上 5年

わたくしが電車からおりる時には、 (C中)(C下)

わたくしの席には、荷物を持ったおぼさんが、 (G下)

わたくしは、初めあんなに席を取りあった～ (G下)

わたくしのとりの席を見つけて、 (G下)

ひとりはかけられるぐらいあいていました。 (C中)

以上 6年

(d) 接頭辞「お」を

よしこさんが、「おじさん、こうしは。」 (H下)

以上 2年

おかあさんは、まさおくんの顔を見るなり、 (G中)

以上 2年

「では、お荷物を持ちましょう。」 (C上)(C下)

おかけください。お荷物があって、 (G中, C中)(C下)

「お気をつけてね、さよなら。」 (C下)

以上 6年

(e) 発音しにくい部分の文字を

と、おっしゃいました。 (G下)

しめきってあるしょうじに (G下)
以上 4年

(f) 接尾辞「さん」「たち」などを

ゆきこさんが いました。 (F下)

ぼくは、いちろうさんと、うしを見にいきました。
(H上)(C中, H中)(E下, H下2)

よしこさんが「おじさん、こうしは。」と～ (H下)
以上 2年

ひろしさんが、「これを かぶせたら いいよ。」 (C中)

と、ひろしさんがいました。 (C中)

ひろしさんも いました。 (C上, C中)

まさおくんたちは、「春がきた。」という (K中3, I中)(K下2)

わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (K上)(I中)(K下2)
以上 3年

まさおくんたちは、「春がきた。」 (B中)

わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (B下)

以上 4年

(g) つまる音の「つ」を

「はいった。はいった。」と、ゆきこさんが (C下)

めだかが いっびき はいりました。 (C下)

めだかは すうっと にげました。 (A下)

めだかは すうっと にげました。 (A下)

以上 1年

足がしっかりしないのでしょう。 (E下, H下)

以上 2年

しめきつてあるしょうじに明かるい冬の日がさして、 (G下)

まさおくんはにこりしてうなずきました。 (G下)

ねていたら「よくなるよ。」と、おしやいました。 (G下2)

以上 4年

ボールが「ビュウツ、ビュウツ」 (C中)

「ビュウツ、ビュウツ」 (C中)

「もこと元気を出すことだ。」 (C中)

自然は色をかえ、形をかえていった。 (F上3, J上4, K上)(J中3, K中2, F中)(J下2, F下2, K下)

あたりは静かで、ここくと自然は色をかえ、 (F下)

大空を飛び去っていった。 (J上)(J中)(J下3, K下, F下)

以上 5年

さっき おしのけるようにして取った席を、 (C下)

以上 6年

(h) 口調で、機械的に

まさおさんが すくいました。 (A下)

以上 1年

足が しっかり しないので しょう。おやうしが (H上)(C中2, E中)

以上 2年

まゆげや 目を いろいろに つけかえると、 (C中)

以上 3年

おどり げき そのほか おもしろいものが～ (C下)

以上 4年

「フレ_□、フレ_□」 (C下)

「フレ_□、フレ_□」 (C下)

なみだを大き_□な目_□にじませるくせがあった。 (K下)

以上 5年

(i) 行かえの部分の文字を

まさおさんが すくいまし_□た。めだか_□が～ (F下)

以上 1年

わたくしのおさない心_□にし_□みこませた。 (K下)

以上 5年

(j) 文末の文字を

まだ_□ じょうずに できないのも あり_□ます。 (K下)

以上 3年

やかんのお湯が 「シュン。シュン。」と_□ (G上)

「シュン。シュン。」と_□ (G上)

以上 4年

わたくし_□に_□教えた。母はかるい気持_□で (K下)

以上 5年

(2) 単語をとばして読む

(a) 文の意味を変えない単語を

「おもしろい、おもしろい。」_□ とい_□ってみんなが～ (D下)

以上 3年

「ああ、かせ_□だよ。あたたかくしてね_□ていたら～ (G中)(G下)

以上 4年

たおしたり、たおされたり_□して、勝負の見分けも (C上)(C下2)

- 「わアッ」という声¹が聞こえた。(C上)(C中)(C下)
- 母は学校の²ところに習った歌³だ⁴といって、(K下)
- 母⁵と子は、やがて新聞社⁶から帰⁷ってくる (K中)
- わたり⁸鳥である⁹ということも、(K下)
- 以上 5年
- その電車¹⁰はわりにすいていて、わたくしは (C下)
- さっきおし¹¹のけるようにして¹²取った席¹³を、(C中)(C下)
- そう¹⁴言ってから (C中)
- 以上 6年

(b) 文の意味を変える単語を

- 大きい¹のと 小さい²のと、 たまがふたつ³ (C中)
- 以上 3年
- たかしくん⁴は、元気な⁵声⁶で いいました (C下)
- あたたかく⁷して⁸ねていたら⁹ よくなるよ。(G下)
- 以上 4年

[(c) 文の意味は変わらないが、ほかの単語に読もうとして]

- (d) 文の意味が変わって、ほかの単語に読もうとして
- うし¹を 見²に³ い⁴きました。(H下)
- 以上 2年

(e) 抵抗のある単語を

- 前半¹終²りの³ふえ⁴は鳴⁵った。(C中)
- 今度⁶こそ⁷はと、全⁸力⁹をつ¹⁰くした。(C中)
- 歌¹¹をうた¹²う¹³時¹⁴ですら、な¹⁵み¹⁶だ¹⁷を (J下)
- わたくし¹⁸は母¹⁹にだ²⁰か²¹れた²²ま²³ま、母²⁴の²⁵顔²⁶を²⁷見²⁸つ²⁹めて (F下)
- 以上 5年

(f) 助詞を

(i) 「が」を

おじさんが、「トン、トン トン。」と、 (C上)

以上 2年

もう すぐ 学芸会が 始まります。 (K下)

と いって、みんなが 大わらい しました。 (C上)

いっしょうけんめい 練習を しましたが、まだ～ (K中)(I下)

以上 3年

学芸会が 始まりました。 (C下)

練習を しましたが、まだ～ (C下)

いつものような元気がありません。 (G下)

やかんのお湯が「シュン、シュン。」と (G下)

以上 4年

自然が詩のように美しいことを、 (J中)

以上 5年

(ii) 「は」を

ぼくは、いちろうさんと、 (E中)

以上 2年

みんなは 外へ 出ました。 (C中, D中)

以上 3年

たかしくんは 元気な 声で いいました。 (C下)

以上 4年

とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C中)

外野からせめられる時は、たいていかたまっていた (C中)

こんどこそはと、いっしょうけんめいである。 (J中)(C下2)

おうえんだんは、「フレー、フレー」 (C下)

こんどこそはと、全力をつくした。 (C下)(C中)

以上 5年

たいした荷物ではございません。 (C中)(C下2)

おしまいにはゆずり合|うようになったのが (C下)

こんどは安心してかけられま|した。 (C下)

電車からおりる時にはふたりの女の人は、 (G上)(C下)

以上 6年

(iii) 「に」を

おいしそう|にのんでいます。 (E上)

以上 2年

ゆきだるまは おこったよう|になったり、 (I中)

おとうさんが、おいで|になりました。 (K下)

以上 3年

すぐ|に道男君にわたすと、 (C中)(C下)

いっしょ|うけんめいに 戦おうと決心した。 (C上)(C中)(C下)

小さい庭のすみに、もみじの木が (F下)

学校の|ころに習った歌だといって (J上2)(K中)

以上 5年

その電車はわり|にすいていて、 (C中)

わたくしの席|には、荷物を持ったおぼさんが (C下)

初めあんなに席|をとりあった女の人が、 (C下)

電車からおりる時|には、ふたりの女の人は、 (G下)

荷物を持っていた|ために少しおそかったので、 (G上)

(iv) 「の」を

ゆきこさんの おかあさんも おいでに になりました。 (K上)

以上 3年

山本君のボールは、すばらしい勢いをもって (C中)

以上 5年

電車の中でのことです。 (C上)

以上 6年

(v) 「を」を

こうしは きょとんと して、こちらを 見ました。 (C下)

以上 2年

いっしょうけんめい 練習を しましたが (K上)

これから 学芸会を します。 (K下)

「風の 子、雪の 子」の 合唱を しました。 (K中)

以上 3年

全校が二つに分かれておうえんをしている。 (C中)(C下)

場所をこうたいして、後半戦にはいった。 (C上)

以上 5年

(vi) 「と」を

目を いろいろに つけかえると、ゆきだるまは～ (C中)

以上 3年

味方は、ばたばたと たおれていく。 (C中)

西組は、こんどこそはと、いっしょうけんめいである。 (C中2)(C下2)

今度こそはと、全力をつくした。 (C上)(C中)

それがわたり鳥であるということも、 (K下)

以上 5年

(vii) 「か」を

取るかはやいか西組の人のせなかに～ (C下)

以上 5年

(viii) 「や」を

「夕空晴れて」や「ほたるの光」を

(J中)(J下)

以上 5年

(ix) 「で」を

「みんなで おどる ところが かわいいね。」

(K中)(I下)

以上 3年

「みんなで おどる ところが かわいいね。」

(C下)

以上 4年

(x) 「も」を

ゆきこさんの おかあさんも おいでに になりました。

(C下2)

以上 4年

こんども六対五で勝ち、

(C下)

わたり鳥であるということも

(K下)

以上 5年

わたくしのとなりにも、ひとりはかけられるぐらい～

(G下)

かけようともしません。

(G下)

以上 6

(xi) その他の助詞を

あちらからも こちらからも～

(I上2)(I中)(K下)

あちらからも こちらからも

(K下3)

以上 3年

そう言ってから 荷物を持った人に向けて、

(C中)(C下)

以上 6年

あちらからも こちらからも (K下)

以上 3年

(g) 文末の単語を

「トン、トン トン。」と、かいばおけを たたきました。(E上)(C中)(H下)

以上 2年

「風の 子、雪の 子」の合唱を しました。まさおくん～ (K上)

以上 3年

「シュン、シュン。」と音をたてています。しめきって～ (G下)

以上 4年

れんらくのみごとなこと。そのため味方は、 (C下)

以上 年

(3) 文節をとばして読む

たまが ふたつ できました。 (C中)

以上 3年

ボールを受けて、ほくにわたしてくれた。 (C下)

母は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J上)(F下)

以上 5年

(4) 句をとばして読む

しろも うれしそうに ゆきの 上を 走って いきます。 (C中)

以上 3年

母の白い手がうすやみの中_にういて (K下)

以上 5年

(5) 行をとばして読む

まさをさんが すくいまし_た。 めだかが～ (F下)

以上 1年

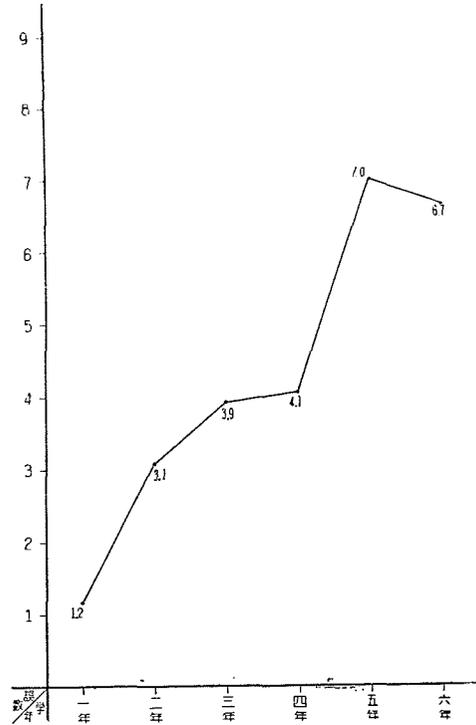
4. おきかえ読み（代置）をすする事例

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 4. おきかえ読み（代置） | 1, 158 |
| (1) 別の音節で読む | 292 |
| (a) 発音の似かよった音節で | |
| (b) 文字の形の似かよった音節で | |
| (c) 全く無関係な音節で | |
| (d) 漢字を他の音または訓で | |
| (e) 音節の順をおきかえて | |
| (2) 別の単語で読む | 866 |
| (e) 発音の似かよった単語で | |
| (i) 文としての意味は通る | |
| (ii) 文としての意味は通らない | |
| (b) 漢字の形の似かよった単語で | |
| (i) 文としての意味は通る | |
| (ii) 文としての意味は通らない | |
| (c) 文字群の形の似かよった単語で | |
| (d) 修飾語の語尾を変えて | |
| (e) 動詞の語尾を変えて | |
| (i) 終止形を中止形で | |
| (ii) 中止形を終止形で | |
| (iii) 現在形を過去形で | |
| (iv) 過去形を現在形で | |
| (v) 「～ていた」と「～た」をおきかえて | |
| (vi) 自動形と他動形をおきかえて | |
| (vii) その他 | |
| (f) 助詞を別の助詞で | |
| (i) 「が」を | (vi) 「と」を |
| (ii) 「は」を | (vii) 「も」を |
| (iii) 「に」を | (viii) 「から」を |
| (iv) 「の」を | (ix) 「で」を |
| (v) 「を」を | (x) 「だ」を |
| (g) 意味が似かよった単語で | |
| (h) 全く無関係な単語で | |
| (i) 文としての意味は通る | |

- (ii) 文としての意味は通らない
- (i) 単語の順をおきかえて
- (j) 別の行の音節や単語で
- 〔3〕 前の行全部を読む

0

第 16 図 おきかえ読みをする
(学年別, 1人当りの読みあやまりの平均数)



おきかえ読みの事例について, 学年別に 1人当りの読みあやまりの平均数を出してみると, 第16図のようになる。

(1) 別の音節で読む

(a) 発音の似かよった音節で

「おじさん, こうしは。」と、ききました。(C下)

「トン, トン トン。」と、かいばおけを。(C下)

おやうしが うごく^こと、 (C下)

こちらを 見^こました。 (E下)

お
ころげ^よそうに なります。 (H中)

以上 2年

「た^まころが^しのようだね。」 (D中)

ま^さを^さんが かぶ^せま^した。 (D下)

いろ^いろに つけ^かえ^すると (C中)

ゆ^きだ^るまの 形^が でき^まし^た。 (D上)

「わたくし^ちは、これ^から 学^り芸^をを しま^します。 (K下)

み^んな いっ^しょう^{けん}めい 練^し習^をを しま^した^が、 (I下)

「み^んなで おど^る と^ころ^が (K下)

「み^んなで おど^る と^ころ^が (K下)

「わ^たし^は 春^の 使^いです。」 (K下)

お^客さんが ほ^めま^した。 (K下)

以上 3年

は^くし^ゅが おこ^りま^した。 (C中)

一^ぱん 始^めに ゆ^きこ^さんが (K下)

以上 4年

「フ^レー、フ^レー」 (C中)

「フ^レー、フ^レー」 (C中)

母^は、家^の中^なか^の用^じ事^ををす^ませ^{ると}、 (F中)

母^は、家^の中^なか^の用^じ事^ををす^ませ^{ると} (K中2)(K下)

母^は、～ (K下2, F下)

母^は、か^るい^気持^で歌^ををう^たう^時です^ら、 (K下)

母^の白^い手^がう^すや^みの^中に^うい^て、 (F下)

は

母からおそわった。 (K中3)(K下3)
 はあ

母の顔を見つめて、 (K中)(K下)
 はあ

母と子は、 (K下)
 はあ

わたくしは母にだかれたまま、 (K中)(K下4, J下)

夕着れはすばらしかった。 (J下2)
 はあ

目ににじませるくせがあった。 (J中)
 べ

目ににじませるくせがあった。 (K下)
 め

わたしをひざの上にのせた。 (K下)
 ず

大空を飛び去っていった。 (J下)
 し

歌をうたう時ですら、 (J中)
 ぶ

数々の鳥が～ (J中)
 い

か

以上 5年

おしのけるようにして取った席を、 (G下)
 た

以上 6年

(b) 文字の形の似かよった音節で

「よく見てごらん。」 (H中)(C下)
 し

こうして、おやうしの (H下)

と、かいばおけをたたきました。 (C下)
 たち

ぼ

以上 2年

「みんなで おどる ところが (K下)
 かわいいね。」
 わる

「 ～ (K下)
 かわいいね。」
 わら

「 ～ (K中)
 かわいいね。」
 お

しかし方いっぱい (K下2)
 します。

まもなくふえが (K中)(K下)
 なる

以上 3年

のどを見たりしていらわれましたが、 (G下)

にっこりしてうたなずきました。 (G下)

まくらもとの火さばちにかけた (G下)

まもなく、お医者ささんが (G下)

また三日まほど前のことです。 (G下)

とあわてて、かふとんをしいていただきました。 (G下)

以上 4年

父を待もつのだった。 (K中)

父を待もちつのだった。 (K下)

わたくしのおさしない心にてみこませた。 (K下)

以上 5年

さききおしのけるようにして取った席を、 (C下)

初めめあんなに席を取りあつた女の人が、 (C中)

あんなにかたけたがっていた人が、 (C中)(C下)

かけようたともしません。 (G下)

自分のひまぎの上なにむりやりに取って、 (G下)

以上 6年

(c) 全く無関係な音節で

「はまいった、はまいった。」 (C下)

まいい (以上 1年)

ころろげろうに になります。 (H下)

「ン、ン トン トン。」 (E下)

「ン、ン トン トン。」 (E下)

「ン、ン トン トン。」 (E下)

「ン、ン トン トン。」 (E下)

- と、かいぼお^こけを たたきました。(E下)
- かいぼお^こけを たたきました。(C下)
- かいぼお^いけを たたきました。(C中)
- こうしは ^いきょんとんとして、(E下)
- 目を ^き小さくして、(E下)
- おやうしが うごく^すと (C下)
- おしや
おやうしが うごく^すと。(H中)
- おやうしが うごく^こと。(H中)
- おやうしが うごく^こと。(C下)
- ころげ^おそうに なります。(H下)
- ころげ^おそうに なります。(E中)
- よろ^てゆき
ころげ^てそうに なります。(H下)
- こうしは ^きょんとんとして、(H上)
- こうしは ^きょん^きょん^きょんとんとして、(H下)

以上 2年

- 「これを かぶ^ぜせたら いいよ。」(C中)(D中)
- ねえさんが、ま^ぜゆげや (D上)
- いろいろに つけ^{だけ}かえると、(D中)
- まさおさんが、かぶ^ぎせました。(D中)
- まさおさんが、かぶ^かせました。(D中)
- たま^ぜころがしのようだね。」(C中)
- し^{たま}るも うれ^いしそうに、(D上)
- いろいろに つけ^まかえると、ゆき^まだるまは (D下)
- おとうさんが、おい^おでに なりました。(K下)
- あ^ちち^ちからも こち^ちからも、(K中)
- あ^ちち^ちからも こち^ちからも、(K上)

じょうずに できないのも あります。
いて (K下)

「春が きた。」 (K中)(K下)

じょうずに できないのも あります。
な (K下)

合 唱を しました。
りんしょう (I下)

げきを しました。
ん (I下)

「わたしは 春の 使いです。」
は (K下)

学 芸会
かんがえ (K下)

しかし 力いっばい します。
ちかい (K下)

以上 3年

まも なく ふえが なって、
もう (B下)

歌を 詠みました。
し (B下)

脈を みたり、熱を 計っ～
くる (G下)

脈を みたり、熱を 計っ～
みやき (G下)

「あ、熱も ありますよ。」
くろ (G下)

あたたかくして ねて いたら よくなるよ。
らっ (G中)

「まあ、どうしたの。
とんしかり (G下)

お 医者さんが おいでになっ
うようき (G下)

元 気が ありません。
ようき (G下)

に こに こし なが らは いって きました。
しぼ (G下)

の きば で 鳴いて いる すず めの 声が、
つて (G中)

以上 4年

相手は 両
 (C下)

こ んど も 六対 五で 勝ち、
は (C下)

い よい よ 決勝 戦 に 進む
てん (C中)(C下)

うまく取る_れことができた。 (C中)(C下)

取り返さないうちに、 (C下)
 づぎづぎと六年をたおしていった。 (C中)
 生

勝負の見分_{よけ}けもつかないうちに (C下)

勝負の見分_うけもつかないうちに (C上)

勝負の見分_つけもつかないうちに、 (C上)

「ビュ_ジウツ、ビュウツ。」 (C中)

「ビュ_ジウツ、ビュウツ。」 (C中)

内野はたおされていって、 (C下)
 あわただしく大空を飛び去っていった。 (K下)

大空を飛び去_こっていった。 (J下)

大空を飛び去_きっていった。 (K下)

ささやかなすまいであった。 (K下)
 からすが

ささやかな すまいであった。 (K下)

さらさらなが (F下)

ささやかなすまいであった。 (F下)
 なーさー

こっこくと自然は色をかえ、 (J中)
 そ

こっこくと自然は色をかえ、 (F下)
 そ

自然が詩のように美しいことを、 (J中)
 く

「庭の千草」 (J上)

「庭の_{はな}千草」 (J中)
 せんばな

母の顔_{こえ}を見つめて、 (K上)

あたりは静_{くら}かで、 (F下)

- あたりは静か^かで、 (F下)
くらかつ
 小さい庭^にのすみ^に、 (K下)
ひる
 こっくと自然^は色をかえ、 (K下)
じてん
 母は、自然^が詩のように～ (K下)
じてん
- おさない心にし^しみこませた。 (J下)
し
- おさない心にし^にみこませた。 (K下)
に
- おさない心にし^みこませた。 (J下)
みさ
- 「夕空晴^てれ」や (J上)(J中)(J下)
ば
- 母の白い手がうすや^すみの中にういて、 (K下)(J下)
す
- 母の白い手がうすや^のみの中にういて、 (K下)
の
- 母は学校の^ところに習った歌だといって、 (K下)
と
- 母は学校の^おころに習った歌だといって、 (J下)
お
- 母は学校の^いころに習った歌だといって、 (J下)
い
- 母からおそ^えわった。 (F下)
え
- 青山の夕暮^ばれはすばらしかった。 (J上)
ば
- 青山の夕暮^それはすばらしかった。 (K下)
そ
- 青山の夕暮^やれは～ (J上)
や
- 数^か々の鳥が、 (K下)
か
- 数^お々の鳥が、 (J上)
お
- 数^わ々の鳥が、 (J中)
わ
- 数^わ々の鳥が、 (J上2)(J中2)(K下)
わ
- 数^お々の鳥が、 (J下2)
お
- 数^お々の鳥が、 (J下2)
お
- 数^わ々の鳥が、 (F中)
わ
- 数^わ々の鳥が、 (F中)
わ
- 「ほたるの光^て」 (F下)
て

目に^しにじませるくせがあった。(J上)
 目に^まにじませるくせがあった。(K中)
 目に^てにじませるくせがあった。(K上)
 かるい^{かえ}気持で歌をうたう時ですら、(K下)
 かるい^も気持で歌をうたう時ですら、(J下)
青山の夕暮れはすばらしかった。(J下)
 なつ

以上 5年

席を^し取られてしまいました。(G下)

ふたりとも^{のりこ}乗るがはやいか (C下)
 ひとり^らはかけられるぐらい (G下)
 やれやれ、^らかけられて助かった。(G下)
 どうしても^えかけようとしません。(G下)
 いかにも^な残念そうな顔をして、(G上)
 「お^{げん}気をつけてね。さようなら。」(G下)
 お荷物が^もあって～ (C下)
 なかよく話して^か行かれたことと思います。(G下)
 なかよく話して^{かえ}行かれたことと思います。(G下)
 さっきお^よしのけるようにして取った席を、(G下)
 自分のひざの上^{ちゅう}にむりやりに取って、(G下)

以上 6年

(d) 漢字を他の音または訓で

会場は いっぱいに なりま^ば (I上)(I中2)(I下2)
 以上 3年

三日 ほど 前のことです。(G下2)
 さんにち
 「あ、熱もありますよ。」(G下)
 あつ

以上 4年

後半戦にはいった。(C中3)(C下2)

こ
後半戦にはいった。(C下)
のち勝負の見分けもつかないうちに、(C上)(C下)
かちまけ

人数を調べると、(C下)

じんすう
男子のセンターに、(C上)(C中)おとこのこ
さかんにはく手を送ってくれる。(C中)て
前半終りのふえは鳴った。(C中)まえ
前半終りのふえは鳴った。(C中)

まえはん

勝負の見分けもつかないうちに、(C中2)(C下2)
ぶんとりわけ女子が(C上)(C下)
おんなのこ西組の人のせなかに(C下)
くみしかし西組もなかなかじょうずである。(C下)
くみ

味方が、ひとりふたり(C下)

ほう
「庭の千草」(F上2)(F中, J中)(F下)せん
「庭の千草」(F下)せんそう
「庭の千草」(J下)せんそ
数わの鳥が、(K中)(K下)かぞ
数わの鳥が、(J中)かぞ
数わの鳥が、(J上, K上)(J中2, K中, F中3)(F下5, K下, J下2)かぞ
数わの鳥が、(J上3)(J下)す
空気はすみ、(K下2)そら
習った歌だといって(F中)しゅう
うたう時ですら、(F中)じ
わたり鳥であるということも(F下)
とり

自然は色をかえ、形をか
かた

(F中, K中)(F下, K下)

青山の家は、
うち

(J上)

以上 5年

(e) 音節の順をおきかえて

こうしは、

(H下)

うご

おや うしが うごく

(C下)

おしゃ

以上 2年

ゆきだるまは おこったように

(D下)

こお

〜かわいいね。

(K下)

わか

じょうずに できないもの あります。

(I中)

以上 4年

にっこりしてうなずきました。

(G下)

ずな

以上 4年

わたくしは母にだかれたまま、

(K中)(F下)

母の白い手がうすやみの中にういて、

(J中)(F下)

みや

あわただしく大空を飛び去っていった。

(J上)(F中)

だた

わたくしに教えた。

(K下)

しく

空気はすみ、

(K下)

みず

以上 5年

(2) 別の単語で読む

(a) 発音の似かよった単語で

(i) 文としての意味は通る

「トン、トン トン。」

(E下)

トコ

以上 2年

わたくしのおさない心にし
ころ

(K中)(F下2)

あわただしく大空を飛び去っていった。
あお

(K上)(J下)

以上 5年

(ii) 文としての意味は通らない

「よく見てごらん。」
きて

(E下)

足が、しっかりしないので
うし

(H下)

以上 2年

まゆげや目をいろいろにつけかえると、
つき

(D上)

いろいろにつけかえると
かけ

(D上)

といって、むぎわらぼうしを持ってきました。
いました

(C上)

はくしゅが おこりました。
あくしゅ

(I下)

以上 3年

男子のセンターにわたし
せーたー

(C下)

以上 5年

こんどは安心してかけられま
かんしん

(C下)

以上 6年

(b) 漢字の形の似かよった単語で

(i) 文として意味は通る

しかし西組もなかなかじゃうずである
四

(C下)

相手は五年西組である
四

(C上)(C下)

相手はこの前ゆう勝ただけ
間

(C下)

以上 5年

(ii) 文としての意味は通らない

のきばで鳴いているすずめの声が、
とり

(G下)

以上 4年

勝負の 見分 けも つかないうちに (C中)
けんぶつ

以上 5年

(c) 文字群の形の似かよった単語で

みちおさんが すくいました。 (A上)(A中)(A下, F下)
みちこ

みちおさんが (A下)
みつお

みちおさんが (A上)(A下)
みつこ

ゆきこさんが いいました。 (A下)
ゆきお

すみこさんが いいました。 (A上)(C中)
みちこ

以上 1年

「おじさん、こうしは。」と (C中, H中2)(H下)
こうして

おやうしが、じと 立って います。 (C中)
うま

こうしは、おやうしの (C中)
うま

こうしは、おやうしの (F中)
うま

おやうしが うごくと、 (H中)

おやごさん (E上)(H下2)
よしこさんが、

よしお
以上 2年

と、ひろしさんも いいました。 (D上, C上)(C下)
ひさし

と、ひろしさんも いいました。 (D中)
ひとし

「たまころがしのようだね。」 (C中)
しょうのようだね

「たまころがしのようだね。」 (C中)
たまころがした

よしこさんが すみを (D上)
よきお

いろいろに つけかえると、 (C中)
けけかけると

ゆきだるまは おこったように (C中)
おっかけたように

しるも うれしそうに、ゆきの 上を (D中)
なき

まさおさんも ゆきの たまを ころがしました。 (D下)
ゆきおさんも

わらったように なったり しました。 (C中)
なりました。

みちおくんが 友だちと (K中2)(K下2, I下)

みちこ (K下)

みちおくんが

みつお (I下)

みちおくんが

みちこさん

ゆきこさ んの おかあさんも (K下2)

ゆきお

たかしくんは、元気な声で (K下)

ただし

たかしくんは、元気な声で (K中)(K下)

たかお

たかしくんが立って、 (K中)

たかお

練習をしましたが、まだ じょうずに (K中)(K下)
また

まさおくんたちは、「春が きた」 (K下)

まささん

まさをくんたちは、～ (I下)

まさか

会場は いっぱいに なりま (K下)
りっぱに

おどる ところが (K下)

こと

とき

では これから 始めます。 (K下)

ここ

以上 3年

おどる ところが (B上)
こと

みんなで おどる ところが (B上)
おどろく

まも なく ふえ が なって、 (C下)
つくえ

みちをくんが 友だちと、 (C下)

みちお

みちおくんが 友だちと、 (B下)

みちこさん

- ゆきこさんの おかあさんも (C下)
 ゆきおくん
- たかしくんが 立って、 (G下)
 たけし
- その ほか おもしろい ものが、 (C中)
 この
- のきばで鳴いているすずめの声が、 (G下)
 のぼって
- あたたかくしてねていたらよくなるよ。」 (G中)
 いらっ しゃいよ
- あたたかくしてねていたらよくなるよ。」 (G下)
 いらっ しゃいと
- あたたかくしてねていたらよくなる。」 (G下)
 よくしてねていたら
- 以上 4年
- 男子のセンターにわたしっていく。 (C下)
 女
- とりわけ女子がぐんぐんせめてくる。 (C下)
 男女
- 母は学校のところに習った歌だといって、 (K下, J下)
 ところ
- 母は学校のところに習った歌だと～ (K下)
 ところ
- 母は学校のところに習った～ (J下)
 こと
- かるい気持で歌を うたう時ですら、 (J中)
 うたったときから
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J中)
 うたうときですから
- こっこくと自然は色をかえ、 (J下, K下)
 こっこつ
- こっこくと自然は色をかえ、 (J上)(F中, J中)(J下2, K下, F下)
 こつこつ
- こっこくと～ (K中, F中2)(K下)
 こっくり
- こっこくと～ (J上)(J下)
 こっく
- こっこくと～ (J上)(J中)(J下, K下3, F下)
 こっこ
- 母にだかれたまま、母の (F下)
 だれかまた
- ささやかなすまいであった。 (K下)
 ささやき

- ささやかなすまい～ (K下)
 ささや
- ささやかなすまいであった。 (K下)
 ささや
- あわただしく大空を (K下)
 あた—たかく
- あわただしく大空を (K中)
 あた—だしく
- それが わたり | 鳥であると～ (J中)
 わたくしの |
- それが わたり | 鳥であると～ (K下)
 わたくし |
- 目に にじませるくせ があつた。 (J下)
 にじめさせてくる
- 目に にじませるくせ があつた。 (K上)
 てくるが
- 目に にじませるくせ があつた。 (J中)
 てくる
- 以上 5年
- さっきおしのけるようにして取つた席を、 (C中)
 おしつける
- さっきおしのけるようにして取つた席を、 (G上)
 おしころげるように
- きのう、電車の中でのことです。 (C下, G下)
 きょう
- わたくしのとなりの席を見つけて、 (G下)
 ところ
- 声をそろえて送ってくださいました。 (G中)
 そろって
- 以上 6年

(d) 修飾語の語尾を変えて

- ゆきだるまは おこつたように | なつたり、 (D中)
 な |
- 元気な 声で いいました。 (K中)
 で
- 元気な 声で いいました。 (K下)
 に
- たかしくんが立って、はじめの | あいさつをしました。 (K下)
 て |
- 以上 3年
- ひとつ大きく息をしました。 (G上)(G下)
 な

とつ大きく息をいしました。(G上)

いつにもいのような元気がありません。(G中)(G下3)

以上 4年

じょうずな道男君まで、たおされてにしまった。(C中)

なみだを大きな目ににじませるくせがあった。(K上)(K中, J中)

あわただしく大空を飛び去っていった。(K上)

小さい庭のすみに～(K上, F上)(F中, J中2)(F下, J下)

なみだを大きな目ににじませる～(J上)

あたりは静かにで、こっこくと～(J上)

以上 5年

前から知っていた人にのように、なかよく～(C下)

以上 6年

(e) 動詞の語尾を変えて

(i) 終止形を中止形で

「はいった、はいった。」(C上)

「はいった、はいった。」(F下)

「にげた、にげた。」(F下)

以上 1年

よしこさんが すみをもってきました。(D下)

以上 3年

と、お客さんが ほめました。(C下)

以上 4年

わたくしに教てえた。(F上)(F下)

ひざの上にのせてた。そしてて。(F中)(F下, K下)

以上 5年

(ii) 中止形を終止形で

まもなく ふえがな^{って}、学芸会が～
なり (K中)(K下)

以上 4年

美しい声でなんべんも^うた^{って}、わたくし
た (K上)(K中, J中, F中)

いすを | 出^して^すわ^り,
た (J下)

自然は色^をか^え, 形^をか^えて^いっ^た。
かえた (K下)

以上 5年

(iii) 現在形を過去形で

ころげそ^うに な^りま^す。
した (E上)(H中)(H下)

じ^っと 立^って います。
した (C中2, H中)

口^を うごか^して います。
した (C中2)

おいしそ^うに | の^んで^いま^す。
した (H中)

以上 2年

ゆ^きの 上^を 走^って い^きま^す。
した (C中)(C下)

以上 3年

しかし力^いっ^ぱい し^ます。
した (B上)

おもしろい も^のが, た^くさ^ん あ^りま^す。
した (C中)(C下)

「シュン。シュン。」と音^をた^てて^いま^す。
した (G中)

ず^っと^ねて^いる^ので^す。
た (G上)

以上 4年

「外野^から^せめ^られ^る時^じ, ~
た (C中)

声^{こゑ}を^から^して ^きけ^んで^いる。
きけんた (C上)

一点のちがいで 勝つ ことができた。
かった (C中)(C下2)

それがわたり 鳥である という ことも、
いった (K下)

かるい気持で歌を うたう 時ですら、
うたった (K下)

帰ってくる父を 待つ のだった。
まったのだ (K下, J下)

帰ってくる父を 待つ のだった。
まった (J下)

以上 5年

電車の中でのことです。
した (C中)

としかけた人を見ています。
した (G中)

以上 6年

(iv) 過去形を現在形に

歌を 読みました。
す (I下)

学芸会が 始まりました。
す (I下)

おかあさんも おいでに なりました。
す (K下)

以上 3年

歌を 読みました。
す (C下)

以上 4年

なかよく話して行かれたことと思います。
る (C下)

以上 6年

(v) 「～ていた」と「～た」をおきかえて

わたくしをささえた。
ていた (K上, F上)(J下)

わたくしのおさない心にし みこませた。
ていた (J中)

美しい歌声を聞いていた。
た (F上)(K中)

形をかえていった。
た (K下)

以上 5年

荷物を持った人は、いかにも～
 っていた (C下)

以上 6年

(vi) 自動形と他動形をおきかえて

おやうしが うごくと、
 かす (H下)

以上 2年

学芸会が 始まります。
 はじめます (K下)

これから 始めます。
 はじまります (K下)

以上 3年

道男君まで、たおされてしまった。
 たおれさせて (C中)

味方はばたばたとたおれていく。
 たおされ (C中)

ひとりふたりと たおされていく。
 たおれさせて (C中)

～しみこませた。
 こまさせ (J上)

かるい気持で歌をうたう時ですら、
 えた (K中)

以上 5年

席をとられてしまいました。
 とらせて (C中)

ていねいに預かりました。
 け (G中)

以上 6年

(vii) その他

「にげた、にげた。」
 にげたら (F下)

以上 1年

じょうずにできないものもあります。
 できて (K下)

以上 3年

お客さんがほめました。
 ほめま (C中)

以上 4年

ボールは はね返って 来た。
 はねて (C中)

外野から せめられる 時、 (C中)
せめられている
 以上 5年

こしから下をねらうので、なかなか取りにくい (C下)
ねらって

色をかえ、形をかえ (K中)
かえて

家の中の用事をすませると、夕暮れの庭に (F中)
せて

わたくしのおなさい心にし み こませた。 (K下)
しま て
 以上 5年

なかよく 話して 行かれたことと思います。 (C下2)
話して
 以上 6年

(f) 助詞を別の助詞で

(i) 「が」を

* 「が」を「は」で

めだかが いっぴき (A中)(A下)
は

みちおさんが すくいました。 (A下)
は

と、ゆきこさんが いました。 (A下)
は
 以上 1年

よしこさんが 「おじさん、 (H下)
は

おじさんが 「トン、トン (H上3)(H中)(H下)
は
 以上 2年

はくしめ が おこりました。 (I中)(K下)
は
 以上 3年

やかんのお湯が 「シュン。 (G下)
は
 以上 4年

かず子さんが、投げる
は (C下)

それがわたり鳥であるということを、
は (F下)

以上 5年

さきにししかけて喜んでいた人が、
は (G上)

以上 6年

* 「が」を「も」で

そのほか おもしろい ものが、たくさん
も (I下)

以上 3年

もみじの木が一本はえていた。
も (J下)

以上 5年

* 「が」を「に」で

おどる ところが | かわいいね。」
に (K中)

以上 3年

学芸会が 始まりました。
に (C下)

以上 4年

うまく取る | ことができた。
に (C下)

自然が詩のように美しいことを、
に (J下)

以上 5年

* 「が」を「を」で

足が、しっかり | しないので
を (C中)

以上 2年

はくしゅ | が おこりました。
を (K下)

以上 3年

ボールが飛んできた。
を (C中)

以上 5年

* 「が」を「の」で

よしこさんが、 | 「おじさん、
の

(C中)

以上 2年

「春が きた」
の

(K中)

以上 3年

みちおくんが 友だちと、
の

(C中)

以上 4年

自然が詩のように美しいことを、
の

(F上, K上)(K中)(K下)

以上 5年

電車が停留所に着くと、
の

(C下)

以上 6年

* 「が」を「や」で

自然が 詩のように美しいことを、
や

(K上)

以上 5年

* 「が」を「から」で

それ が わたり | 鳥であるということを、
から

(J上)

以上 5年

(ii) 「は」を

* 「は」を「が」で

めだかは すうっと |
が

(A上2)(A下)

以上 1年

会場は いっぱいに
が

(K下)

まさおくんたちは、「春が 来た」
が

(I下)

みんなは 外へ 出ました。
が

(D下2)

以上 3年

前半終りのふえはがなった。(C上2)

ぼくは外野にがまわった。(C下)

母と子は、やがてが(J上)

こっこくと 自然は色をかえ、が(J中)

以上 5年

* 「は」を「を」で

こうしは、おやうしの(C中)

「おじさん、こうしをは。」(C中)

以上 2年

ゆきだるまは、おこったようにを(C下)

以上 3年

相手はこの前ゆう勝した組でを(C中)

味方はひとり残らず、を(C下)

こっこくと自然は色をかえ、(K上, F上)(J中)(K下)

以上 5年

* 「は」を「の」で

ぼくは、いちろうさんのと、(C中)

以上 2年

「わたしは 春の 使いです。」(C下)

まさおくんはねむりからのさめました。(G下)

以上 4年

味方は三人のになっていた。(C下)

母は、家の中の用事をすませると、(J上)(K下)

母は学校ののころに習った歌だといって、(K中, J中)(J下2)

以上 5年

* 「は」を「に」で

どの学年も東組はぼくたちに、 (C中)
に

こっくと 自然は色をかえ、 (F下)
に

青山の家は、ささやかなすまいであった。 (J下)
に

以上 5年

* 「は」を「か」で

こうしは きょんとんと して、 (F下)
か

以上 2年

* 「は」を「も」で

まさおくんたちは、「春が きた」 (C中)
も

以上 4年

* 「は」を「と」で

母と子は、やがて～ (K上)
と

以上 5年

(iii) 「に」を

* 「に」を「は」で

つぎに、みちおくんが 友だちと、 (I下)
は

一ばん 始めに ゆきこさんが、 (I下)
は

以上 3年

すぐに道男君にわたすと、 (C中)
は

強くなったぼくらに、相手はあわてだした。 (C中2)
は

以上 5年

荷物を持った人に向って、 (G下)
は

以上 6年

* 「に」を「の」で

つぎに、みちおくんが 友だちと、 (K上)(K中)(K下)
の

以上 3年

つぎに、みちおくんが 友がちと、 (C下)
の

しめきってあるしょうじに|明かるい
の

(G上)

以上 4年

夕暮れの庭に|いすを|出してすわり、
の

(J上)

以上 5年

* 「に」を「で」で

じょうずに|きないのも|あります。
で

(I上)

以上 3年

* 「に」を「を」で

わたくし|に|教えた。
を

(K下)

夕暮れの庭に|いすを|出してすわり、
を

(J中, K中)

以上 5年

* 「に」を「と」で

自分のひざの上|に|むりやりに取って、
と

(C中)

以上 6年

(iv) 「の」を

* 「の」を「と」で

こうしは、おやうしの|ちちを、
と

(H中)(H下)

以上 2年

雪の|子|の|合唱を|しました。
と

(K上2)(K中)(K下)

以上 3年

母の|白い手|がうすやみの中|に|ういて、
と

(F中)

以上 5年

* 「の」を「を」で

雪の|子|の|合唱を|しました。
を

(J下)

- 以上 3年
(J下)
以上 5年
- 母は家の中の用事をすませると、
を
- * 「の」を「に」で
「わたしは 春の 使いです」
に (C下)
以上 4年
- 母は家の中の用事をすませると、
に (F下)
- 小さい庭のすみに、
に (F下)
以上 5年
- * 「の」を「は」で
母の白い手がうすやみの中にういて、
は (J下)
母は、家の中の用事をすませると、
は (J上)
以上 5年
- * 「の」を「から」で
母は、家の中 の 用事をすませると、
から (J下)
以上 5年
- * 「の」を「が」で
まさおくんの顔を見_がるなり、 (G中)
以上 4年
- もみじの木が一本はえて_がいた。 (F下)
以上 5年
- (v) 「を」を
- * 「を」を「か」で
きょんととして、こちらを_か 見ました。 (E中)
以上 2年
- * 「を」を「の」で
学校を休んで、 (G下)
の
以上 4年

美しい歌声を聞いていた。 (J上)

わたくしをひざの上にのせた。 (J中)

わたくしをささえ|た。 (J中2)

以上 5年

荷物を持った人に席をゆずろうとしました。 (C中)

荷物を持ったおばさんが、 (G中)

荷物を持|った人は、 (G中)

以上 6年

(vi) 「と」を

* 「と」を「の」で

友だちと、|「風の子、雪の子」 (K下)

以上 3年

友だちと、|「風の子、雪の子」 (B下)

以上 4年

母|と子は、やがて新聞社から～ (K上)(K下2)

こっくくと自然は色をかえ、 (K中)

以上 5年

* 「と」を「が」で

大きいのと、小さいのと、|たまがふたつ (K下)

* 「と」を「を」で

大きいのと、小さいのと、|たまが ふたつ (C中, D中)

以上 3年

こっくくと|自然は色をかえ、 (F下)

以上 5年

- ～あるということも、母はからおそわった。 (F下)
以上 5年
- * 「から」を「が」で
～あるということも母がからおそわった。 (K下)
以上 5年
- やがて新聞社がから帰ってくる父を待つのがだった。 (F中)
以上 5年
- * 「から」を「で」で
わたくしたちは、これでから学芸会をします。 (K下)
以上 3年
- (ix) 「で」を
- * 「で」を「が」で
みんなが たまを かさね (D下)
- * 「で」を「は」で
みんなはでおどるところが (B上)
以上 3年
- ささやかなすまいがであった。 (J下)
- 鳥がであるということも、 (J下)
以上 5年
- (x) 「だ」を
習った歌をだといって、 (J中)
以上 5年
- (xi) 「や」を
「庭の千草」のや「夕空晴れて」や (K上)
以上 5年
- (g) 意味が似かよった単語で
みちおさんが すくいました。 (F中)
すくった。

みちお さん が (F上)
 ちゃん

「にげた, にげた。」 (C上)(F中)(F下)
 にげました

「にげた, にげた。」 (C上)(F中)
 にげました

めだかは すうっと | にげ ました。 (F中)
 にげて し

めだかが いっぴき | はい りました。 (F下)
 はい っています

めだかが いっぴき | はい りました。 (C上)(F中)(A下)
 はい っていました

めだかは すうっと (C中)
 すいと

以上 1年

ころげ そうに なります。 (C上)
 がる よう

ころげ そうに なります。 (E中)
 よる

ぼくは, いちろう さんと, (H下2)
 くん

こちら を 見ました。 (C上)(C中2)
 こっち

こちら を 見 ました。 (C中)
 見 っていました

以上 2年

たまが ふたつ できました。 (D下)
 ふたっつ

「これを かぶせ たら いいよ。」 (C中)
 かぶらせ

固めて ころ が しました。 (D中)
 ぼ

「たま ころが しの ようだね。」 (D中)
 ぼ

目を いろいろ に つけ かえると, (D下)
 つけ ますと

わらったように な ったり しました (D下)
 な りました

たまは だんだん 大きく (C下)
 どんどん

- まさおさんも ゆきの たまを ころが しました。
ゆきだ るま (C中)
- みんなが 大 わらい しました。
わらい ました (C中)
- ひろしさんが いい ました。
くん (D上)(C下)
- あちら からも こちら からも、
あっち (K中)(K下3)
- あちら からも こちら からも、はくしゅが
あちら こちら からも (K中)
- あちら からも こちら からも、はくしゅが
あちら こちら からも (K上)
- あちら からも こちら からも、はくしゅが
あちら こちら からも (K下)
- あちら からも こちら からも、はくしゅが
こちら (K中)
- あちら からも こちら からも、
あち からも (K下)
- あちら からも こちら からも、
こっ ち からも (K下)
- あちら からも こちら からも、
こっ ち からも (K中)(K下)
- 「わたしは 春の 使いです。」
わたくし (I中)(K下3)
- たかしくんが 立って、は じめの
さん (I中2)(I下)
- たかしくんは、元気な 声で いいました。
さん (I中2)
- まさおくんたちは、
さん (K3)
- じょうずに できない のも あります。
ません (K下)
- じょうずに できない のも あります。
もの (I上, K上3)(K中2, I中)
(K下2, I下2)
- の 合唱を しました。
歌 いました (I中2)(I下2)
- 歌を 読みました。
歌 いました (I下)
- みんな いっしょ うけん めい～
みなさん (I上)
- 学芸会を します。
は じめます (I下2)(K下)

の 合唱 をしました。 (I下)
 しょうか

お客さんが ほめました。 (K中)
 ほめてくれました

以上 3年

はくしめ が おこりました。 (C下)
 おきてき

これから 学芸会を します。 (C上)
 いたします

合唱を しました。 (C上)
 いたしました

あちら からも こちらからも, (C中)
 あちこち

あちらからも こちらからも, (C中)
 あちこち

あちらからも こちらからも, (C中)
 あちらこちら

あちらからも こちらからも (B上)
 あちらか

元気な 声で いいました。 (C下)
 こたえ

「わたしは 春の 使いです。」 (B下)
 わたくし

おいで になりました。 (C下)
 ください

と、お客さんが ほめました。 (C下)
 ほめてしまいました

しかし力いっぱい し ます。 (C中)
 して

だんだん お客さんが 集まって, (B上)(B下)
 さま

はじめの あいさつを しました。 (C下)
 はじまり

じょうずに できない のも あります。 (C中)
 ものも

お医者さんがおいでになっ て, 脈をみたり, (G中)
 なったので

明かるい冬の 日 がさして, (G上)
 日ざし

ひとつ大きく息を しました。 (G下)
 すい

おかあさんがにこにこしながらは行ってきました。 (G下)
 にっこり

- ～にこにこしながら
にこり (G下)
- 学校から帰ってきたまきおくんは、
た (G中)
- ずっとねているのねるです。 (G中)
- あたたかくしてねていたらよくなるよ。
なおる (G中3)(G下)
- 以上 4年
- 見ちがえるほど強く なった ぼくらに、
なってきた (C下)
- すくいあげるようにすると、
ようと (C下)
- たおしたり、たおされたりして、勝負の
たおさしたり (C中)
- と たおされていく。
おと (C下)
- たおされたりして、勝負の 見分けも
決勝 (C中)
- しょうはい (C中)
- こんども 六対五で勝ち、
こんだ (C中)
- 味方は三人になっていた。
き (C上)
- 西組の人のせなかに投げつけた。
ぶこ (C下)
- ボールはは ね返って来た。
か (C中)
- ボールはは ね返って来た。
もど (C中)
- 前半 終りのふえは鳴った。
半分 (C下)
- つぎつぎと六年をたおしていった。
ほった (C下)
- 人数は 調べると、九対八。
調べてみる (C中2)
- 試合が始まった。
まりました (C上)
- 「ワアッ」という声が聞こえた。
わあわあ (C下2)

- いっしょうけんめいに 戦 おうと～
かと (C下)
- そういわれてみると、戦う前から、
れる (C中)
- とちゅうで取っては逆にせめて来る。
せめる (C中)
- 母 は学校のころに～
おかあさん (F下)
- 学校のころに 習った歌だといって、
おさ (K下2)
- おそわ (J上2)(J中3)(J下, F下)
- わたくし に教えた。
てくれた (F上2)
- ～飛び去っていった。
た (J中)(J下3, K下2)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、
うすもや (K下)
- ゆうやみ (K中)
- 母の白い手がうすやみの中に ういて
うごいて (K上)
- うつって (K下)
- 美しい 歌声 を聞いていた。
しょうか (J中)
- 美しい歌声を聞いていた。
いた (J中)(K下)
- 美しい歌声を聞いて いた。
いました (F下)
- 母の顔 を見つめて、
見て (J下)
- 帰ってくる 父 を待つのだった。
おとうさん (F下)
- 帰ってくる父を待つのだった。
でした (K下)
- であった (K中)
- わたくしをささ_ええた。
え_ていた (J中)(J下)
- 母からおそわった。
さ (J上)(J中)(J下)
- もみじの木が一本はえて いた。
ました (K上)
- あった (F下)

「夕空晴れて」や (J中)(J下3, K下, F下)
ぐれ

以上 5年

電車が停留所に着くと、 (C上)(C中)(G下)
しゃ

電車が停留所に着くと、 (G下)
きます

わたくしの席には、 (G下)
方

自分のひざの上にむりやりに取って (G下)
も

自分のひざの上にむりやりに取って、 (C中)
のせて

なかよく話して行かれたことと思います。 (G下)
おはなし

と、ひとりごとを言っています。 (G下)
はなしています

「やれやれ、かけられて助かった。」 (G下, C下)
よ

「おねえちゃん、子供だから (G下)
さん

なかよく話して行かれたことと思います。 (G下)
かえれたと

たいへんでしょうから。 (G下)
すから

その電車はわりにすいていて、 (C下)
わりあいに

なかよく話し合っていました。 (C下)
いまし た

わたくしはこしをかけていました。 (C下)
ました

席を取られてしまいました。 (G下)
いました

その電車はわりにすいて、 (C中)(G下)
この

それからふたりは、前から知っていた人のように (G中)
前前

席を取られてしまいました。 (G下)
れま

こしをかけていました。 (G下)
けま

うれしそうに、ぼつりぼつりと話しました。 (G下)
ぼつり

ぼつりぼつりと話し だした。 (G下)

だしました

さも不思議そうに おっしやった。 (G下)

おっしやいました

以上 6年

(h) 全く無関係な単語で

(i) 文としての意味は通る

まさおさんが すくいまし | た。 (A中)

すくいにゆき | ました

以上 1年

口を うごかして います。 (H下)

いない

「おじさん、こうしは。」 (H上2)(E中)(H下2)

おじいさん

おじさんが, 「トン〜」 (H中, E中)(E下, H下4)

おじいさん

以上 2年

みんなは外へ出 ま | した。 (C中)

出かけましょ

むぎわらぼうしを 持 | って | き | ました。 (D上)

つくって

ゆきの 上を 走 | って | い | き | ま | す。 (C中)

あるいて

もう す | ぐ | 学 | 芸 | 会 | が | 始 | ま | り | ま | す。 (K下)

終り

「風 | の | 子 | 、 | 雪 | の | 子」 (I中2)(K下)

はる

こ | れ | か | ら | 学 | 芸 | 会 | を | し | ま | す。 (K下)

この

おもしろい も | の | が | 、 | た | く | さ | ん (I下)

ものがたり

「風 | の | 子 | 、 | 雪 | の | 子」 (K下2)

冬

元気な 声 | で | い | い | ま | し | た。 (K中)(K下)

かお

と, お答さんが ほ | め | ま | し | た。 (K下)

おか

おと

と, お 答 | さ | ん | が | ほ | め | ま | し | た。 (K下)

とう

「わたしは 春 | の | 使 | い | で | す。」 (K下)

ことり

練習を しました が、 (K下)
はじめました

と いう げきを しました。 (K中)
です

以上 3年

と、お客さんが ほめました。 (C下)

おかあさんが たが
学芸会が 始まりました。 (C中)

級

の 合唱を しました。 (C中)

おはなし

歌を 読みました。 (C下)

ません

まさおくんの 顔を 見るなり、 (G中)(G下)

あたま

ひとつ大きく 息を しました。 (G上)

あくび

「シュン。シュン。」と 音を たてています。 (G中)

こえ

あたたかくして ねていたら よくなるよ。」 (G中)

ねなき いよ

以上 4年

とりわけ女子が ぐん ぐんせめてくる (C上)
ぐみ

逆にせめて来る (C上)

い

ぼくは外野にまわった。 (C中)

内

その時、終りの ふえが 鳴った。 (C下)

かえ

こしから下を ねらうので (C上)(C中)

れ

味方が、ひとりふたり (C上)(C下2)

一方

内野の 味方が つき つきに (C下)

一方

味方は、ばた ばたと たおされていく (C下)

一方

この時、味方は 三人になっていた。 (C下)

一方

春男君が 投げる。 (C下)

うける

うまく取る | ことができた。 (C下)
うけ取る

青 山の家は、 (K中2)(K下4)
青い山

母は かるい 気持で歌をうたう～ (K上2, F上)(K中2, F中2)
あかるい (K下3, F下)

わたくし をささえた。 (J中)

わたくしたちの
青 山の夕暮れはすばらしかった。 (K中)(K下2)
青い山

母 は学校のころに (K下)
ちち

母 は、家の中の用事をすませると (J中)
ちち

わたくし (K上)(K下)

母 は、自然が詩のように～ (K下)
わたくし

わたくし | に教えた。 母 は、 (J中)(F中)
わたし

わたくし | に教えた。 (K上)(K下)
わたくしたち

わたくし をひぎの上にのせた。 (F下)

わたくしたち
飛び去っていった。 (F下, K下)

まわ
まつ (J中)

飛び去っていった。 (K下)
まわっていた

家の中の 用事 をすませると、 (K上)
そうじ

空 気 はすみ、 (J上)(J中)
あおぞら

空 気はすみ、 (J中)
てんき

数 わの鳥が、～ (F下)
なん

数わの 鳥 が、～ (J中)
かも

数 わの鳥が、～ (F下)
なんば

以上 5年

わたくし は | こしをかけていました。 (C上)
わたくしたち

- 荷物を持った おばさん が、 (C中3, G中)
おばあさん
- 初 め あんなに席を取りあった女の人が、 (C下)
はじめて
- 席を見つけて、走って 来 ました。 (G下)
のり
- 前から 知 っていた人のように、 (G下)
おわって
- 声をそろえて送って く ださいました。 (G下)
あいさつしました
- 「ではお荷物を 持 ちましょう。」 (G下)
もってちょうだい
- 荷物を持っていたために少しおそかったので、 (G下)
腰をおろしたのです
- 席を取り あ った女の人が、 (G下)
あえた
- 席を 取 り あ った女の人が、 (G下2)
ゆず
- 席を 取 られて し まいました。 (G下)
取られかかって
- なかよく話し 合 っていました。 (G下)
はじめました
- 声をそろえて送って く ださいました。 (G下)
いって

以上 6年

(ii) 文としての意味は通らない

- こうしは、きょ とんとして、こちらを見ました。 (H上)(H中)
きちん
- ぼくは、いちろうさんと、う しを 見に い きました。 (E下, H下, C下)
うしろ
- 以上 2年
- むぎわらぼうしを 持 って き ました。 (D上)(C中2)(D下)
いきました。
- よしこさんが す みを も って き ました。 (D上)(C中3)
いきました
- わらった よ うに な ったり しました。 (D下2)
り
- わらった よ うに な ったり しました。 (D下)
て
- 「わ た し は 春 の 使 いです。」 (I中, K中)
わたしたち
- 「わ た し は 春 の 使 いです。」 (K下)
ます

おもしろいものが、たくさん あります。
あがり ます (C上)

ふえが なって、学芸会が 始まりました。
なくなっ て (C下)

元気な 声でいいました。
こたえ (K下)

歌を 読みました。
う (K下)

たかしくんが 立って、はじめの あいさつを しました。
うって (I下)

お話、歌、おどり、げき、そのほか
な ど (K中)(I下)

まさおくんたちは、「春が きた」
とも (K上)

じょうずに できないのも あります。
でてない (I下)

と いう、歌を 読みました。
こえ (K中)

学芸会が 始まりました。
あつまりました (K下)

たくさん あります。みんな いっしょけんめい
すみおさんが (K下)

「春が きた」
あき (以上 3年 C下)

春の 使いです。」と いう、歌を 読みました。
こえ (B中, C中)

学芸会が 始まりました。
なりました (C下)

まさおくんは にっこりして う なずきました。
ここに (G中)

学校から帰ってきたまさおくんは、いつ ものよう な
ひと つの (G上)

学校を休んでずっと ねている の こと です。
こと (G下)

まくらもとの火ばち にかけた、やかんの お湯が、
まさおくん (G下)

あた たかくして ねていたら よくなるよ。
あたまが (G下)

すずめの 声が、気 持よく 聞こえます。
きこえる (G下)

学校を休んでずっとねているのです。(G下)

のどを見たりしていられた ましたが。(G中)

「あ、熱もありますよ。」(G下)

熱もありますよ。」とあわててふとんをしいてくださいました。(G下)

その 時、ふすまが すうととあいて。(G下)

以上 4年

男子のセンターにわたし てい く。(C下)

六年を 三 人 たおしただけで、(C下)

こしから下をねらうので、(C下)

「相手が六年生だというので～
外野」(C下)

また外野へ 返て 来た。(C中)

とちゅうで取っては逆にせめて来る(C下)

とちゅうで取っては逆にせめて来る(C中)

とちゅうで取っては逆にせめて来る(C下)

西組の人 に 投げつけると、(C上)

前半終りのふえは 鳴った。(C中)

こ こ くと自然は色をかえ(C中)

かるい気持で歌をうたう時ですら、なみだを(K中)

だ か ら (F中4, J中3, K中2)(F下5, J下4, K下6)

自然は色をかえ、形 を か えていった。(J上)

かるい気持で 歌 を う たう時ですら、(J上)

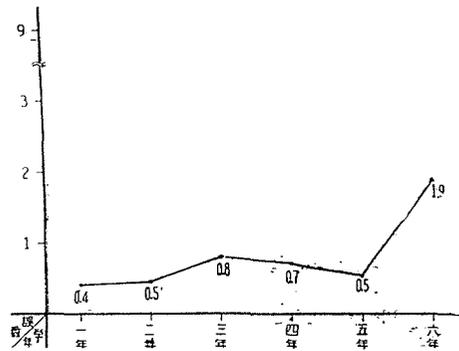
- 学校のころに習った^{うた}歌だといって、 (F上)
こえ
- こっこくと 自然 は色をかえ、 (J中)
じっさい
- 母は、自然 が詩のように美しいことを、 (J中)
じっさい
- ささやかなすまいであった。 (K下)
でした。
- 美しい 歌声 を 聞いていた。 (K下)
かおごえで
- 小さい 庭 のすみに、 (F上)
いえ
- 夕暮れの 庭 にいすを | 出してすわり、 (F中)
いえ
- わたくしを ひざの上 にのせた。 (K下)
さびしい
- ～し みこませた。 (K下)
し てみせた
つく (K下)
- ～し みこませた (K下)
ました
- ～し みこませた (K下)(J下)
み せて
- ～し みこませた (J中)
こさせ
- 数々の 鳥 が、あわただしく (J上)
にわ
- 数 わ の鳥が、～ (J中)
おそわり
- 空気はすみ、 あたりは 静かで、 (J中)
あたらしい
あたたか (F下)
- 家の 中 の用事をすませると (K上)
にわ (K下)
まえ
- 母は、 か るい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
はるかに
- 母は、 か るい気持で歌をうたう時ですら、 (F下)
元気
- 「夕 空 晴れ | て」や (J中)
ばれ

- 「夕空晴れて」や
ぐればれ (J上)(F下)
- 父を待つのだった。
まつそうだ (K下)
- わたくしをささえ
やいた
やいていた (J中)(J下2)(K下2)
(J下)
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。
もり (K下)
- 青山の夕暮れは
ゆうは (F下)
- 以上 5年
- 荷物を持った人は、 (G下)
た
- 荷物を持った人に向かって、 (G下)
ゆず
- 荷物を持った人は、 (G下)
ざせき
- いいえ、たいした荷物ではございません。 (G下)
ざせき
- では、お荷物を持ちましょう。 (G下)
せき
- 荷物を持った人に向かって、 (G下)
ざせき
- お荷物があってたいへんでしょうから、 (G下)
せき
- 荷物を持ったおばさんが (G下)
せき
- 前から知っていた人のように、 (G中)
今
- 荷物を持った人に向かって、 (G下)
こしをかけて
- かけようともしません。 (C下)
しました
- 席を取られてしまいました。 (G下)
ゆず
- おしのけるようにして取った席を、 (G下)
どいた
- (G下)
のこった
- 自分のひぎの上にもりやりに取って、 (C中)
の

5. つけ加え読み（挿入）をする事例

つけ加え読み（挿入）	169
(1) 音節をつけ加えて読む	71
(a) ほかの単語のつもりで読もうとして	
(b) 機械的な言いちがいを	
(c) ていねいな「お」をつけて	
(2) 単語をつけ加えて読む	98
(a) 助詞を	
(i) 「が」を	(vii) 「も」を
(ii) 「は」を	(viii) 「で」を
(iii) 「に」を	(ix) 「ので」を
(iv) 「の」を	(x) 「には」を
(v) 「を」を	(xi) 「など」を
(vi) 「と」を	(xii) 「や」を
(b) 間投詞を	
(i) 「わ」を	(iii) 「の」を
(ii) 「え」を	
(c) 文脈に関係のある単語を	
(d) 機械的な言いちがいを	

第 17 図 つけ加え読みをする
(学年別、1人当りの読みあやまりの平均数)



つけ加え読み的事例について、学年別に1人当りの読みあやまりの平均数を出してみると、第17図のようになる。

(1) 音節をつけ加えて読む

- (a) ほかの単語のつもりで読もうとして

めだかが いっぴき | はいりました。 (C上)

以上 1年

よしこさんが、 | 「おじさん、 こうしは。」 (E下)

こうしは、 きょんととして、 こちらを見ました。 (C中, H中2)(H下5)

以上 2年

わらったように なったり しました。 (D上)

みちおくんの おとうさんが、 おいでに なりました。 (K中)

みちおくんの おとうさんが、 おいでに なりました。 (K中)

はじめの あいさつを しました。 (I下)

「春が きた」 | と いう げきを しました。 (K下)

「春が きた」 | と いう げきを しました。 (K中)(K下)

以上 3年

「春が きた」 | と いう げきを しました。 (C下)

明かるい冬の日がさして、 のきばで鳴いている (G下)

のどを見たりしていられましたが、 (G中)

以上 4年

とりわけ女子がぐん | ぐんせめてくる。 (C中)

すくいあげるようにすると、 (C上)

内野の味方がつぎつぎに | ふえてきた。 (C下)

こっこくと自然は色をかえ形をか | えていった。 (J下)

新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (K下)

わたくしのおさない心にし^て | みこませた。 (J下)

わたくしのおさない心にし | みこませた。^め (F下)

その電車はわりにすいていて、 (G下)

どうしてもかけようとしません。^わ (G下)

おそかったので、席を取られてしまいました。^ま
^{のり} (G下)

以上 6年

(b) 機械的な言いちがい

「にげた、にげた。」 | と、すみこさんが | いいました。^み (A上)(A下)

「にげた、にげた。」 | と、すみこさんが | いいました。^い (F下)

みちおさんが | すくいました。^{さん} (C下)

みちおさんが | すくいました。^い (A下2)

すうっと | にげました。 | 「にげた。にげた。」^{にげま} (A下)

「にげた、にげた。」^{げん} (F中)

以上 1年

おやうしが、じっと 立^かって います。 (E下)

以上 2年

たまが、ふたつ できました。 | 「わっしょい」^{ふた} (C下)

よしこさんが すみを | もって きました。^お (C下)

しかし力いっぱい し | ます。^し (I下)

お話 歌 おど | り げき そのほか〜^し (I下)

- 「わたくしたちは、これから 学芸会を します。
^{いー} (I下)
- 「わたしは 春 の 使いです。」
^{はある} (K下)
- ひとつ大きく息をしました。
^め (G下)
- 静かな朝です。まくらもとの火ばちにかけた
^ふ (G下)
- 「ワアッ」という～
^あ (C下)
- 「ビュ | ウッ、 ビュウッ。」
^ン (C中)
- 数々の鳥が
^り (K中)
- それがわたり | 鳥であるということも、
^っ (F中)
- おさない心にし | みこませた。
^さ (K下)
- 目ににじませるくせがあった。
^る (K下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。空気はすみ、
^{エー} (F中)
- 空気はすみ、
^{エー} (F中)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、
^{エー} (F中)
- 形をかえていった。数々の鳥が、
^{エー} (F中)
- 電車の中でのことです。
^こ (C下)
- その電車はわりにすいていて、
^た (C下)
- それからふたりは前から知っていた人のように、
^あ (G中)(G下2)
- 乗りこんで来ました。ふたりとも | 乗るがはやいか、
^あ (G中)
- 以上 6年

(c) ていねいな「お」をつけて

- 「わたしは 春の 使^おいです。」 (I中)(I下2)
- みちおくんが、友だちと、 (I中)(I下)
- お話^お、歌、おどり そのほか～ (I下)
- 以上 3年
- といて、かけようとしません。 (G下)
- 「では、お荷物^おを持ちましょ^おう。」 (C下)
- 以上 6年

(2) 単語をつけ加えて読む

(a) 助詞を

(i) 「が」を

- じょうずに できないの^おも^があります。 (I中)
- 以上 3年
- じょうずに できないの^おも^があります。 (B上)
- 以上 4年
- 目ににじませるくせ^おがあ^がった。 (J中)
- 以上 5年

(ii) 「は」を

- 学会^おが 始^はまります。 (I下)
- だんだん お客^おさんが、集^はまって、 (J下)
- たかしくんが 立^おって、はじめの あい^はきつを (I下)
- お客^おさんが ほ^はめました。 (I下)
- 以上 3年
- じょうずに できないの^おも^はあります。 (B上)

- 以上 4年
(C中)
「外野からせめられる時、一方にかたまっては～
見ちがえるほど強くなったほくらに、相手は
「夕空晴れ | て」や
あなた、どうぞおかけください。
どうしてもかけようとしません。
(iii) 「に」を
たまが、ふたつ | できました。
いよいよ決勝戦に進む | ことになった。
場所をこうたいして、後半戦にはいった。
れんらくのみごとなこと。そのため、味方は、
青山の家は、ささやかなすまいであった。
(iv) 「の」を
お話、歌、おど | り げき、そのほか
「風の 子、 雪の 子」
「風の 子、雪の 子」 | の 合唱を しました。
おど | り、げき、その ほかおもしろいものが、
おど | り、げき、その ほか

まさおくんは、ひとつ大きく息をしました。(G上)(G下2)

「まあ、どうしたの。^の顔色が悪いわ。」(G下)

以上 4年

空気はすみ、あたりは静かで、(J下)

目ににじませるくせがあった。(J中)

もみじの木が一本はえて | いた。(J下)

なんべんもうたって、わたくし | ^のに教えた。(K下)

以上 5年

ふたりとも | 乗るがはやいか。(G中, C中)(G下)

となりに、ひとり ^のはかけられるぐらい (G下)

ひとり | ^のは荷物を持っていたために (C中)

きのう、電車の中でのことです。(G下2)

と、さっきおしのけるようにして取った席を、(G下)

以上 6年

(v) 「を」を

よしこさんが、 | 「おじさん、こうしは。」(C下)

以上 2年

お話、歌、おど | ^をり、げき、そのほか (K下3)

以上 3年

お話、歌、おど | ^をり、げき、 (C下)

以上 4年

こしかけた人を見えています。(C中)(C下)

^を

さきにししかけて喜んでいた人が (C上)(C中)
^を

以上 6年

(vi) 「と」を

足が、しっかり ^と しないので | しょう。 (E上)(C中)

よしこさんが、| 「おじさん、 ^と こうしは。」 | と、ききました。 (C下)

以上 2年

学芸会を ^と します。お話、歌、 (K下)

方いっばい し | ^と ます。では これから (I中)

お話、歌、おど | ^と り、げき (I中)

以上 3年

かずさんが投げる、 ^と 春男君が投げる。 (C中)

新聞社から帰ってくる ^と 父を待つのが。 (J上2)(J下)

以上 5年

かけていらっしやい | ^と よ。」 | そういってから (C中)

以上 6年

(vii) 「も」を

ゆきこさ ^も | んの おかあさんも (K下)

その ^も ほか おもしろいものが、 (I下)

以上 3年

が、もうおそく | ^も 取り返さないうちに、 (C下2)

小さい庭のすみに、 ^も もみじの木が一本~ (J中)

以上 5年

どうしてもかけようとしません。 (G中)(C下)
^も

以上 6年

(viii) 「で」を

じょうずに できないのも あります。 (K下)
^で

あちらからも こちらからも、はくしゅ | が (K下)
^で

おど | り、げき、そのほか～ (K下)
^で

では これから 始めます。」 (K下)
^で

以上 3年

(ix) 「ので」を

帰ってくる父を待 っ のだった。 (J下)
^{まったので}

以上 5年

(x) 「には」を

たくしは母にだかれたまま、母の顔 | を見つめて、 (F中)
^{には}

以上 5年

(xi) 「など」を

お話、歌、おど | り、げき、 (I下)
^{など}

以上 3年

(xii) 「や」を

お話、歌、おど | り、げき、 (K下)
^や

以上 3年

(b) 間投詞を

(i) 「わ」を

「はいった、はいった。」 (C上2)(C中)
^わ

「はいった、はいった。」 | と、 (C上)
^わ

以上 1年

(ii) 「え」を

おどる ところが | かわいいね。^え (K下2, I下)

以上 3年

おどる ところが | かわいいね。^え (B中, C中)

以上 4年

(iii) 「の」を

おどる ところが | かわいいね。^の (I下)

以上 3年

(c) 文脈に関係のある単語を

「ねえさん、ゆきだるまを | 作ろう。」 (C中)

よ, 作ろうよ
お客さんが、集まって、会場は いっぱいに (I下)

きて
力いっぱい | します。では これから 始めます。」 (I下)

以上 3年

まさおくんはにっこりしてう | なずきました。^{こう} (G中)

以上 4年

それがわたり | 鳥であるということも、^{こと} (J上)

それがわたり | 鳥であるということも、^{こと} (K下)

以上 5年

と、さっきおしのけるようにして取った席を、^{他人を} (G上)

取った席を、ゆずろうとしました。^{どうぞと} (C中)

こしかけた人は、^{すこし} (G下)

以上 6年

(d) 機械的な言いちがいを

春の 使いです。」 | という、歌を 読みました。^{と話} (C下)

すずめの声^きが、気^く持よく聞こえます。(G下)

以上 4年

学校のころに習った歌だといって、「庭の千草」や^おり

(F下)

かるい気持で歌をうたう時^こですら、

(J下)

以上 5年

6. くりかえし読み(くりかえし)をする事例

くりかえし読み(くりかえし) 1378

(1) 文字をくりかえして読む 833

(a) 単語の初めの文字を

(i) 固有名詞の文字を (iv) かたかなを

(ii) ひらがなを (v) その他を

(iii) 漢字を

(b) 単語の中間の文字を

(c) 単語の終りの文字を

(d) 前の単語の終りの文字とあとの単語の文字を

(e) 単語とその前後の文字または単語を

(2) 単語をくりかえして読む 345

(a) 文の初めの単語を

(i) 固有名詞を (iii) 漢字ではじまる単語を

(ii) ひらがなではじまる単語を (iv) かたかなを

(b) 文の中間の単語を

(i) ひらがなではじまる単語を

(ii) 漢字ではじまる単語を

[(iii) かたかなを]

(c) 文の終りの単語を

(d) 助詞が

(i) 「が」を (iii) 「に」を

(ii) 「は」を (iv) 「の」を

(v) 「を」を

(viii) 「で」を

(vi) 「と」を

(ix) その他の助詞を

(vii) 「も」を

(3) 文字や句をくりかえして読む

201

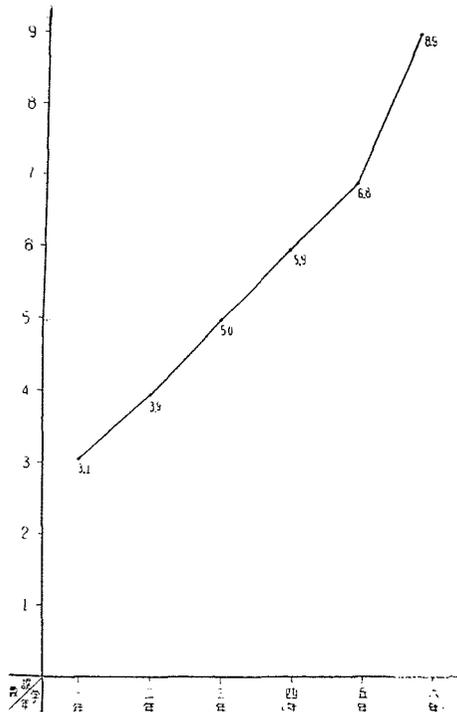
(a) ひらがなではじまる文節や句を

(b) 漢字ではじまる文節や句を

(c) かたかなではじまる文節や句を

第 18 図 くりかえし読みをする

(学年別, 1人当りの読みあやまりの平均数)



くりかえし読みの事例について, 学年別に1人当りの読みあやまりの平均数を出してみると, 第18図のようになる。

(1) 文字をくりかえして読む

(a) 単語の初めの文字を

(i) 固有名詞を

みちおさんが すくいました。 (C上)(C中2, A中, F中)(F下)

みちおさんが すくいました。 (C中)(F下)

みちおさんが すくいました。 (A下, F下)

すみこさんが いいました。 (F中)(F下, A下)

すみこさんが いいました。 (C中, F中)(C下, F下3)

すみこさんが いいました。 (C上)

ゆきこさんが いいまし | た。 (C上)(A中)(A下)

ゆきこさんが いいまし | た。 (F下)

ゆきこさんが いいまし | た。 (F下)

まさおさんが すくいまし | た。 (A上)(F中)(A下, F下)

まさおさんが すくいまし | た。 (C中)(F下)

以上 1年

しろもうれしそうに ゆきの上を走って～ (D中)

いちろうさんと、うしを 見に いきました。 (C中)

いちろうさんと、うしを 見に いきました。 (H下)

いちろうさんと、うしを 見に いきました。 (E上)

よしこさんが、 | 「おじさん、こうしは」 (H下2)(C下)

よしこさんが、～ (H中)

以上 2年

ひろしさんも いいました。 (D下)

ひろしさんが いいました。 (D中)(D下2)

まさおさんが いいました。 (D下)

ゆきこさ | んの おかあさんも おいでに になりました。 (K中)

ゆきこさ | んの～ (I下)

- たかしくんが 立って、はじめの～ (K上)(K下2)
- たかしくんが 立って、 (K下2)
- たかしくんが 立って、 (K中)
- たかしくんは、元気な 声で (K下)
- 始めに ゆきこさんが、 「わたしは 春の 使いです。」 (K下2)
- 始めに ゆきこさんが、 ～ (I中)(K下)
- まさおくんたちは、「春が きた」 (K下)
- みちおくんの おとうさんが、 (K中3, I中)(I下, K下)
- みちおくんの おとうさんが、 (K下2)
- みちおくんの おとうさんが、 (I中)
- つぎに、みちおくんが 友だちと、 (K中)(I下)
- つぎに、みちおくんが 友だちと、 (K上)(K下, I下)
- つぎに、みちおくんが 友だちと、 (I中)(K下)
- 以上 3年
- 一ばん 始めに ゆきこさんが、 (B下)
- ゆきこさ | んの おかあさんも (C下)
- ゆきこさ | んの おかあさんも (B下)
- たかしくんが 立って、 (B中)
- たかしくんが 立って、 (C上)(B下)
- たかしくんは、元気な声で (C下2)
- つぎに、みちおくんが 友だちと、 (C下)
- つぎに、みちおくんが 友だちと、 (B上)(B中)
- みちおくんの おとうさんが、 (B下)
- まさおくんたちは、「春が きた」 (C中)
- まさおくんたちは、「春が きた」 (C中)
- まさおくんは、ねむりからさめました。 (G中)

学校から帰ってきたまさおくんは、 (G下)

まさおくんの顔を見 | るなり、 (G下)

以上 4年

じょうずな道男君まで、たおされてしまった。 (C中)

青山の家は、ささやかな～ (K下, F下)

青山の家は、ささやかな～ (K下)

青山の夕暮れはすばらしかった。 (J上)(K中)(K下)

以上 5年

(ii) ひらがな

めだかが いっぴき | (F下)

めだかが いっぴき | (C中)

めだかすくい (A上)(A中)(F下)

めだかすくい (A上)

めだかは すうと | (C中)

めだかが いっぴき | (F下)

めだかすくい (A下)

まさおさんが すくいました。 (C上)(F中)

まさおさんが すくいました。 (A中, C中2)(A下, C下)

まさおさんが すくいました。 (A上)(A中, F中)(A下)

みちおさんが | すくいました。 (A下)

ゆきこさんが いまし | た。 (F下)

ゆきこさんが いまし | た。 (C中)

ゆきこさんが いまし | た。 (C中)

めだかは すうと | にげました。 (F2)

めだかは すうと | にげました。 (A中, C中)(F下, A下)

- めがかは すうっと | にげました。 (A上)
 「にげた, にげた。」 (C上)(C下2, A下)
- めだかが いっびき | はいました。 (F下)
 めだかが いっびき | はいました。 (A下, F下)
 「はいった, はいった。」 (A下)
 「はいった, はいった。」 (A下2)
- めだかは すうっと | (F中)(F下, C下)
 めだかは すうっと | (A下2)
 以上 1年
- ぼくは, いちろうさんと, (H下)(C下)
 きょんとんとして, こちらを~ (F下)
- おやうしが, じっと (H上)(H中, C中) (H下2, E下)
 「おじさん, こうしは。」 (H上)(E中, C中)(H下)
 「おじさん, こうしは。」 (H上2, C上)(E中)
 こうしは, きょんとんとして, (E中)(H下2, C下)
こうしは きょんとんとして, (C中)
- こうしは, おやうしの | (E中)(H下2)
こうしは, おやうしの | (H下)
おやうしが, じっと 立って います。 (E下)
- こうしは おやうしの | ちちを, (H下)
 こうしは おやうしの | ちちを, (C上)(H下, C下)
- おやうしが うごく | (E中)(H下)
おやうしが じっと 立って います。 (E下)
- おじさんが, 「トン, トン トン。」 (E下)

- おじさんが、 | ~ (C中)
- 「おじさん、こうしは。」 (H中)(H下)
- と、かいばおけを たたきました。 (C中2)
- と、かいばおけを たたきました。 (H下)
- 「いた、いた。」 (H下2, H下)
- おやうしが うごくと | ころげそうに なります。 (E下)
- おやうしが うごくと | ~ (E上)(H下)
- おやうしが うごくと | ころげそうになります。 (H下2)
- 足がしっかり しないので | (C中2)
- 足がしっかり しないので | (C下)
- 足がしっかり しないので | しょう。 (E下2)
- 足がしっかり しないので | しょう。 (E下)
- と、ききました。 (C中)
- と、ききました。 (H下2)
- ころげそうに なります。 (E上)
- うしを 見に いきました。 (E上)
- おいしそうに のんで います。 (C下)
- かいばおけを たたきました。 (H中)
- 足が しっかり しないので | (C下2)
- こうしは きょんとんとして、 (E中)(H下)
- | ちちを、おいしそうに | (C中)
- 以上 2年
- たまはだんだん大きく | (D下)
- たまがふたつできました。 (D下)
- 「たまころがしのようだね。」 (C中)

- 「たまころがしのようだね。」 (D上)(C中)
- 「たまころがしのようだね。」 (D下)
- 「たまころがしのようだね。」 (D上)
- ゆきの | たまを ころがしました。 (C下)
- むぎわらぼうしを 持ってきました。 (C下)
- むぎわらぼうしを 持ってきました。 (C下)
- 「ねえさん、ゆきだるまを作ろう。」 (D下)
- ゆきだるまは おこったように | (C下)
- ねえさんが まゆげや | (D下, C下)
- たまが ふたつ できました。 (D中)
- 目を いろいろに つけかえると、 (C中)
- 固めて ころがしました。 (C上)(D下)
- たまを ころがしました。 (C中)
- おこったように | なったり、 (D下2)
- | なったり、わらったようになったり～ (D上)
- まさおさんが かぶせました。 (D中)
- まさおさんが かぶせました。 (C中)
- 「これを かぶせたら いいよ。」 (C中)
- 「これを かぶせたら いいよ。」 (D下)
- | と いって、 (D下)
- みんなで たまを かさね | ました。 (D下)
- 「わっしょい、わっしょい。」 (C下2)
- 「わっしょい、わっしょい。」 (D下)
- あちらからも こちらからも、 (K下3)
- 「わたくしたちは これから～ (K中)

- 「わたくしたちは、これから～ (K中)(K下3, I下)
- 「わたくしたちは、これから～ (K下)
- 「わたくしたちは、これから～ (K下, I下)
- 「わたしは 春の 使いです。」 (I下)
- お話, 歌, おどり, げき (K中)
- まも なく ふえが なって, (I上)(K下4)
- はくしゆが おこりました。 (I上)
- はくしゆが おこりました。 (K下)
- だんだん お客さんが 集まって, (K中)(K下)
- お客さんが ほめました。 (K下)
- みちおくんの おとうさんが, (K下)
- ゆきこさんの おかあさんも おいでに (K下)
- 「みんなで おどる ところが (I中)(K下)
- はじめの あいさつを しました。 (K下)
- 「じょうずに できないのも あります。 (K中)
- だんだん お客さんが 集まって, (I下)
- まも なく ふえが なって, (K上)(I下, K下2)
- みんな いっしょうけんめい 練習を～ (K下2)
- みんな いっしょうけんめい 練習を～ (K下)
- 「みんなで おどる ところが (K上)(K下)
- みんな いっしょうけんめい 練習を (K中) K下)
- これから 学芸会を します。 (I下)
- これから 学芸会を します。 (K下, I下)
- では これから 始めます。 (I下)
- しかし 力いっぱい します。 (K中)(K下2, I下)
- いっしょうけんめい 練習を しましたが, (K中)(I下2)

いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (K下)

これから 学芸会を します。 (K中)

合唱を しました。 (I下)

たくさん ありま | す。 (K中3)(K下, I下)

たくさん ありま | す。 (K中)(K下2, I下)

じょうずに できないのも あります。 (K下, I下2)

じょうずに できないのも あります。 (K下)

おかあさんも おいでに なりました。 (K中)

はくしゅ | が おこりました。 (K下)

会場は いっぱいに なりました | した。 (K下)

お客さんが ほめました。 (K下)

みんなで おどる ところが | (K中)(K下, I下)

～おどる ところが | かわいいね。 (K中)(K下3)

以上 3年

「わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (B下)

まもなく ふえが なって、 (C中)

まもなく ふえが なって、 (B下)

まもなく ふえが なって、 (B下)

たくさん ありま | す。 (B下)

練習を しましたが、 (C下)

じょうずに できないのも あります。 (B下)

じょうずに できないのも あります。 (C下)

お客さんが ほめました。 (C中)

まだ | じょうずに できないのも あります。 (B下)

おもしろい ものが、 たくさん ありま | す。 (B下)

- 「みんなで おどる ところが かわいいね。」 (B下)
- おいでに なりました。 (B下)
- まくらもとの 火ばち に かけた。 (G下)
- ふすま が すうと と あいて、 おかあさん が、 (G中)
- よくなるよ。』と、おっし や い ま し た。 (G下)
- まもなく、 お医者さん が おいで にな って、 (G中)(G下2)
- その時、 ふすま が すうと と あいて、 (G下)
- しめき って ある しょうじ に に 明 か る い 冬 の 日 が ～ (G下)
- まさ お く ん は、 ひと つ 大 き く 息 を し ま し た。 (G中)(G下)
- 「ああ、 か げ だ よ。～ (G中)
- しめき って ある しょうじ に (G下)
- 音 を た て て い ま す。 しめき って ある しょうじ に (G中)(G下)
- ～ しめき って ある しょうじ に (G下)
- 明 る い 冬 の 日 が さ し て、 (G下)
- まさ お く ん は に っ こ り し て (G下)
- 学 校 を 休 ん で、 ず っ と お ね て い る の で す。 (G中2)
- お か あ さ ん が に こ に こ し な が ら ～ (G下2)
- お か あ さ ん が に こ に こ し な が ら ～ (G下)
- ひ た い に 手 を あ て て み ら れ ま し た。 (G中2)(G下)
- ひ た い に 手 を あ て て み ら れ ま し た。 (G下2)
- ひ た い に 手 を あ て て み ら れ ま し た。 (G下)
- ひ た い に 手 を あ て て み ら れ ま し た。 (G中)
- 「あ、 熱 も あ り ま す よ。」 (G中)
- 「あ、 熱 も あ り ま す よ。」 (G中)
- 脈 を み た り、 ～ (G下)
- の ど を 見 た り し て い ら れ ま し た が、 (G中)

- まさおくんは、いつ | ものような～ (G下2)
- ずっとねているの | です。 (G上)
- それから、学校を休んで～ (G下)
- おかあさんのあたたかいことばに、 (G中)
- 「ああ、かぜだよ。あたたかくしてねていたら | (G下)
- ～ あたたかくしてねていたら | (G中)(G下)
- 以上 4年
- ボールを、 | とちゅうで取っては逆^{さか}にせめて来る。 (C下)
- たおれてい | く。おうえんだんは、 (C下)
- しかも、こしから下^{した}をねらうので、 (C下)
- さかんにはく手を送^{おく}っ | てくれる。 (C中)
- 相手はこの前^{まえ}、ゆう勝^{かち}しただけ | あって、 (C中)
- 西組は、こんどこそは、 (C下)
- 声^{こゑ}をからしてさけんでいる。 (C中)
- 声^{こゑ}をからしてさけんでいる。 (C下)
- 声^{こゑ}をからしてさけんでいる。 (C中)
- すばらしい勢いをもって飛^とんで来る。 (C下)
- ひとりふたり | とたおされていく。 (C中)
- ひとりふたり | とたおされていく。 (C下)
- 逆^{さか}にせめて来る。たおしたり、 (C下)
- ひとり残^{のこ}らずたおされてしまった。 (C下)
- 場所をこうたいして、 (C中)
- 勝負の | 見分けもつかないうちに、 (C下)
- 「外野からせめられる時、～ (C中)
- 相手はあわてだした。 (C中)

- 相手はあわてでした。(C中)
- 少しおじていたようである。(C下)
- 少しおじていたようである。(C中)
- 西組もなかなかじょうずである。(C下)
- 西組もなかなかじょうずである。(C上)
- いっしょうけんめいである。とりわけ女子が～(C上)
- ～ とりわけ女子が(C下)
- とりわけ女子がぐん | ぐんせめてくる。(C下)
- そのために味方は、ばたばたとたおれてい | く。(C下)
- ふえが鳴った。 | こんども六対五で勝ち、(C中)
- ぼくたちは、いっしょ | うけんめいに戦おうと(C中)
- 作戦をねった。その時受持の先生が、(C中)
- あたりは静かで、こっこくと自然は～(K下2, J下)
- あたりは静かで、こっこくと自然は～(J上)(F中)(J下)
- ～ こっこくと自然は～(J下)
- 美しい声でなんべんもうたって、(F中)
- うすやみの中ういて、わたくしをささえた。(K中, F中)(K下2, J下)
- ～ わたくしをささえた。(J上)(J中)
- わたくしをささえ | た。(K中, F中)(F下)
- 美しいことを、わたくしのおさない心に～(F下)
- わたくしをひざの上に～(K下, F下)
- わたくしをひざの上にのせた。(K上, F上)(K下)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。(J下)
- わたくしは母にだかれたまま、(K下)
- わたくしは母にだかれたまま、(F下)
- ボールは、すばらしい勢いをもって飛んで来る(C中)

- れんらくのみごとなこと。 (C中)
- 勢いをもって飛んで来る。し | かし (C下)
- 「ほたるの光」を、 (J下)
- 目ににじませるくせがあった。 (J上)
- 庭のすみにもみじの木が～ (J下)
- ささやかなすまいであった。 (J上)(F下)
- ささやかなすまいであった。 (K下, J下)
- 庭にいすを | 出してすわり、 (J中)(F下)
- それがわたり | 鳥であるということも、 (J上3)(F下)
- それがわたり | 鳥であるということも、 (K中)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (F下)
- ～ うすやみの中にういて、 (K上, F上)(K中, J中)(J下, K下)
- ～ うすやみの中にういて、 (J上2)(K下2, J下)
- あたりは静かで、 (F上)
- 空気はすみ、 (K中)
- 歌をうたう時ですら、 (J中2)
- ～うすやみの中にういて、 (K下)(F下)
- ～うすやみの中にういて、 (K下)
- 目ににじませるくせがあった。 (J上)(F中)
- 目ににじませるくせがあった。 (J上)(F中3)(K下2, F下, J下)
- 目ににじませるくせがあった。 (F上)(J中)(F下, J下)
- もみじの木が一本はえて | いた。 (F下)
- ひざの上にのせた。 (F下)
- ひざの上にのせた。 (J下)
- 形をかえ、 (K下)
- 形をかえていった。 (K下)

- いすを | 出してすわり、 (K下)
- 母からおそわった。 (F下)
- 母からおそわった。 (F中)
- 母からおそわった。 (J中)(J下)
- わたくしは母にだかれたまま、 (J上)
- わたくしは母にだかれたまま、 (K上)(J下2)
- ～ だかれたまま、 (J下, K下)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (K上)(J中)
- ～ 心にし | みこませた。 (J上2)(J中)(K下)
- ～ 心にし | みこませた。 (K中2)
- 家の中の用事をすませると、 (F下)
- 家の中の用事をすませると、 (F上, J上)(K下, J下)
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (K下2)
- ～ ささやかなすまいであった。 (J上)(K下2)
- ～ ささやかなすまいであった。 (J中, K中)(K下2, F下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (J下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (K下)
- 母は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
- 数々の鳥があわただしく大空を～ (J中)(K下)
- 数々の鳥があわただしく大空を～ (J上)(K下4, F下)
- 数々の鳥があわただしく大空を～ (J下)
- わたくしのおさない心にしみこませた。 (K下2)
- わたくしのおさない心にしみこませた。 (K中)(K下)
- 以上 5年
- わたくしは | こしをかけていました。 (G中)(G下)
- わたくしのとなりにも、 (C中)

- 乗るがはやいかわたくしのとなりの～ (G上)
- 乗るがはやいかわたくしのとなりの～ (C下)
- わたくしは、おぼさん、どうぞ～ (G上)
- ひとりはかけられるぐらいあいていました。 (G中)(G下2)
- どうぞ、おかまいなく、 (G下2)
- どうぞ、おかまいなく、 (G下)
- わたくしは | こしをかけていました。 (C中)
- と、さっきおしのけるようにして (C下)
- と、さっきおしのけるようにして (C中)
- さっきおしのけるようにして (C中)(C下)
- さっきおしのけるようにして (C上)(C中)(G下)
- さっきおしのけるようにして (C中)(C下)
- さっきおしのけるようにして (C上)
- ひとりはかけられるぐらいあ | (C中)
- ひとりはかけられるぐらいあ | (G中)
- こんどは安心してかけられま | した。 (C中2)(C下)
- こんどは安心してかけられま | した。 (C中2)(C下, G下)
- 「やれ、やれ、かけられて助かった。 (G下)
- 「やれ、やれ、かけられて助かった。 (C下)
- どうしてもかけようとしません。 (G下)
- あんなにかけたがっていた人が、 (G下)
- あんなにかけたがっていた人が、 (G下)
- 子供だから、かけていらっしゃいよ。 (C中)
- 席を取られてしまいました。 (C下)
- 席を取られてしまいました。 (C下)
- 声をそろえて送ってくださいました。 (C下)

- ゆき子さんはうれしそうに、 (G下)
 | それからふたりは、 (C中)
 | それからふたりは、 (G中)(G下)
 荷物を持った人は、いかにも残念そうな～ (C下)
 「お気をつけてね。 (G下2)
 あなた、どうぞおかけください。 (G上)
 といって、どうしてもかけようとしません。 (C下)
 初めあんなに席を取りあつた女の人が、 (C下)
 と | ころが、あんなにかけたがっていた人が、 (G中, C中)
 荷物を持った人に席をゆずろうとしました。 (C上)
 持ちましょう。」 | といいながら、 (G下)
 声をそろえて送ってくださいました。 (G下)
 残念そうな顔をして、こしかけた人を見ています。 (C下)
 さきにこしかけて喜んでいた人が、 (C中)
 以上 6年

〈iii〉 漢字を

- きょとんと して、こちらを 見ました。 (E下, C下)
 うしを 見に いきました。 (C中)
 おやうしが、じっと 立って います。 (E下)
 以上 2年
 みんなは 外へ 出ました。 (C下)
 みんなが 大わらい | しました。 (D下)
これから 学芸会を します。 (K下)
学芸会が 始まりました。 (I中)
学芸会が 始まりました。 (K中)
会場は いっぱいに なりま | した。 (I上)

元気な 声で いました。(K下)

一ばん 始めに ゆきこさんが、(K中)

学芸会が 始まります。(K中, I中)(K下)

学芸会が 始まりました。(I中)

たかしくんが 立って はじめの～(K中)

と いう 歌を 読みました。(I下2)

以上 3年

もう すぐ 学芸会が 始まります。(C中)

もう すぐ 学芸会が 始まります。(B下)

これから 学芸会を 始めます。(C中)(C下)

学芸会が 始まりました。(B下)

それから、学校を 休んで、(G中)

まさおくんの顔を見らるなり、(G中)(G下2)

ひとつ大きく息を しました。(G下)

静かな朝です。(G下)

「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」(G下)

「まあ、どうしたの。顔色が悪いわ。」(G中)(G下)

「まあ、よくねむったこと。気分はどう。」(G中)

三日ほど前のことです。(G下)

以上 4年

しかし力いっぱい します。(K中)

いっしょ うけんめいに戦おうと決心した。(C中)

ほくを 目がけてボールが飛んで来た。(C中)

また外野へ 返って来た。(C中)

すばらしい勢いをもって 飛んで来る。(C中)

見ちがえるほど強くなった。(C中)

- 前半終りのふえは鳴った。(C上)(C下)
- 前半終りのふえは鳴った。(C中)
- 試合が始まった。(C中)(C下)
- 法勝戦は六年西組と～(C中)
- いよいよ法勝戦に進む | (C下)
- しかし、西組もなかなかじょうずである。(C中)
- 西組は六年に、(C下)
- 西組のセンター山本君の(C下)
- また外野へ | 返って来た。(C中)
- 人数を調べると、(C中)
- この時、味方は三人になっていた。(C上)
- 味方が、ひとりふたり～(C下2)
- ～全力をつくした。(C中)
- すばらしい勢いをもって飛んで来る。(C下)
- そのために味方は、ぼたぼたと
みかた(C下)
- ～夕暮れの庭にいすを | (J上)(J中)
- ～夕暮れの庭にいすを | (F中)(K下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。(K中, J中)(J下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。(K下)
- 空気はすみ、(F下)
- 戮わの鳥が、あわただしく～(J下2)
- 母は、自然が詩のように美しいことを、(J中)
- やがて新聞社から帰ってくる～(F下, K下)
- 家の中の用事をすませると、(F下, K下)
- 「夕空晴れ | て」や (J上, F上)(J中, K中2, F中3, J中)
(K下3, J下)

- 「夕空晴れ | て」や (K上)
- 「庭の千草」や～ (J下)
- 母の顔 | を見^つめて、 (K下)
- 母は学校のころに習った歌だといって、 (F下2, K下)
- あわただしく大空を飛び去っていった。 (J上)(J下)
- 庭にいすを | 出してすわり、 (F下)
- 新聞社から帰^ってくる父を待つのだった。 (J上)(J下, F下)
- 小さい庭のすみに、 (F下)
- なみだを大きな | 目^に～ (K上)(F中)
- 美しい声でなんべんもうたって、 (J下)
- あたりは静かで、 (F下)
- 以上 5年
- おねえちゃん。子供だから、 (C中)
- 電車が停留所に着くと、 (C中)
- ふたりとも | 乗るがはやいか、 (C下)
- かけられて助かった。 (G下)
- 荷物を持^った人に向^って、 (G下)
- 荷物を持 | った人は、 (G下)
- 荷物を持 | ったおばさんが、 (G下)
- 以上 6年
- (iv) かたかなを
- 「トン, トン トン。」 (G下)
- 以上 2年
- 男子のセンターにわたしていく。 (C下)
- 以上 5年
- (v) 其の他を

- 大きいのと小さいのと、 (D下2)
 学芸会が 始まりました。 (I中)
 学芸会が 始まりました。 (I中)
 と いう 歌を 読みました。 (K中)(K下2)
 だんだん お客さんが 集まって、 (K中)
 と、お客さんが ほめました。 (I中)(K下)
 以上 3年
 のきばで鳴いているすずめの声が、 (G下2)
 まさおくんの顔を見 いるなり、 (G中)(G下2)
 以上 4年
 なかなか取りにくい。 (C中)
 とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C下)
 あわただしく大空を飛び去っていった。 (F中2, J中2)(F下)
 小さい庭のすみに (K下, J下)
 なみだを大きな 目に～ (K下, F下)
 父を待つのが。 (J上)
 以上 5年
 話して行かれたことと思います。 (G下)
 前から知っていた人のように、 (G下)
 わたくしのとりの席を見つけて、 (C中)
 さきにこしかけて喜んでいた人が、 (C中)
 なかよく話して行かれたことと思います。 (C下)
 以上 6年

(b) 単語の中間の文字を

- かいばおけを たたきました。 (C中)(E下)
 かいばおけを たたきました。 (E中)(E下)
 いちろうさんと、うしを 見に いきました。 (E下)

- いちろうさんと、うしを 見に いきました。(H下)
以上 2年
- むぎわらぼうしを 持って きました。(D下)
- ゆきこさ | んの おかあさんも～(I下)
- みんなで たまを かさね | ました。(D下)
以上 3年
- にこにこしながら | らはいってきました。(G下)
- まくらもとの火ぼちにかけた。(G中)
- まさおくんの顔を見 | るなり、(G下)
以上 4年
- 味方はひとり残らずたおされてしまった。(C中)
- 目ににじませるくせがあった。(K中)
- 母からおそわった。(F下)
以上 5年

(c) 単語の終りの文字を

- めだかは すうと | (F下)
- 「はいった, はいった。」(A下)
以上 1年
- 「よく 見て ごらん。」(H下)
以上 2年
- 「わっしょい, わっしょい。」(D下)
- じょうずに できないのも あります。(K下)
- いばん 始めに ゆきこさんが、(I下)
- つぎに, みちおくんが 友だちと、(K下)
- 会場は いっぱいに なりま | した。(I下)
- 歌を 読みました。 | (I下)

学芸会が始まりました。 | (I下)

会場は いっぱいに なりま | した。 | (I下)

たくさん ありま | す。 (K下)

たくさん ありま | す。 (I下)

| まもなくふえがなって、 (K下)

では これから始めます。 (I下)

では これから始めます。 (K下)

みんなで おどるところが | かわいいね。 (I下, K下)

みんなで おどるところが | かわいいね。 (K下)

たかしくんが立って、はじめのあいさつをしました。 (I下)

以上 3年

こちらからも はくし_ゆ | が おこりました。 (B下)

つぎに みちおくんが 友だちと、 (B下)

お医者さんがおいでになって、脈をみたり、 (G下)

まさおくんはにっこりしてうなずきました。 (G下)

ふとんをしいてくださいました。 (G下)

気 | 持よく聞こえます。 (G上)

その時、ふすまがすうっとあいて、 (G下)

以上 4年

後半戦にはいった。 (C下)

相手はこの前、ゆう勝ただけ | (C中)

道男君はとる | がはやいか (C上)

母は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (F上)

家の中の用事をすませると、 (J上)

わたくしのおさない心にし | みこませた。 (F下)

わたくしをささえ | た。 (J下)

目ににじませるくせがあった。 (K下)

以上 5年

(d) 前の単語の終りの文字とあとの単語の文字を

足がしっかり しないので | しょう。 (E下)

以上 2年

あちらからも こちらからも, (K下)

以上 3年

(e) 単語とその前後の文字または単語

「おじさん、こうしは。」 | と, ききました。 (C下)

きょとんとして こちらを 見ました。 (H下)

以上 2年

「たまころがのようだね。」 (C中2)

みんなで おどる ところが | かわいいね。 (I下)

じょうずに できないのも あります。 (K中)

つぎにみちおくんが 友だちと (I下2)

「風の子, 雪の子」 | (K中)

以上 3年

おかあさんがにこにこしなが | ら はいって~ (C下)

まさおくんはにっこりしてう | ながきました。 (G下)

おかあさんは、まさおくんの顔を見 | るなり, (G下)

以上 4年

たかしくんが 立って, はじめの (C下)

相手はあわてだした。が, もうおそく, (C中)

中の休みに, 作戦をねった。 (C下)

わたくしをひぎの上にのせた。(F下)

わたくしをひぎの上にのせた。(F下)

歌をうたう時ですら、(J中, K中)

もみじの木が一本はえて | いた。(J上)

目ににじませるくせがあった。(J下)

母からおそわった。(K下)

青山の夕暮れはすばらしかった。(J上)

母は学校のころに習った歌だといって。(F中)

「夕空晴れ | て」や (K上)

「夕空晴れ | て」や (K中, F中)

庭にいすを | 出してすわり、(F中)

なみだを大きな | 目ににじませる～ (K下)

自然が詩のように美しいことを、(K中)

以上 5年

子供だから、かけていらっしゃい | よ。(C中2)

さきおしのけるようにして取った席を～ (C中)

どうしてもかけようとしません。(G下)

あなた、どうぞおかけください。(G中)

席をゆずろうとしました。(C下)

あんなにかけたがっていた人が、(G中)

あんなにかけたがっていた人が、(G上)

以上 6年

(2) 単語をくりかえして読む

(a) 文の初めの単語を

(i) 固有名詞を

まさおさんが すくいまし | た。(C中)

- 以上 1年
 しろも うれしそうに～ (C下)
- みちおくんの おとうさんが (I下)
- たかしくんが 立って、 (K下)(I下)
- ゆきこさ | んの おかあさんも～ (I下)
- 以上 3年
- まさおくんたちは、「春が きた」 (B下)
- 以上 4年
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (F中)
- 以上 5年
- (ii) ひらがなではじまる単語を
- めだかは すうっと | (C中)
- 以上 1年
- こうしは きょとんとして、 (H下)
- おやうしが じっと 立っています。 (H下)
- 「おじさん、こうしは。」 (H中)
- ぼくは、いちろうさんと、～ (H下)
- 「よく 見て ごらん。」 (C中)
- 以上 2年
- あちらからも こちらからも (I上)(K中)
- ～できないのも あります。しかし力いっばい (K下2)
- たくさん ありま | す。みんな いっしょうけんめい～ (K下)
- まも なく ふえが なって、～ (K中)(I下)
- もう すぐ 学芸会が 始まります。 (I下)
- もう すぐ 学芸会が 始まります。 (K下)
- 学芸会を します。お話、歌、おど | り (K中2)(K下2, I下)
- 以上 3年
- では これから 始めます。 (B下, C下)

～できないのも あります。しかし力いっぱい (B下)

もう すぐ 学芸会が 始まります。 (B下)

つぎに みちおくんが 友だちと、 (C下)

おかあさんのあたたかいことばに、 (G下)

あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G下)

ひたいに手をあててみられました。 (G下)

以上 4年

センターにわたしていく。れんらくのみごとなこと。 (C中)

じょうずな道男君まで、たおされてしまった。 (C上)

もっと元気を出すことだ。」 (C下)

飛んで来る。みるみるうちに、 (C中)

ひざの上にのせた。そして、母 | と子は、 (K中)

わたくしをひざの上にのせた。 (F中)(F下)

わたくしは母にだかれたまま、 (K下)

それがわたり | 鳥で～ (F下, J下)

以上 5年

かけられま | した。ふたりはきつと、 (C中)

| こしをかけていました。わたくしのとなりにも、 (G下)

そう言ってから荷物を持った人に向って、 (G下2)

「おねえちゃん、子供だから～ (G下)

お荷物があって | たいへんしょうから。」 (C中)

以上 6年

(iii) 漢字ではじまる単語を

会場は いっぱいになりま | した。 (K中)

以上 3年

「風の 子、雪の 子」 (B中)

三日ほど前のことです。

(G下)

以上 4年

場所をこうたいして、

(C中)

外野へわたすボールを、

(C中)

内野の味方がつぎつぎに ふえてきた。

(C中)

強い勢いのボールが～

(C下)

空気はすみ、あたりは静かで、

(J上2)

小さい庭のすみに、もみじの木が～

(K下)

母は、家の中の用事をすませると、

(J中)

母は学校のころに習った～

(K下)

母の白い手がうすやみの中にういて、

(K下)

母は、自然が詩のように美しいことを、

(K下)

母は、かるい気持で～

(J中)

薮の鳥が、

(K下)

以上 5年

(iv) かたかな

「トン、トン トン。」と、

(H下)

「トン、トン トン。」と、

(C中)

以上 2年

「シュン。シュン。」と音を～

(G中)

以上 4年

強い勢いのボールが「ビュ | ウッ、ビュウッ。」と

(C下)

以上 5年

(b) 文の中間の単語を

(i) ひらがなではじまる単語を

いちろうさんと、うしを 見に きました。

(H下)

こうしは きょんとんとして、

(H中)

以上 2年

ねえさんが、まゆげや | 目を～ (C中)

目を いろいろに つけかえると、 (C中)

ねえさんが ゆきを | 囲めて、ころがしました。 (D下2)

あちらからも こちらからも、はくしゅ | が、おこりました。 (K下2)

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (K上)

～「春が きた」 | と いう げきを しました。 (K中)

お話、歌、おど | り、げき、～ (K下4)

～おとうさんが、おいでになりました。 (K中)(K下2, I下)

おかあさんも おいでになりました。 (K下)

おもしろい ものが、たくさん ありま | す。 (K下2)

～、まだ | じょうずに できないのも～ (K下2)

まも なく ふえが なって～ (J上)(K中)(K下)

たかしくんが 立って、はじめの あいさつを～ (K中)

あちらからも こちらからも、はくしゅが～ (K下)

～いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (K下)

みんな いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (K上)

みんなで おどる ところが | (K中)(K下)

「わたしは 春の 使いです。」 | と いう、歌を～ (K下)

だんだん お客さんが 集まって、 (K上)(K中)

じょうずに できないのも あります。 (I中)(I下2)

みんなで おどる ところが | かわいいね。 (K下)

以上 3年

「春が きた」 | と いう (B下)

「春がきた」 | と いう げきを しました。 (C下)

はじめの あいさつを しました。 (B下)

その ほか おもしろいものが、たくさんありま | す。 (B下)

たかしくんが 立って、はじめの あいさつを しました。 (C下)

こちらからも はくしゅ | が おこりました。 (C下)

「みんなで おどる ところが かわいいね。」 (B中)

「春がきた。」 | と いう げきを しました。 (C中)

とあわてて、ふとんを しいて くださいました。 (G中)

まさくくんは、ひとつ 大きく息を しましました。 (G下)

まさおくんは ねむりから さめました。 (G中3)

明るい冬の 日が さして、のきばで 鳴いている～ (G下)

その時、ふすまが すうと あいて、 (G下)

おかあさんの あた たかい こと ばに、～ (G中)

「ああ、かぜ だよ。～」 (G中)

まさおくんは にこ りう | なず きました。 (G下)

まさおくんは にこ りして | ～ (G下)

以上 4年

し | かも、こし から 下を ねらう ので、 (C中)(C下3)

相手はこの 前、ゆう 勝ただけ | あって、 (C中)

味方が、ひと り ふたり | と (C下)

後半戦の 始まる ふえが 鳴った。 (C下)

西組は、こん ど こ そは と、 (C中)

内野の味方が つぎ つぎに | ふえて来た。 (C中)

こし から 下を ねらう ので、 (C下)

～や「ほたる の 光」を、～ (J中)(K下, F下)

～ささやかなすまいであった。 (J下, K下)
 空気はすみ、あたりは静かで、 (K中, J中)(K下)
 母の白い手がうすやみの中にういて、 (K上)(F中)(F下, K下)
 小さい庭のすみに、もみじの木が～ (F下)
 母は学校のころに習った歌だといって、 (K下)
 空気はすみ、あたりは静かで、 (K下, F下)
 それがわたり | 鳥であるということも (J下, F下)
 自然は色をかえ、形をかえていった。 (K下)
 ～、わたくしのおさない心にし | (K下, F下)
 なんべんもうたった、わたくし | に教えた。 (K中2)(F下)
 ～、わたくしをささえ | た。 (K上, F上)
 | 鳥であるということも、母から～ (J下)
 歌をうたう時ですら、なみだを大きな | 目に～ (J中2, F中)
 自然が詩のように美しいことを、 (K下, F下)
 | 目ににじませるくせがあった。 (K上)(F中)
 わたくしをひぎの上のにせた。 (K中)(F下)
 それがわたり | 鳥であるということも、 (K中)(J下)
 ～、ささやかなすまいであった。 (F下2, J下)
 わたくしのおさない心にしみこませた。 (F中)
 まだ | じょうずにできないものもあります。 (K中)
 美しい声でなんべんもうたって、 (J下)
 以上 5年
 わたくしのとにも、ひとりはかけられるぐらい～ (G上)(C中)
 (C下2, G下)
 わたくしは | こしをかけていました。 (C上)
 ～かけられるぐらいあ | いていました。 (G下)

- ～かけられるぐらいあ | いてました。(G下)
- わたくしのとなりにも、(G下)
- | と、さっきおしのけるようにして取った席を、(C中)
- ～、わたくしのとなりの席を見つけて、(C中)
- 前から知っていた人のように、なかよく話し合って～(G下)
- たいへんおもしろいと思いました。(G下)
- 乗るがはやいか、わたくしのとなりの席を～(G下)
- たいへんでしょうから、(G下)
- どうしてもかけようとしません。(G下)
- 「いいえ、たいした荷物ではございません。」(G下)
- ひざの上にむりやりに取って、(G下)
- と、さも不思議そうに～(G下)
- ～、たいへんおもしろいと思いました。(G下)
- ～お荷物があって | たいへんでしょうから。」(G下2)
- ～、あんなにかけたがっていた人が、(G下2)
- 以上 6年

(ii) 漢字ではじまる単語を

- ふえがなって、学芸会が 始まりました。(K下)
- 「風の 子、雪の 子」(I下)
- | の合唱をしました。(K上)(K中)
- お話、歌、おど | り、げき～(K下)
- み ちおくんが 友だちと | (K下)
- たかしくんは、元気な 声で いいました。(K下)
- 「わたしは 春の 使いです。」(K下)
- 以上 3年
- 明るい冬の日がさして、(G下2)

まくらもとの火ばちにかけた〜 (G中)

三日ほど前のことです。 (G下)

ひたいに手をあててみられました。 (G中)

まさおくんは、ひとつ大きく息をしました。 (G上)

の合唱を しました。 (B下)

と いう、歌を 読みました。 (B下)

一ばん 始めに ゆきこさんが、〜 (B下)

以上 4年

〜、六年を三人たおした (C下)

西組は六年に、全校が〜 (C下)

見分けも つかないうちに、前半終りのふえは〜 (C下)

ぼくは外野にまわった。 (C中)

「フレー、フレー」と声をからしてさげんている。 (C中)

とりわけ女子がぐん | ぐんせめてくる。 (C上)(C中2)

西組六年に、全校が二つ | に〜 (C下)

せめられた時、一方にかたまっではいけない。 (C中)

強いことは校内第一と | (C下)

調べると、九対八。 (C中)

うまく取る | ことができた。 (C中)

道男君は取る | がはやいか〜 (C中)(C下3)

青山の家は、〜 (J上)(F下)

かるい気持で歌をうたう時ですら、 (F中)(F下)

〜習った歌だといって、 (F中)(F下2, J下)

小さい庭のすみに〜 (J上)

夕暮れの庭にいすを | (J中)(J下, F下, K下)

- 美しい歌声を聞いていた。 (K上)
- ～「夕空晴れ | て」や (F中)(K下, J下)
- 母は、家の中の用事をすませると、 (J上)
- ～ 家の中の用事をすませると、 (K上)(J下)
- ～ 家の中の用事をすませると、 (J上)(F下)
- 歌だといって、「庭の千草」や (K下)
- 「庭の千草」や～ (J上)(K中)(F下, J下)
- 母にだかれたまま、母の顔 | を見つめて、 (K上)(F下)
- そして、母 | と子は、 (K下, F下)
- 母は、自然が詩のように美しいことを、 (F下2, J下2, K下)
- 母は、自然が詩のように (J下)
- おさない心にし | みこませた。 (F上)
- 数々の鳥があわただしく～ (J下)
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J下)
- もみじの木が一本はえて | いた。 (F上)
- ～歌をうたう時ですら、 (K上)(F中)(K下)
- なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (K下)
- なみだを大きな | 目ににじませる～ (J上)(K中2)
- あわただしく大空を飛び去っていった。 (F下)
- 色をかえ、形をかえていった。 | (J下)(F下)
- 帰ってくる父を待つのだった。 (J下)
- 帰ってくる父を待つのだった。 (F下)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (K下)
- あたりは静かで、こっこくと～ (F中)

- 電車の中でのことです。 (G中, C中)
 それからふたりは、前から知っていた人のように、 (C下)
 ふたりの女の人が乗りこんで来ました。 (C中)
 その電車はわりにすいていて、 (C下, G下)
 「おねえちゃん、子供だから、～ (G下)
 わたくしは、初めあんなに席をとりあった～ (C下)
 ゆずり合 | うようになったのが～ (G下)
 ふたりとも | 乗るがはやいか、 (G下, C下)
 席を取られてしまいました。 (C中)
 電車が停留所に着くと、 (C下)
 以上 6年

(c) 文の終りの単語を

- 九対八。 | (C下2)
 以上 5年

(d) 助詞を

(i) 「が」を

- おとうさんが おいでに なりました。 (J下)
 みちおくんが 友だちと、 | (I下2)
 以上 3年

(ii) 「は」を

- めだかは すうっと | (A下, F下)
 以上 1年
 まさおくんは ねむりから さめました。 (G上)
 「まあ、よくねむったこと。気分はどう。」 (G下)
 以上 2年

(iii) 「に」を

- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (J上)

わたくし | に 教えた。

(F上)(F下)

以上 5年

(iv) 「の」を

じょうずに できないのも あります。

(C中)

ずっとねているのです。

(G中)

以上 4年

電車の中でのことです。

(G下)

以上 6年

(v) 「を」を

ゆきの | たまを ころがしました。

(D上)

以上 3年

(iv) 「と」を

「はいった、はいった。」 | と、ゆきこさんが

(A上)

「にげた、にげた。」 | と すみこさんが

(A上2)

以上 1年

「これを かぶせたら いいよ。」 | と 言って、

(D下)

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 | と、お客さんが～

(I下)

以上 3年

(vii) 「も」を

まだ | じょうずに できないのも あります。

(K中)

以上 3年

(viii) 「で」を

では これから 始めます。

(K下)

以上 3年

では これから 始めます。

(C下)

以上 4年

かるい気持ちで歌をうたう時ですら、

(K上)(J下, K下)

以上 5年

国語の時間である。

(G下)

以上 6年

(ix) その他の助詞を

一ばん 始めに ゆきこさんが、

(I下)

おかあさんがにこにこしながら | らはいってきました。

(G下)

以上 4年

ゆう勝しただけ | あって、

(C下)

かるい気持ちで歌をうたう時ですら、

(F上)

以上 5年

わたくしが電車からおりる時には、

(C上)

以上 6年

(3) 文節や句をくりかえして読む

めだかは すうっと | にげました。

(C中)

「はいった、はいった。」

(F下, C下)

「はいった、はいった。」

(C中)(F下)

「にげた、にげた。」

(C中2)(F下)

「はいった、はいった。」

(A下)

以上 1年

「おじさん、こうしは。」

(E上)(H中)

おやうしが うごとと |

(E下)

ぼくは、いちろうさんと、

(H中)

こうしは、おやうしの | ちちを、おいしそうに

(E上)(H下)

「いた、いた。」

(H下)

「いた、いた。」

(C中)(C下)

口を うごかして います。

(H中)(H下, E下)

足が、しっかり しないので | しょう。

(H下)

- 足が、しっかり しないので | しょう。 (E上)(H下)
- 足が、しっかり しないので | しょう。 (H下)
- 足が、しっかり しないので | しょう。 (H中)
以上 2年
- しろも うれしそうに~ (C下)
- ひろさんも いました。 (D下)
- ねえさんが まゆげや | 目を (D上)(C中)
- まさおさんが いました。 (D中)
- わらったように なったり しました。 (D中)
- まさおくんが かぶせました。 (D下)
- おもしろいものが、たくさん あり | ます。 (I下, K下3)
- たかしくんが 立って, はじめの (K中)
- 「わたしは 春の 使いです。」 (I下)
- みんなで おどる ところが | かわいいね。 (I下)
- みんなで おどる ところが | かわいいね。 (K上)
- ~ 練習を しましたが まだ | (K下)
以上 3年
- ゆきこさ | んの おかあさんも (B下)
- たかしくんが 立って, (C中)
- | あちらからも こちらからも (C下)
- 「わたしは 春の 使いです。」 | と いう, 歌を~ (B下)
- みちおくんの おとうさんが おいでに なりました。 (C中)
- もう すぐ 学芸会が 始まります。 (C下)
- まさおくんは ねむりから さめました。 (G上)
- まさおくんは にっこりして う | なずきました。 (G下)

まくらもとの火ばちにかけた、 (G中)

のどを見たりしていられましたが、 (G下)

まさおくんは、いつ | ものような 元気が (G下)

以上 4年

| ていく。れんらくのみごとなこと。 (C中)

| とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C中)

かたまってはいけない。」そういわれてみると、 (C中)

わたくしをひざの上にのせた。 (I上)

わたくしをささえ | た。 (J上)

わたくしは母にだかれたまま、 (J上)

わたくしのおさない心にし | みこませた。 (J下)

なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (K下)

もみじの木が一本はえて | いた。 (K下)

わたくしをひざの上にのせた。 (F下)

空気はすみ、あたりは静かで、こっこくと (J上)(K下, F下)

うすやみの中にういて、 (F中)(J下)

母は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)

～や「ほたるの光」を、 (J中)

あたりほ静かで、こっこくと～ (J中)

それがわたり | 鳥であるということも、母から～ (K下)

それがわたり | 鳥であるということも、 (J下)

母の白い手がうすやみの中にういて、 (K下)

目ににじませるくせがあった。 (K中, F中)(K下2)

もみじの木が一本はえて | いた。 (F下)

美しい声でなんべんもうたって、 (J上)

母からおそわった。(F下)

わたくしをささえ | た。(J上)

青山の夕暮れはすばらしかった。(J下)

以上 5年

ひとりごとをいっています。| わたくしは, | 「おぼさん〜」(G上)

電車はわりにすいていて, わたくしは | こしを〜 (G下, C下)

「お気をつけてね, さようなら。」(G下)

「いいんですよ, ありがとう。」(G下)

子供だから, かけていらっしやい (G下)

お荷物があって | たいへんでしょうから (G下)

ひとりかけられるぐらいあ | いていました。(G上)

荷物を持っていたために少し〜 (C中)

〜顔をして, こしかけた人を見ている。(G下)

ひとりかけられるぐらいあいていました。(C下)

あんなにかけたがうっていた人が, (G中)

さっきおしのけるように取った席を, (C中)

声をそろえて送ってくださいました。(G下)

以上 6年

(b) 漢字ではじまる文節や句を

足が しっかり しないので | (E下)

足が しっかり しないので | (E中)

以上 2年

「ねえさん, ゆきだるまを 作ろう。」(D下)

「わたしは 春の 使いです。」(K下2)

みちおくんが 友だちと | (K中)

もう すぐ 学芸会が 始まります。(K下)

- | という、歌を 読みました。 (K中)
 以上 3年
- 「風の 子、雪の 子」 | (C中)
- 「風の 子、雪の 子」 | (B中)(C中)
- 「わたしは 春の 使いです。」 (C中)(C下)
- 三日ほど前のことです。 (G下)
- ひたいに手をあててみられました。 (G下)
- 脈をみたり、熱を計っ | たり、 (G下)
- しょうじ | に明かるい冬の日がさして、 (G下)
 以上 4年
- また外野へ | 返って来た。 (C中)
- こしから下をねらうので、なかなか取りにくい。 (C中)
- 外野へわたすボールを、 (C上)(C中)
- 「ワァッ」という声がか聞こえた。 (C中)
- 西組もなかなかじょうずである。 (C下)
- 人数を調べると、九対八。 (C下)
- 前半終りのふえは鳴った。 (C上)
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (K上)(K下)
- 青山の家は、 (F中)(F下)
- 母は、家の中の用事をすませると、 (J上)
- 中の休みに、作戦をねった。 (C中)(C下)
- 夕暮れの庭にいすを出してすわり、 (J中)(K下、F下)
- 空気はすみ、あたりは静かで、 (J上)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (F下)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (F下)
- 「庭の千草」や (K下)

- わたくしは母にだかれたまま、 (F下)
- 母は、自然が詩のように美しいことを、 (K中)
- 母からおそわった (J上)
- 数々の鳥があわただしく大空を (K中)(F下)
- 数々の鳥があわただしく大空を (K中)(F下)
- 目ににじませるくせがあった。 (F下)
- あわただしく大空を飛び去っていった。 (K上)
- 新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (K下)
- こっくと自然は色をかえ、 (J上, K上)
- こっくと自然は色をかえ、 (J上)
- おさない心にし | みこませた。 (J下2, K下)
- 歌をうたう時ですら、 (K中)(K下3)
- 「夕空晴れ | て」や (F中)(K下2, F下)
- 「夕空晴れ | て」や (F下)
- 今度こそはと、全力をつくした。 (C下)
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J下)
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J上)(K中)(K下)
- 学校のころに習った歌だといって、 (J上)(F中)(J下)
- 学校のころに習った歌だといって、 (F中)
- 学校のころに習った歌だといって、 (F下)
- 学校のころに習った歌だといって、 (K中)
- 美しい歌声を聞いていた。 (J下)
- 目にににじませるくせがあった。 (K下)
- 空気はすみ、あたりは静かで、 (K中)(K下, F下2, J下)
- 美しい歌声を聞いていた。 (F中)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (J上)

夕暮れの庭にいすを | 出してすわり， (J下)

母の顔 | を見つめて， (F中)(F下)

以上 5年

きのう，電車の中でのことです。 (C中)

きのう，電車の中でのことです。 (C中)

きのう，電車の中でのことです。 (C中)

電車の中でのことです。 (G下)

電車の中でのことです。 (G下)

ふたりの女の人が～ (C上)

「おねえちゃん，子供だから， (G下)

「おばさん，どうぞ」と荷物を持った人に～ (G下)

乗るがはやいか， (C下)

まあ，話してごらん。 (G下)

なかよく話して行かれたことと思います。 (C中2)

こしかけた人を見ています。 (G中)

以上 6年

(c) かたかなではじまる文節や句を

「トン，トン トン。」 (E下2)

以上 2年

うまくあたって，ボールはは | ね返って来た。 (C中)(C下)

以上 5年

〔(4) 同じ行をくりかえて読む〕

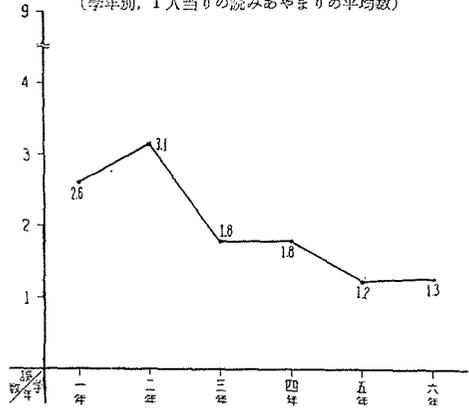
〔(a) 行の初めの部分を〕

〔(b) 行の終りまでを〕

7. ひろい読みをする事例

ひろい読みをする	456
(1) 固有名詞	49
(a) 人名を	
(b) 地名を	
(2) 文字で	280
(3) 単語で	89
(4) 文節で	25

第 19 図 ひろい読みをする
(学年別、1人当りの読みあやまりの平均数)



ひろい読みの事例について、学年別に1人当りの読みあやまりの平均数を出してみると、第19図のようになる。

(1) 固有名詞を

(a) 人名を

「はいった、はいった。」と、ゆきこさんが いいまし | た。 (A下2)

ゆきこさんが いいまし | た。 (A下)

ゆきこさんが いいまし | た。 (C上)

ゆきこさんが いいまし | た。 (F下, A下)

ゆきこさんが いいまし | た。 (F下2)

「にげた、にげた。」と、すみこさんが | いいました。 (A中)

すみこさんが | いいました。 (A下2)

すみこさんが | いいました。 (F中)(A下)

すみこさんが | いいました。 (A下2)

すみこさんが | いいました。 (F下)

「にげた、にげた。」と、すみこさんが | (F下)

まなおさんが すくいまし | た。 (A上)

まなおさんが すくいまし | た。 (A上)

まさおさんが すくいまし | た。 (A中)

まさおさんが すくいまし | た。 (F下)

まなおさんが すくいまし | た。 (A下)

まさおさんが すくいまし | た。 (F下2)

みちおさんが | すくいました。 (C上)

みちおさんが | すくいました。 (C上)

以上 1年

ぼくは、いちろさんと、うしを 見に いきました。 (E下)

いちろさんと、 (E下)

いちろさんと、 (H下)

よしこさんが、 | 「おじさん、こうしは。」 (E下)

以上 2年

たかしくんは、元気な 声で いいました。 (K下)

たかしくんが 立って、はじめの あいさつを しました。 (K下)

みちおくんの おとうさんが、おいでに になりました。 (K下)

みちおくんの おとうさんが (K下)

つぎに、みちおくんが 友だちと (K上)

つぎに、みちおくんが 友だちと (K下)

ゆきこさ | んの おかあさんも おいでに になりました。(I中)(I下, K下)

ゆきこさ | んの おかあさんも (K下)

始めに ゆきこさんが、 (K下)

まさおさんが いいました。 (D下)

以上 3年

始めに ゆきこさんが、 (B下)

まさおくんたちは、「春が きた」 | と いう (B下)

たかしくんは 元気な 声で いいました。 (B下2)

以上 4年

じょうずな道男君まで、たおされてしまった。 (C下)

以上 5年

(b) 地名を

青山の夕暮れはすばらしかった。 (K下)

青山の夕暮れはすばらしかった。 (F下)

以上 5年

(2) 文字で

めだかすくい (F中)

めだかすくい (F下2)

めだかすくい (F下)

めだかすくい (F下)

めだかは すうっと | にげました。 (F下)

- 「はいった，はいった。」 (A下2, A下)
- 「はいった，はいった。」 (A下, F下)
- めだかは すうと | にげました。 (A下2)
- ～ にげました。 (A中)
- ～ にげました。 (F下)
- ～ にげました。 (F下)
- めだかは すうと | にげました。 (F下)
- みちおさんが | すくいまし | た。 (A中)(A下)
- ～ すくいまし | た。 (A下)
- ～ すくいまし | た。 (F下3)
- ～ すくいまし | た。 (F下)
- まさおさんが すくいまし | た。 (A下)
- めだかすくい (A上)
- めだかすくい (A下, F下)
- すみこさんが いいました。 (F下)
- めだかが いっびき | はいりました。 (F下)
- めだかが いっびき | はいりました。 (A下)
- 「にげた，にげた。」 (A上)(F中)(A下2)

- 「にげた、にげた。」 (A上)
- 以上 1年
- ぼくは いちろうさんと、うしを 見に きました。 (E下)
- よしこさんが 「おじさん、こうしは。」 (E下)
- 「おじさん、こうしは。」 (E下)
- 「おじさん、こうしは。」 (E下)
- 「おじさん、こうしは。」 (E下2)
- おじさんが 「トン、トン トン。」 (E下)
- 「おじさん、こうしは。」 と、ききました。 (H中)(H下)
- ～ ききました。 (E下)
- ～ きました。 (E下)
- ～ たたきました。 (E中)
- ～ たたきました。 (E下)
- ） たたきました。 (E下)
- かいばおけを、たたきました。 (E下2)
- かいばおけを たたきました。 (H中)(H下)
- かいばおけを たたきました。 (E下)
- 「よく 見て ごらん。」 (E下)
- 「よく 見て ごらん。」 (E下)
- こちらを 見ました。 (E下)
- こちらを 見ました。 (E下)
- こちらを 見ました。 (E下)
- こちらを 見ました。 (E下)
- 目を 小さく して、 (E下)

- 目を 小さく して, (E下)
- 足が しっかり しないので | しょう。 (H中)
- 足が しっかり しないので | しょう。 (E下)
- こうしは きょとんとして, (H下)
- 「よく 見て ごらん。」 (H下, F下)
- こうしは, おやうしの | ちちを, (E下)
- こうしは, おやうしの | ちちを, (H下, E下)
- おやうしが うごくと, (H下, E下4)
- おやうしが じっと 立って います。 (E下)
- おやうしが うごくと, | ころげそうになります。 (H下)
- ～ うごくと, ～ (H下2)
- ～ うごくと, ～ (E下2)
- 口を うごかして います。 (E下)
- 口を うごかして います。 (E下)
- 口を うごかして います。 (E下)
- 口を うごかして います。 (H下)
- おやうしの | ちちを, おいしそうに | のんで います。 (E下2)
- ～ おいしそうに (E下)
- ～ おいしそうに (H下)
- ～ おいしそうに (H下)
- おやうしが じっと 立って います。 (E下)
- 口をうごかして います。 (E下)
- おやうしが うごくと, | ころげそうになります。 (H下)

- ～ ころげそうに (E下)
- ～ ころげそうに (E下)
- おやうしが うごくと | ころげそうに になります。 (H下)
- ～ ころげそうに (E下)
- ～ ころげそうに (E下)
- ころげそうに なるます。 (E下)
- ころげそうに なるます。 (E下)
- いちろうさんと、うしを 見に 行きました。 (E下2)
- 「おじさん、こうしは。」 | と、 (E下2)
- こうしは きょとんと して、こちらを 見ました。 (E下)
- こうしは きょとんと して、こちらを 見ました。 (E下)
- ちちを、おいしそうに | のんで います。 (E下)
- 以上 2年
- まさおさんも ゆきの | たまを ころがしました。 (D下)
- ねえさんが ゆきを | 固めて ころがしました。 (D下2)
- 「ねえさん ゆきだるまを | 作ろう。」 (D下)
- 大きいのと 小さいのと、 | たまが ふたつ (D下)
- 大きいのと 小さいのと、 | (C下)
- 大きいのと 小さいのと、 | ～ (D下2)
- 「たまころがしのようだね。」 (D下)
- 「たまころがしのようだね。」 (D下)
- 「たまころがしのようだね。」 (D下)
- ゆきを | 固めて ころがしました。 (D下)

- ゆきを | 固めて ころがしました。(D下)
- 目を いろいろに つけかえると,(D下)
- ゆきだるまは おこったように | なったり(D下)
- ゆきだるまは おこったように | なったり,(D下)
- 「これを かぶせたら いいよ。」(C中)
- 「これを かぶせたら いいよ。」(D下)
- まさおさんも ゆきの | たまを, ころがしました。(D下)
- ～ ゆきの たまを ころがしました。(D下)
- しるも うれしそうに, ゆきの 上を 走って いきま | す。(D下)
- 走って いきま | す。(D下)
- たまは だんだん 大きく | なって いきます。(D下)
- たまが ふたつ できました。(D下)
- よしこさんが すみを | もって きました。(D下)
- 「おもしろい, おもしろい。」(D下)
- むぎわらぼうしを 持って きました。(D下)
- あちらからも こちらからも, はくしゅ | が おこりました。(K上)
- あちらからも こちらからも(D上)
- あちらからも こちらからも(D中)
- 学芸会(D中)
- まも なく ふえが なって, 学芸会が(D下)
- たくさん ありま | す。(K下)
- おかあさんも おいでに なりました。(K中)
- おかあさんも おいでに なりました。(K下)

まも なく ふえが なって、 (K下)

まも なく ふえが なって、 (K下)

まさおくんたちは、「春が きた。」 | と いう (K下)

みちおくんが 友だちと、 | 「風の 子, 雪の 子」 (K下)

ゆきこさ | んの おかあさんも おいでに になりました。 (K下)

おもしろい ものが たくさん ありま | す。 (K下)

おかあさんも おいでに になりました。 (I中)

会場は いっばいに なりま | した。 (K下)

はくしゅ | が おこりました。 (I下)

はくしゅ | が おこりました。 (K下)

はじめのあいさつを しました。 (K下)

はじめの あいさつを しました。 (K下)

力いっばい し | ます。 (K下)

はじめの あいさつを し ました。 (K下)

みんな いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (K下)

みんな いっしょうけんめい 練習を (K下)

みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (K下)

「みんなで ~ (K下)

「わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (K中)

以上 3年

「わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (B下)

「わたしは 春の 使いです。」 (B下)

お客さんが ほめ ました。 (B下)

おもしろい ものが、たくさん ありま | す。 (B中)

- お話, 歌, おど | り, げき (B中)
- お話, 歌, おど | り, げき (B下)
- みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (B下)
- みんな いっしょうけんめい 練習を しましたが, (B上)
- しかし力いっばい し | ます。 (B下2)
- 「わたくしたちは, これから 学芸会を します。 (B下)
- おどり, げき, そのほか おもしろいものが (B下)
- まも なく ふえが なって, 学芸会が (B下)
- あちらからも こちらからも はくしゅ | が おこりました。 (B下)
- たかしくんは, 元気な 声で いいました。 (B下)
- まさおくんはねむりからさめました。 (G中)
- ふとんをしいてくださいました。 (G下)
- 「あ, 熱もありますよ。」 (G下)
- ふとんをしいてくださいました。 (G下)
- ひたいに手をあててみられました。 (G下)
- れんらくのみごとなこと。 (以上 4年 C下)
- 勢いをもって飛んで来る。し | かも, こしから下を (C中)
- 内野の味方がつぎつぎに | ふえてきた。 (C中)
- ボールが飛んで来た。すくいあげるようにすると, (C中)
- 少しおじけていたようである。 (C下)
- この時, 味方は三人になっていた。 (C下)
- ひとりふたりとたおされていく。 (C下)
- 薮わの鳥が, あわただしく大空を飛び去っていった。 (K下)

- ～ あわただしく (J上)(K下)
- ～ あわただしく (K下)
- うすやみの中にういて、わたくしをささえた。 (F中2)(K下)
- わたくしをささえた。 (J下)
- なんべんも歌って、わたくししにに教えた。 (K中)(K下)
- わたくしのおさない心にししみこませた。 (J上)(K下2)
- うすやみの中にういて、わたくしをささえた。 (K上)(K中)(K下)
- こっこくと自然は色をかえ、形をかかえていった。 (F下)
- 母は、かるい気持ちで歌をうたう時ですら、なみだを (J上)
- ～ うたう時ですら、なみだを (J下)
- ～ うたう時ですら、～ (K下)
- 自然が詩のように美しいことを、 (K下)
- 自然が詩のように美しいことを、わたくしの (K下)
- 自然が詩のように美しいことを、 (K下)
- やがて新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (J中)
- やがて新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (K下)
- こっこくと自然は色をかえ (K上)
- こっこくと自然は色をかえ、 (J上)
- こっこくと自然は色をかえ、 (J中)
- 空気はすみ、あたりは静かで、 (J中)
- わたくしは母にだかれたまま、 (K中)(K下)
- 「夕空晴れれて」 (J中2)(K下)
- 「夕空晴れれて」 (K下)
- 「夕空晴れれて」 (K中)

- 「夕空晴れ | て」 (K上)(K中)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (K下)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (J中)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (K中)
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (K下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (K下2)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (K下)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (F上)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (K中)(K下)
- 母は、家の中の用事をすませると、 (K下)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (F上)
- 母の白い手がうすやみの中にういて、 (K下)
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (K下)
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (K上)
- 母は学校のころに習った歌だといって、 (F上)(K下)
- 母は学校のころに習った歌だといって、 (K下)
- もみじの木が一本はえて | いた。 (F下)
- もみじの木が一本はえて | いた。 (J中)
- 母は、家の中の用事をすませると、 (K下)
- なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (K中)
- なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (J中)(F下)
- なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (J下)
- それがわたり | 鳥であるということも (F中)(K下2)

以上 5年

- ひとり | は荷物を持っていたために (G下)
- あんなにかけたがっていた人が, (G中)
- あんなにかけたたがっていた人が, (G下)
- こしかけた人を見えています。 (G中)
- こんどは安心してかけられま | した。 (C中)(C下)
- こんどは安心してかけられま | した。 (G下2)
- ひとりはかけられるぐらいあ | いていました。 (G下)
- ひとりはかけられるぐらいあ | いていました。 (G下)
- ひとりはかけられるぐらいあ | いていました。 (G下)
- 少しおそかったので、席を取られました。 (G上)
- お荷物を持ちましよう。 (G下)
- お荷物があって | たいへんでしょうから。 (G下)
- ふたりの女の人が乗りこんで来ました。 (G下)
- ふたりとも | 乗るがはやいか、わたくしの (G下)
- なかよく話して行かれたことと思います。 (C下)
- 行かれたことと思います。 (G下)
- お荷物を持ちましよう。】 | と いいながら (G下2)

以上 6年

(3) 単語で

- めだかが いっびき | はいりました。 (F下)(A下3)
- 「は いった, は いった。」 | と (F下)(A下)
- 「に げた, に げた。」 | と (F下)

「にげた、にげた。」と (F下2)

みちおさんが | すくいました。 (A下)

めだかが いっびき | はいりました。 (F下)

めだかは すうっと | にげました。 (F下)

すみこさんが | いいました。 (F下)

すみこさんが | いいました。 (A下)

以上 1年

うしを 見に いきました。 (H下, E下)

こうしは きよとんと して、 (H下)

「トン、トン トン。」と、 (E下)

おやうしが うごくと、 | (E下)

おやうしが うごくと | ころげそうに なります。 (C下)

おやうしの | ちちを、おいしそうに | のんで います。 (E下)

おじさんが | 「トン、トン トン。」 (E下)

「いた、いた。」 (E下)

「いた、いた。」 (H下)

足が、しっかり しないので | しょう。 (E下)

足が、しっかり しないので | しょう。 (E下)

こうしは、おやうしの | ちちを、 (E下2)

以上 2年

ねえさんが、まゆげや | 目を いろいろに (C中)

わらったように になったり しました。 (C下)

おど | り、げき、その ほか おもしろい ものが、 (K下)

「わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (K下)

学芸会を します。お話、歌、 (K下)

一ばん 始めに ゆきこさんが、 (K下)

歌を 読みました。| つぎに みちおくんが (K下)

もう すぐ 学芸会が 始まります。 (K下)

これから 学芸会を します。 (K下)

「風の 子、雪の 子」 (K中)(K下2)

「風の 子、雪の 子」 (K上)(K中3)(K下3)

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (K中)

げき その ほか おもしろい ものが、 (K下)

その ほか おもしろい ものが、 (K下2)

まだ | じょうずに (K下)

練習を しましたが、 (K下)

おもしろい ものが、たくさん ありま | す。 (K下)

だんだん お客さんが 集まって、 (K下)

たかしくんが 立って、はじめの あいさつを しました。 (K下)

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (K上)

みちおくんが 友だちと、 (I上)

以上 3年

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (B下2)

春の 使いです。」| と いう、歌を (B上)

練習を しましたが、まだ | じょうずに (B下)

「風の子、雪の子」 (C下)

「風の子、雪の子」 (B中)

「風の子、雪の子」 (B中)

じょうずに できないのも あります。 (B下)

あちらからも こちらからも、 (B下)

こちらからも、はくしゅ | が (B下)

では これこら 始めます。 (B下)

みんなで おどる ところが | かわいいね。 (B下)

いつものような元気がありません。 (G下)

静かな朝です。まくらもとの火ばちにかけた、 (G下)

おかあさんのあたたかいことばに、 (G下)

「あ、熱もありますよ。」 | とあわてて、 (G下)

顔色が悪いわ。」 | といいながら、 (G下)

まさおくんは ねむりからさめました。 (G下)

以上 4年

道男君は取る | がはやいか西組の人の～ (C中)

こっこくと自然は色をかえ、 (F下)

こっこくと自然は色をかえ、 (F上)

こっこくと自然は色をかえ、 (F上)

こっこくと自然は色をかえ、 (F下)

こっこくと自然は色をかえ、 (F下)

母の白い手がうすや | みの中にういて、 (F下)

「夕空晴れ | て」 (K下, J下)

やがて新聞社から帰ってくる父を (K下)

夕暮れはすばらしかった。| 空気はすみ, (K下)

母の顔 | を見つめて, 美しい歌声を聞いていた。 (K下)

ふたりとも | 乗るがはやいか, (C中)

以上 5年

以上 6年

(4) 文節で

めだかが いっぴき | はいりました。 (F下)

以上 1年

ぼくは, いちろうさんと, うしを 見に いきました。 (E下)

こうしは きょんととして, (E下2)

こうしは きょんととして, (H下)

「おじさん, こうしは。」 | と, ききました。 (E下)

足が, しっかり しないので | しょう。 (E下)

以上 2年

と いうて, むぎわらぼうしを 持って きました。 (C下)

あちからも こちらからも, ばくしゅ | が (K下)

あちからも こちらからも, (K下)

おとうさんが, おいでに なりました。 (K下)

おかあさんも おいでに なりました。 (K下)

はじめの あいさつを しました。 (K下)

「わたしは 春の 使いです。」 (K下)

まだ | じょうずに できないのも あります。 (K下)

元気な 声で いいました。 (K上)

以上 3年

「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (C中)

のどを見たりしていられましたが、 (G下)

お医者さんがおいでになって、 (G下)

「ああ、かぜだよ。」 (G下)

まさおくんはねむりからさめました。 (G下)

以上 4年

母は学校のころに習った歌だといって、 (F下)

以上 5年

(5) その他

顔色が悪いわ。」 | と (G下)

「まあ、よくねむったこと。 (G下)

あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G下)

あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G下)

まさおくんはねむりからさめました。 (G下)

以上 4年

ボールが「ビュウッ、ビュウッ。」と飛んで来る。 (C中)

わたくしは母にだかれたまま、母の顔を (F上)

帰って来る父を待つのだった。 (K下)

母は学校のころに習った歌だといって、 (F下)

青山の家は、ささやかなすまいであった。 (F下)

自然が詩のように美しいことを、 (K下)

空気はすみ (K下)

それがわたり | 鳥であるということも、 (K下)

それがわたり | 鳥であることも、 (F上)

わたくしをひぎの上にのせた。 (J下)

以上 5年

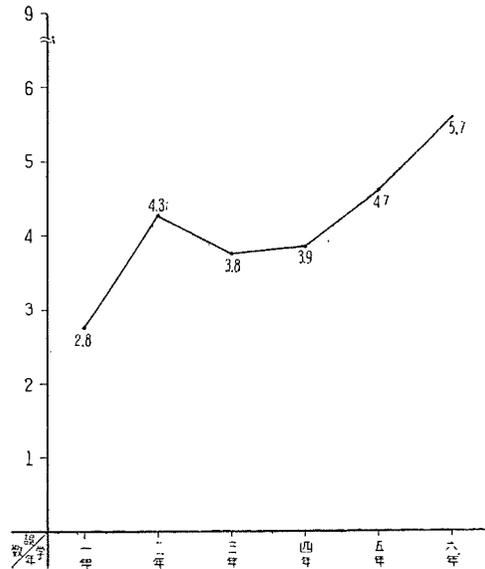
ひとりはかけられるぐらいあ | いていました。 (C中)

以上 6年

8. 読みの休止が不自然な事例

読みの休止が不自然	1005
(1) 意味を無視して休止する	521
(a) 単語のなかで	
(b) 文節のなかで	
(c) その他	
(2) 抵抗のある単語の前で	305
(a) 漢字ではじまる単語の前で	
(b) 固有名詞の前で	
(c) その他	
(3) 句読点を無視して休止する	179
(a) 「とめ」を無視して	
(b) 「くぎり」を無視して	

第 20 図 読みの休止が不自然である
(学年別、1人当りの事例の平均数)



読みの休止が不自然な事例について、学年別に1人当りの事例の平均数を出してみると、第20図のようになる。

(1) 意味を無視して休止する

(a) 単語のなかで

めだかすくい (A中)

めだかすくい (A上)(E中2)(F下, A下)

めだかすくい (A上)(A下)

めだかが いっぴき はいりました。 (A下)

と、ゆきこさんが (A下, F下)

みちおさんが すくいました。 (A下)

みちおさんが (A中)(A下)

みちおさんが (A下)

みちおさんが (A下)

まさおさんが すくいました。 (A中)

と、すみこさんが いいました。 (A中)(A下3)

と、すみこさんが (F下)

めだかは すうっと にげました。 (A中)

めだかは すうっと にげました。 (A上)(F中)(A下)

めだかが いっぴき はいりました。 (A下)

めだかが いっぴき はいりました。 (A中)(A下)

めだかが いっぴき はいりました。 (F中)

「はいった はいった。」 (A下2)

と、ゆきこさんが いいまし た。 (A上)(C下)

と、ゆきこさんが いいまし た。 (A下)

まさおさんが すくいまし た。 (F下, A下)

すくいまし | た。

(F中)(F下)

すくいまし | た。

(A下)

以上 1年

おやうしが うごくく、

(E下3)

おやうしが、じっと 立って います。 (E中)(C下2, E下, F下, H下2)

おやうしの | ちちを、おいしそくに | のんで います。 (C中2)(C下, H下)

足が、しっかり しないので | しょう。

(H下)

ぼくは、いちろうさんと、

(E下2)

いちろうさんと、

(F中)

と、かいぼおけを たたきました。 (E上2)(H中2)(E下, H下4)

かいぼおけを たたきました。 (E上)(H中)(C下, E下, H下)

かいぼおけを たたきました。 (C中2)(E中, H中)(E下2)

「よく 見て ごらん。」

(H下)

と、かいぼおけを たたきました。

(F中)

ころげそくに なります。

(F下)

ちちを、おいしそくに

(H下)

ころげそくに なります。

(C中2)(E下)

ころげそくに なります。

(C中)(H下2, E下)

ころげそくに なります。

(E下)

よしこさんが、

(E下, H下)

「いた。いた。」

(E下3)

目を 小さく して、口を うごかして

(E中)

こうしは きょんとんと して、

(C中)(H下)

こうしは きょんとんと して、

(E下)

- 口を うごかして います。
 (E中)(H下)
- と、 ききました。
 (E下2)
- ちちを、 おいしそうに
 (C下)
- 「おじさん、 こうしほ。」
 (C中)
- 以上 2年
- まさおさんも ゆきの たまを
 (D下)
- たまころがしのようだね。
 (C上)(C中)(C下2, D下)
- たまころがしのようだね。
 (C中, D中)(D下2)
- いろいろに つけかえると、
 (D上)(C中)
- いろいろに つけかえると、
 (D上)
- よしこさんが すみを もって きました。
 (C中)(D下)
- と、 ひろしさんも いいました。
 (D下)
- みんなで たまを かさね ました。
 (C中, D中)(D下)
- 「これを かぶせたら いいよ。」
 (D下)
- 「これを かぶせたら いいよ。」
 (C下)
- たまが ふたつ できました。
 (D下)
- と、 いて むぎわらぼうしを 持って、
 (D上)
- ねえさんが まゆげや
 (C下)
- ゆきだるまは おこったように なったり
 (C中)
- おどる ところが かわいいね。」
 (K下2)
- みちおくんが 友だちと
 (K上)(I下)
- おどる ところが かわいいね。
 (I下)
- 力いっぱい し ます。
 (K下2)

- まも なく ふえが なって、 (K下, I下)
- たくさん ありま | す。 (I上)(I中, K中)(K下2)
- たくさん ありま | す。 (I下, K下2)
- 歌, おど | り, げき (I下, K下2)
- じょうずに できないのも あります。 (I下)
- じょうずに できないのも あります。 (K下2)
- ゆきこさんの (I下)
- まさおくんたちは, (I下)
- まさおくんたちは, (I中)
- 学芸会が 始まります。 (I下)
- 始まります。 (K下)
- では これから 始めます。 (I下)
- 「わたくしたちは, これから (K上) (K中)
- 一ばん 始めに ゆきこさんが (K下2)
- 「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (I下)
- あちらからも こちらからも, (K下)
- あちらからも こちらからも, (I下, K下)
- その ほか おもしろい ものが, (K中)
- こちらからも, はくしゅ | が おこりました。 (K下)
- たかしくんは, 元気な 声で いいました。 (I下)
- おいでに なりました。 (K下)
- と, お客様さんが ほめました。 (K下2)
- 「わたしは 春の 使いです。」 (I下, K下)

たかしくんが 立って、 (K下)

たかしくんは、元気な 声で いいました。 (K下)

以上 3年

歌、おど | り、げき、 (B下)

学芸会を します。 (C中)

おもしろい ものが たくさん ありま | す。 (C中)

おいでに なりました。 (B下)

おとうさんが、おいでに なりました。 (B下)

力いっぱい し | ます。 (C下2)

あちらから も こちらからも、 (B上)(C中)

じょうずに できないのも あります。 (B下)

会場は いっぱいに なりました。 (B下)

みんな いっしょうけんめい 練習を (B下)

みちおくんが 友だちと、 (C中)(B下)

たかしくんが 立って、 (B下)

一ばん 始めに ゆきこさんが、 (B下)

あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (C中)(G下)

あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G中)

おかあさんのあたたかいことばに、 (G下)

おかあさんのあたたかいことばに、 (G下)

ふとんをしいてくださいました。 (G中)

ずっと ねているのです。 (G上)

いつものような元気がありません。 (G下)

にこにこしながら | らはいつてきました。 (G下)

やかんのお湯が、 (G下)
 ひといに手をあててみられました。 (G下)
 のどをみたりしていられましたが (G下)
 のどを見たりしていられましたが、 (G下)
 まくらもとの火ばちにかけた、 (G下2)
 まくらもとの火ばちにかけた、 (E下)

以上 4年

すくいあげるようにすると、 (C上)(C下2)
 れんらくのみごとなこと。 (C中2)(C下)
 ぼくにわたしてくれた。 (C下)
 男子のセンターにわたし | ていく。 (C下)
 みんなが、さかんにはくしゅを送っ | てくれる。 (C中)
 すぐに道男君にわたすと、 (C中)
 ぼくを目がけてボールが飛んで来た。 (C中)
 七対三でぼくらの勝であった。 (C中)
 強くなったぼくらに (C下)
 後半戦にはいった。 (C下)
 ひとりふたりとたおされていく。 (C中)
 外野からせめられる時は、 (C下)
 いよいよ決勝戦に進むことになった。 (C下)
 大空を飛び去っていった。 (J上, F上)(F中, J中2, K中)
 (F下, J下, K下)
 大空を飛び去っていった。 (F中)
 救わの鳥が、あわただしく大空を (J下2)
 それがわたり | 鳥であるということも、 (J上2)(J中2)

- わたくしのおさない心に (F下)
- おさない心にし | みこませた。 (J上2)
- 美しい声でなんべんもうたって、 (F上)
- こっこくと自然は (J上)
- 自然が詩のように美しい (F下)
- わたくしをささえ | た。 (F下)
- わたくしをささえ | た。 (F上)
- うすやみの中にういて、 (K中)
- 庭にいすを出してすわり、 (K下)
- ささやかな すまいであった。 (K中)(J下)
- ささやかな すまいであった。 (K中)
- にじませるくせがあった。 (J上)(K下, F下)
- にじませるくせがあった。 (K下)
- 空気はすみ、あたりは静かで、 (K下)
- もみじの木が一本はえて | いた。 (J上)
- 歌をうたう時ですら、 (K下)
- 歌をうたう時ですら、 (F上)
- 歌をうたう時ですら、 (F上)(J中2)(K下2)
- 母にだかれたまま、 (J中)
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (K中)
- 「夕空晴れ | て」や (J上, F上)(F下, K下)
- 「夕空晴れ | て」や (J下)
- 「夕空晴れ | て」や (F上4)(F中2)(J下)

やがて新聞社から帰ってくる (J上)

母はかるい気持で歌をうたう (J下)

帰ってくる父を待つのだった。 (F上)

以上 5年

あんなにかけたがっていた人が、 (C中, G中)(C下)

あんなにかけたがっていた人が (G下)

「お気をつけてね。 (G中)

ひとりしかけられるぐらいあ | いていました。 (G下)

～かけられるぐらいあ | いていました。 (G下)

さっきおしのけるようにして取った席を、 (G下)

わたくしが電車からおりる時には、 (C下)

「あなた どうぞおかけください。 (C下)

たいした荷物ではございません。 (C下)

こんどは安心してかけられま | した。 (C下)

「いいえ、たいした荷物ではございません。 (G下)

ていねいに預かりました。 (G下)

かけられて助かった。 (C中)

では、お荷物を持ちましょう。 (G下)

たすかった | とひとりごとを言っています。 (G下)

席を取られてしまいました。 (C下)

席を取りあった女の人が (C下)

なかよく話して行かれたことと思います。 (C下)

おしまいにはゆずり合 | うように (C中3)(C下)

ゆずり合 | うように (C上)(C下)

以上 6年

(b) 文節のなかで

と、ゆきこさんが いいまし | た。(A下)

めだかは すうっと | にげました。(C中)

めだかが いっぴき (A下3)

以上 1年

足が しっかり しないので | しょう。(C上, E上3, H上3)(C中, H中2)(C下2, F下4, H下7)

かいぼおけを たたきました。(C中)

かいぼおけを たたきました。(E下, H下)

おじさんが, 「トン, トン トン。」 (F下2)

目を 小さく | して, (H下3)

以上 2年

これを かぶせたら いいよ。」 (D下)

大きいのと, 小さいのと (D下2)

大きいのと, 小さいのと (D下2)

みんなは 外へ 出ました。(D下)

まさおさんも ゆきの | たまを ころがしました。(D下)

たまころがしのようだね。(C下)

たまころがしのようだね。(C中)(C下)

まさおさんも ゆきの | たまを (C中)

まさおさんも ゆきの | たまを ころがしました。(C下)

「みんなで おどる | ところが | かわいいね。」 (K上3)(K中2, I中2)(K下4)

元気な 声で | いいました。(K下)

- 「わたくしは 春の 使いです。」 (I上)
- おとうさんが おいでに なりました。 (K下2)
- 「風の 子, 雪の 子」 (I上)
- 「風の 子, 雪の 子」 (I上)
- と いう, 歌を 読みました。 (K下)
- その ほか おもしろい ものが, (I上)(I中2)(I下)
- おもしろい ものが, (I下)
- しかし力いっぱい し ます。 (K上)
- あちらからも (I上, K上)(K中2)(I下)
- あちらからも (I上)(I下, K下)
- こちらからも (K上)(I下)
- じょうずに できないのも あります。 (K下)
- まさおくんたちは, (K下)
- ゆきこさ んの おかあさんも (K下)
- みちおくんの おとうさんが (I下, K下2)
- おいでに なりました。 (I下)
- はくしゅ が おこりました。 (K下)
- はくしゅ が おこりました。 (K下)
- 「みんなで おどる ところが かわいいね。」 (K中)
- 学芸会が 始まります。 (I中, K中)(K下)
- 学芸会が 始まりました。 (I中)
- いっしょうけんめい 練習を しましたが, (IK, K下2)
- と いう, げきを しました。 (I下)

- みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (B下)
- わたくしたちは、これから (C中)
- 練習を | しましたが、まだ (B下)
- じょうずに | できないのも | あります。 (C下)
- のどをみたりして| いられましたが、 (G下)
- 三日ほど前| のことです。 (G中)
- やかんの | お湯が、 (G下)
- おかあさんがに| こにこしながら (G下)
- 「まあ、よくねむったこと。 | 気分はどう。」 (G下)
- おかあさんがに| こにこしながら、 (G中)
- おかあさんの| あたたかいことばに (G下)
- いつ | ものような元気がありません。 (G下)
- ずっと| ねているのです。 (G下)
- ずっと| ねているのです。 (G中)(G下)
- あたたかくして| ねていたら | よくなるよ。 (G中)
- のきばで| 鳴いている| すずめの| 声が、 (G中)
- 学校から| 帰ってきた| まさおくんは、 (G中)(G下)
- まさおくんは| ねむりから| さめました。 (G下2)
- のどを| 見たりして| いられましたが、 (G中)
- まさおくん| の顔を| 見るなり、 (G下)
- まさおくんは | にっこりして| うなづきました。 (G下)
- しめきって| あるしょうじ | に (G下)
- 道男君は| 取る | がはやいか (C中2)

以上 4年

- 前半終りのふえは鳴った。(C下)
- 前半終りのふえは鳴った。(C下)
- とりわけ女子がぐんぐんせめてくる。(C下)
- すばらしい勢いをもって飛んでくる。(C中)
- すぐ道男君にわたすと、(C下)
- 山本君の ボールは、(C下)
- しかし、ぼくたちは、いっしょうけんめいに(C中)
- 「ワァッ」という声が聞こえた。(C中)
- たおしたり、たおされたりして(C下)
- 見分けもつかないうちに、(C上)
- ボールを受けて、ぼくにわたしてくれた。(C中)
- その時、終りのふえが鳴った。(C下)
- 西組は、こんどこそはと、(C中)
- 母は、自然が詩のように美しいことを (J上)(J中2, F中)(J下)
- こっくくと 自然は色をかえ、(F中)
- 母の顔を見つめて、(K下, F下)
- 自然が詩のように美しいことを、(K下)
- おさない心にし | みこませた。(J上)(J中2)
- 美しい歌声を聞いていた。(F上)
- わたくし | に教えた。(F上)
- わたり | 鳥であるということも、(F下)
- やがて新聞社から (K下)
- 青山の夕暮れはすばしかった。(J中)
- 母は学校のころに習った歌だといって、(J上)

母は学校のころに習った歌だといって、 (J上)(F中, J中)
 わたくしを ひざの上にのせた。 (J下, K下)
 母と子は、 (F上)
 帰ってくる父を待つのがだった。 (F下)
 帰ってくる父を待つのがだった。 (F下)
 庭にいすを出してすわり、 (F上)
 かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J下, K下)
 青山の家は、 ささやかな (K中, J下)
 母は、 かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K中)

以上 5年

さっきおしのけるようにして取った席を、 (G下)
 さっきおしのけるようにして取った席を、 (G下)
 自分のひざの上にむりやりに取って、 (G下)
 自分のひざの上にむりやりに取って、 (G下)
 わたくしの席には、 荷物を持ったおぼさんが、 (C下)
 ひとりごとを言っています。 (C下)
 そう言ってから荷物を持った人に向かって、 (C中)(C下)
 たいした荷物ではございません。 (C中)
 たいへんでしょうから。 (C下)
 子供だから、 かけていらっしやいよ。 (C下)
 さきにこしかけて喜んでいた人が、 (C中)
 なかよく話して行かれたことと思います。 (C中)
 おしまいにはゆざり合うようになったのが、 (C下)
 荷物を持っていたために (C中)(G下)

「お気をつけてね、さようなら。」 (C下)

ひとり | は荷物を持っていたために (C下)

以上 6年

(c) その他

足が | しっかり | しないので | しょう。 (H下)

以上 2年

まささんも | ゆきの | たまを | ころがしました。 (D下, C下)

以上 3年

「みんなで | おどる | ところが | かわいいね。」 (C中3)(C下)

明かるい冬の日がさして、 (G中)

のきは鳴でているすずめの声、 (G中)

以上 4年

すくいあげるようにすると、 (C上)

すくいあげるようにすると、 (C上)

そういわれてみると (C下)

父を待つのが | だった。 (K下)

わたり | 鳥であるということも、 (J上)(K下)

以上 5年

ひとは荷物を持っていたために (C中2)

なかよく話し合っていました。 (C下)

以上 6年

(2) 抵抗のある単語の前でためらう

(a) 漢字ではじまる単語の前で

うしを | 見 | きました。 (E下, H下)

こちらを | 見 | ました。 (H上)(E下)

以上 2年

ゆゆだるまの 形が できました。 (D中)(D下)

ねえさんが ゆきを 固めて ころがしました。 (D下)

一ばん 始めに ゆきこさんが, (K中)

お客さんが 集まって, 会場は いっぱいに (I下)

たかしくんが 立って, はじめの あいさつを (I下)

いっしょうけんめい 練習を しましたが, (I中)

「わたしは 春の 使いです。」 (K上3)(I下2, K下)

たかしくんは, 元気な 声で いいました。 (I下)

以上 3年

しかし 力いっぱい します。 (C下)

お客さんが 集って, 会場は いっぱいに (C中)

「わたしは 春の 使いです。」 (C下)

ひたいに手をあててみられました。 (G下)

「シュン, シュン。」と音をたてています。 (G下)

すずめの声が, 気持よく聞こえます。 (G中)(G下)

お医者さんがおいでになって, 脈をみたり, (G上)

脈をみたり, 熱を計ったり, (G上)

以上 4年

相手は五年西組である。 (C中2)

そのため, 味方は (C中)

この時, 味方は三人になっていた。 (C中)

こんども 六対五で勝ち, (C中)

また外野へ 返って来た。 (C中)

- その時 受持の先生が、 (C中)
 ||
 じょうずな道男君まで、 (C上)
 ||
 こしから下をねらうので、 (C上)
 ||
 勝負の | 見分けもつかないうちに、前半終りのふえは (C上)
 ||
 ぼくを目がけて、 (C上)
 ||
 とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C中)
 ||
 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、(F上2, J上)(J中2, F下, J下2)
 ||
 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (J上)(F中)(K下, J下3)
 ||
 「庭の 千草」 (J上2)(J中2, K中2)(K下2, J下2)
 ||
 「庭の千草」や「夕空晴れ | て」 (F上)
 ||
 歌だといって、「庭の千草」や (K中)
 ||
 「夕空 晴れて」 (J上3)(J中2, F中)(J下)
 ||
 淑わの鳥が、あわただしく (K中2)(K下2)
 ||
 母は学校のところに習った歌だといって、 (J上2)(J下2, F下2)
 ||
 母は学校のところに習った歌だといって、 (F下)
 ||
 母は学校のところに習った歌だといって、 (F上)(F中, J中)
 ||
 母は、自然が詩のように美しいことを、 (F下)
 ||
 母は、自然が詩のように美しいことを、 (J上)
 ||
 母は、自然が詩のように美しいことを、 (J中)
 ||
 「ほたるの光」を、美しい声でなんべんもうたって、 (K下)
 ||
 新聞社から帰ってくる父を待つのがだった。 (J中, K中)
 ||
 新聞社から帰ってくる父を (F上)
 ||
 帰ってくる、父を待つのがだった。 (K中, F中)
 ||
 空気はすみ、あたりは静かで、 (K上)
 ||

なみだを大きな 目 に じませる くせがあった。 (F上)(F下, K下)

青山の夕暮れは (F上)

そして、母 と 子は、 (F上) (J下)

もみじの木が 一本はえて いた。 (J中, F中)

青山の家は、 (J下)

青山の家は、 (J中2, F中2)(J下)

母の 顔を見つめて、 (F下)

「ほたるの光」 (F中)

歌をうたう 時ですら (J上)

用事をすませると、夕暮れの庭に (J中)

美しい歌声を聞いていた。(K上2, J上2)(F中, K中, J中2)(K下3, J下)

自然は色をかえ、形をかえていった。 (J中)

あわただしく 大空を飛び去っていった。 (K下)

こっくと自然は色をかえ、 (F上2, K上)(F下)

こっくと自然は色をかえ、 (J中)(F下, J下)

母は、家の中の用事をすませると、 (J上2)(J中2)

母は、家の中の用事をすませると、 (J下)

小さい庭のすみに、 (J上)

以上 5年

さきにしかけて喜んでいた人が (G下)

わたくしのとなりの席を見つけて、走って来ました。 (C中)

わたしが電車からおりる時には、 (C上)

前から知っていた人のように、 (G下)

話して行かれたことと、 (G下)

- そう言ってから荷物を持った人に向かって (C中)
 荷物を持った人に向かって、 (C中)
 初めあんなに席を取りあった (C上)
 前から知っていた人のように、 (C下)
 そう言ってから荷物を持った人に向って、 (C中)
 こしかけた人を見えています。 (C下)
 電車からおりる時には、 (G下)
 わたくしに教えた。 (J下, F下2)
 母の白い手がうすやみの中にういて、 (J中)
 母の白い手がうすやみの中にういて、 (J上)(J下)
 電車が停留所に着くと、 (C上)(C中)
 電車が停留所に着くと、 (C下, G下)
 声をそろえて送っていただきました。 (C中, G中)
 以上 6年

(b) 固有名詞の前で

- いいました。みちおさんが (A上)
 と、すみこさんが (A上)
 以上 1年
 ぼくは、いちろうさんと、 (H下)
 以上 2年
 学芸会が始まります。みちおくんの (C下)
 合唱をしました。まさおくんたちは、 (C中)
 以上 4年

(c) その他

- みちおさんがすくいました。 (C中2)

いっぴき | はいりました。 | 「はいった、はいった。」 (A上)(A中)(A下)
 ||

いっぴき | はいりました。
 || (C中2)

めだかは すうっと | にげました。
 || (C中)

めだかは すうっと | にげました。
 || (C下)

まさおさんが すくいまし | た。
 || (C下)

と、ゆきこさんが いいました。
 || (A上)(C中)

「はいった、はいった。」
 || (F中)

以上 1年

こうしは きょんととして
 || (E下, H下)

いちろうさんと, うしを 見
 || (E中)

「おじさん, こうしは。」
 || (E上)(H下)

足が しっかり しないのでしょ。う。
 || (E中)(H下)

おやうしが, じっと 立っ | て います。
 || (H下)

以上 2年

みんなで たまを かさね | ました。
 || (C上)

まもなく ふえが なって,
 || (K上)(I中2)

おもしろい ものが, たくさん ありま | す。
 || (I中)(I下2)

たくさん ありま | す。 みんな いっしょうけんめい
 || (I中)

しかし力いっばい しま | す。
 || (I下2)

合唱を しま | しました。
 || (I中)

雲の 子 | の 合唱を しま | しました。
 || (I下2)

春の 使 | いです。」と いう,
 || (I下)

以上 3年

- おとうさんが、おいでに になりました。 (C中)
 ||
- お客さんが ほめました。 (C上)
 ||
- だんだん お客さんが 集まって (C下)
 ||
- あたたかくしてねていたら | よくなるよ。 (G上)
 ||
- しめきってあるしょうじ | に (G中)
 ||
- おかあさんがにこにこしながら | らはいつてきました。 (G上2)(G中3)(G下3)
 ||
- まさおさんはにっこりしてう | なずきました。 (G中)(G下)
 ||
- おかあさんのあたたかいことばに、 (G下)
 ||
- のどを見たりしていられましたが、 (G下)
 ||
- のきばで鳴いているすずめの声が、 (G中)
 ||
- 以上 4年
- 後半戦にはいった (C上)
 ||
- ボールはは | ね返って来た。 (C中2)
 ||
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (F上2)(F下)
 ||
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (J下2)
 ||
- 「庭の千草」や (F中)(J下)
 ||
- 目ににじませるくせがあった。 (F上2, J上, K上)(J中)(J下2, F下, K下)
 ||
- 目ににじませるくせがあった。 (F下)
 ||
- それがわたり | 鳥であるということも、 (J上2)
 ||
- それがわたり | 鳥であるということも、 (J上)
 ||
- それがわたり | 鳥であるということも、 (F下)
 ||
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (J下)
 ||
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (J上2, F上)(J中, F中)(J下3)
 ||

美しい声でなんべんもうたって、 (K下)
 ||
 空気は すみ (J下)
 ||
 空気はすみ、あたりは静かで、 (K下)
 ||
 こっこくと自然は色をかえ、 (K下)
 ||
 あたりは静かで、こっこくと自然は色をかえ、 (J下3)
 ||
 自然は色をかえ、形をかえていった。 (J中)(J下)
 ||
 母は、かるい気持ちで歌をうたう時ですら、 (J中)
 ||
 小さい庭のすみに (F上)
 ||
 わたくしをひぎの上にのせた。 (J上)(J中, F中)
 ||
 わたくしをひぎの上にのせた。 (J中)
 ||
 わたくしをささえ | た。 (F上)(J中, F中2)
 ||
 わたくしのおさない心にし | みこませた。 (J中, F中2) (F下)
 ||
 大きな | 目になじませるくせがあった。 (F上)(F中, J中)(F下3)
 ||
 母の白い手がうすやみの中にういて、 (J中3)
 ||
 うすやみの中にういて、 (F上)
 ||
 以上 5年
 ||
 わたくしのとにも、ひとりはかけられるぐらい (C上)
 ||
 わたくしのとにも、ひとりはかけられるぐらい (G下)
 ||
 乗るがはやいか、わたくしのとりの席を見つけて、 (C上)(G中2)
 ||
 席を取りあった女の人が、おしまいには (C上)
 ||
 おかけください。お荷物があって (G中)
 ||
 たいへんでしょうから。」 | と、 (G下2)
 ||
 わたくしは | こしをかけていました。 (C中)
 ||
 どうぞ、おかまいなく。」 (C上)
 ||

- 「やれやれ、かけられて助かった。」 (C中)
 ||
 あんなにかけたがっていた人が、 (G下)
 ||
 その電車はわりにすいていて、 (C上)(G下)
 ||
 お荷物があって | たいへんでしょうから。」 (G下)
 ||
 電車の中でのことです。 (G下)
 ||
 以上 6年

(3) 句読点を無視して

(a) 「とめ」を無視して

- いっぴき | はいりました。 | 「はいった、はいった。」 (A下)
 V
 「はいった、はいった。」 | と、 ゆきこさんが (C下)
 V
 いまし | た。 | みちおさんが (F下)
 V
 すくいました。 | めだかは (F上)(A中)(A下)
 V
 にげました。 | 「にげた、にげた。」 (F中)
 V
 以上 1年
- ころげそうに | なります。 | おじさんが (F中)
 V
 「いた、いた。」 | こうしは、 (E上)
 V
 のんで | います。 | 足が、しっかり (C上)(F下)
 V
 しっかり | しないので | しょう。おやうしが (E下)
 V
 と、ききました。 | 「よく 見て ござん。」 (E上)
 V
 「よく 見て ござん。」 | 「いた、いた。」 (C下)
 V
 以上 2年

- すみを もって きました。 | ねえさんが、 (C下)
 ↓
- かぶせました。 | 「おもしろい、おもしろい。」 (C下)
 ↓
- ころがしました。 | 大きいのと 小さいのと、 (C下2)
 ↓
- ころがしました。 | 「たまころがしのようだね。」 (C下)
 ↓
- ふたつ できました。 | 「わっしょい、わっしょい。」 (C下)
 ↓
- 力いっぱい し | ます。では これから 始めます。 (I上)(F中, I中)
 ↓ (I下, K下3)
- これから 始めます。 | たかしくんは 元気な 声で (I上)(I下4)
 ↓
- はくしゅ | が おこりました。一ばん 始めに (I上2)(K中)(I下3)
 ↓
- じょうずに できないのも あります。しかし力いっぱい (I中, K中)
 ↓ (K下)
- 春の 使いです。 | という、歌を 読みました。 (I上2)(K下)
 ↓
- はじめの あいさつを しました。 | 「わたくしたちは、 (I上)(I下)
 ↓
- げきを しました。 | 「みんなで (K上)(I中)(I下, K下)
 ↓
- たくさん ありま | す。みんな いっしょうけんめい (K下2)
 ↓
- 学芸会を します。 | お話、歌、 (K下2)
 ↓
- おいでに になりました。 | ゆきこさ | んの (I上)(K中)
 ↓
- おいでに になりました。 | だんだん (I上)
 ↓
- いっばいに なりま | した。まも なく (I上)
 ↓
- 合唱を しました。 | まさおくんたちは、 (I下)
 ↓
- 始まりました。 | たかしくんが 立って、 (I下)
 ↓

歌を 読みました。| つぎに、みちおくんが (I上)
 √

元気な 声で いいました。| あちらからも こちらからも、 (I上)
 √

以上 3年

おいでに になりました。ゆきこさ | んの (B上)(B下)
 √

げきを しました。| 「みんなで おどる (B中)(C下2, B下)
 √

力いっぱい し | ます。では これから 始めます。 (B中)(B下)
 √

はくしゅ | が おこりました。| 一ばん 始めに (C中)(B下)
 √

春の 使いです。」と いう、歌を 読みました。 (C上)
 √

学芸会を します。お話、歌、 (B下)
 √

できないのも あります。しかし 力いっぱい し | ます。 (B下)
 √

学芸会が 始まります。| みちおくんの (B下)
 √

始まりました。| たかしくんが 立って (B下)
 √

いっぱいになりま | した。まも なく (C下)
 √

静かな朝です。まくらもとの火ばちにかけた、 (C下)
 √

気分はどう。」| おかあさんのあたたかいことばに (G下)
 √

以上 4年

味方は三人になっていた。√すぐ道男君にわたすと、 (C中)

西組の人のせなかに投げつけた。√ボールはころがって、 (C中2)

作戦をねった。√その時受持の先生が (C中2)

声をからしてさげんでいる。√その時、かず子さんが (C中2)

外野へ | 返って来た。√かず子さんが投げる、 (C中)

- 逆にせめて来る。たおしたり、たおされたりして、 (C上)(C中)
- 校内第一と | いわれている。しかし、ぼくたちは、 (C中)
- 相手はあわてだした。が、もうおそく、 (C中2)
- 人数を調べると、九対八。 | 一点のちがいで (C中)
- 試合が始まった。相手はこの前、 (C下)
- 戦おうと決心した。どの学年も、 | 東組はぼくたちに、 (C中)
- 試合が始まった。相手は五年西組である。 (C中)
- 相手は五年西組である。みんながさかんに (C中)
- たおされてしまった。そのうちに、 (C中)
- 男子のセンターにわたし | ていく。れんらくのみごとなこと。 (C下)
- はく手を送っ | てくれる。 | 西組のセンター山本君のボールは (C下)
- ぼくは外野にまわった。 | 西組は、こんどこそはと、 (C下)
- 後半戦にはいった。ぼくは外野にまわった。 (C中2)
- 声をからしてさげんでいる。その時 | かず子さんが、 (C中)
- れんらくのみごとなこと。そのため、味方は、 (C中2)(C下)
- ボールははね返って来た。その時、終りの (C中)
- 大きな | 目ににじませるくせがあった。わたくしは母に (K中2, J中3)
- わたくしをひざの上にのせた。そして、母 | と子は、 (F上)(K中2)(K下3)
- わたくし | に教えた。母は、かるい気持で (J中)(J下2)
- もみじの木が一本はえて | いた。母は家の中の用事を (F下, J下)
- 大空を飛び去っていった。それがわたり | 鳥であるということも (K下, J下2)

美しい歌声を聞いていた。| 青山の夕暮れはすばらしかった。 (F中, J中)
 ↓ (F下)

母からおそわった。| 母は自然が詩のように美しいことを (F下2)
 ↓

わたくしをささえ | た。| 母は学校のところに習った歌だといって (F上)(F下)
 ↓

以上 5年

わたくしは | こしをかけていました。| わたくしのとたりにも~ (C下)
 ↓

走って来ました。| ひとり | は荷物を持っていたために~ (G下)
 ↓

かけようとしません。| すると、| さきにしをかけて~ (G上)(G下)
 ↓

以上 6年

(b) 「くぎり」を無視して

「にげた、にげた。」| と、すみこさんが | いいました。 (F下)
 ↓

以上 1年

「トン、トン トン。」| と、かいばおけを たたきました。 (F下, C下)
 ↓

「よく 見て ござん。」| 「いた、いた。」 (F下2)
 ↓

おやうしが うごとと、| ころげそうになります。 (C下)
 ↓

よしこさんが、| 「おじさん、こうしは。」 (E上)(C中2)
 ↓

おじさん、| こうしは。」 (C下)
 ↓

よしこさんが、「おじさん、こうしは。」 | と、ききました。 (H中)(E下4, C下, H下)
 ↓ 以上 2年

お話、歌、おど | り、げき、そのほか (K下)
 ↓

かわいいね。」| と、お客さんが ほめました。 (K下)
 ↓

ゆきこさんが、| 「わたくしは 春の 使いです。」 (K上)(I中)(K下)
 ↓

お客さんが集まって、会場は いっぱいになりま | した。 (I上)

たかしくんが立って、はじめの あいさつを | しました。 (I上)

練習を | しましたが、まだ | じょうずに (I下)

ふえが | なって、学芸会が | 始まりました。 (B下)

以上 3年

まくらもとの火ばちにかけた、やかんのお湯が、 (G下)

まさおさんの顔を見 | るなり、 | 「まあ、どうしたの。 (G下)

まさおくんは、大きく息を | しました。 (G下)

以上 4年

母にだかれたまま、母の顔を | 見つめて、 (F下)

用事をすませると、夕暮れの庭に (F下)

小さい庭のすみに、もみじの木が一本はえて | いた。 (J下)

空気はすみ、あたりは静かで、 (K中)

母の顔を見つめて、美しい歌声を聞いていた。 (K上)(K中)

いすを | 出してすわり、わたくしをひざの上にのせた。 (F中)(J下)

以上 5年

こしかけた人は、 | 「やれやれ、かけられて助かった。」 (G下)

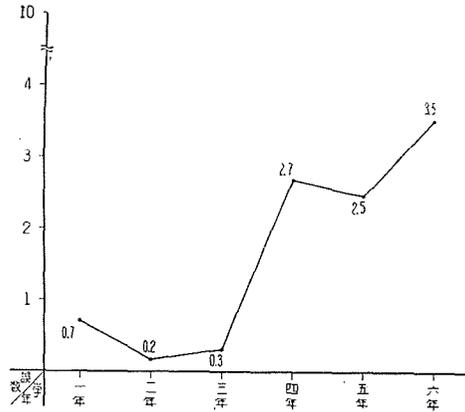
荷物を持った人に向って、 | 「あなた、どうぞおかけください。」 (G下2)

以上 6年

9. 読みなおしをする事例

11 初め読みちがえて、のちに正しく読む	381
(1) 正常でない発音作用のあとで	9
(2) とぼし読みのあとで	38
(3) おきかえ読みのあとで	248
(4) つけくわえ読みのあとで	44
(5) くりかえし読みのあとで	6
(6) ひろい読みのあとで	11
(7) 不自然な休止のあとで	27

第 21 図 初め読みちがえて後に正しく読む
(学年別、1人当りの事例の平均数)



初め読みちがえ、のちに正しく読む事例について、学年別に1人当りの事例の平均数を出してみると第21図のようになる。

(1) 正常でない発音作用のあとで

「はいった、はいった。」 (F下)
【つ】

めだかが いっぴき | はいりました。 (A下)
【つ】

以上 1年

あたたかくしてねていたらよくなるよ。 (G下)
【?】

まくらもとの火ばちにかけた、やかんのお湯が、 (G中)
【'】

おかあさんがにこにこしながら | らはいつてきました。 (G下)
【はー】

印刷の都合で読みなおしをする記号○は【 】とする。

外野からせめられる時は、
【?】
空気はすみ、あたりは静かで
【'】

以上 4年
(C中)(C下)
(J上)(J中)

以上 5年

(2) とぼし読みのあとで

ゆきこさんが、いいまし
【□】 | た。

(C下)

以上 1年

「おじさん、こうしは。」
【□】 | と、ききました。

(H下)

足が しっかり しないので | しょう。
【□】

(H下)

かいばおけを たたきました。
【□】

(C下)

かいばおけを たたきました。
【□】

(H中)(E下)

以上 2年

と いう、歌を 読みました。
【□】

(K上)(K下)

以上 3年

あちらからも こちらからも
【□】

(C中)

みちおくんの おとうさんが、
【□】

(C下)

ひたいに手をあててみられました。
【□】

(G下)

ふとんをしいてくださいました。
【□】

(G下)

まさおくんはねむりからさめました。
【□】

(G下)

しめきってあるしょうじ | に
【□】

(G下)

以上 4年

こんどこそはと、いっしょうけんめいである。
【□】

(C下)

そのうちに、 | ぼくを目がけて
【□】

(C中)

西組の人 | に投げつけると、
【□】

(C中)(C下)

- ぐん | ぐん せめてくる。 (C下)
 【】
- こんども六対五で勝ち、 (C上)
 【】
- 山本君のボールは、 (C下)
 【】
- ボールははね | 返って来た。その時、 (C下)
 【】
- 一点のちがいで勝つことができた。 (C中)
 【】
- わたくしをひざの上にのせた。 (F下)
 【】
- 美しい歌声を聞いていた。 (K下)
 【】
- 母の顔 | を見つめて、美しい歌声を聞いていた。 (J下2)
 【】
- おさない心にし | みこませた。 (F中)
 【】
- わたくしをささえた。 (J下)
 【】
- 形をか | えていった。 (K下)
 【】
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (K下)
 【】
- わたくしは母にだかれたまま、 (K下)
 【】
- 母からおそわった。 (F中)
 【は】
- 母は学校のころに習った歌だといって、 (K下)
 【は】

以上 5年

- わたくしとなりにも、ひとりはかけられるぐらい (C中)
 【】
- 「おねえちゃん、子供だから、 (G下)
 【】
- 席を取りあった女の人が、 (G上)
 【】
- といって、かけようともしません。 (G下)
 【】

以上 6年

(3) おきかえ読みのあとで

- めだかすくい (F下)
 【が】
- まさおさんが すくいまし | た。 (C下, F下)
 【す】

- 「はいった、はいった。」 (F中)
【て】
- ゆきこさんが いいまし | た。 (A中)
【お】
- みちおさんが | すくいました。 (A下)
【すこし】
- めだかは すうっと | にげました。 (C下)
【あ】
- めだかが いっぴき | はいりました。 (C下)
【あ】
- めだかは すうっと | にげました。 (C下)
【が】
- めだかが いっぴき | はいりました。 (C下)
【か】
- めだかは すうっと | にげました。 (C下)
【は】
- めだかは すうっと | にげました。 (A上)
【すー】
- めだかは すうっと | にげました。 (C下)
【に】
- 以上 1年
- たまが ふたつ できました。 (C中)
【て】
- あちらからも こちらからも (K中)
【あちらこちらから】
- あちらからも こちらからも はくしゅ | が おこりました。 (K上)
【ふか】
- と いう、歌を 読みました。 (K中)
【うたい】
- 学芸会 (K上)
【がい】
- たかしくんが 立って、はじめの あいさつを しました。 (K下)
【ま】
- おかあさんも おいでに なりました。 (K中)
【なられ】
- いっしょうけんめい 練習を しましたが、 (K上)
【した】
- まさおくんたちは、 (K上)
【まも】
- まさおくんたちは、 「春が きた。」 (I下)
【ふ】

- みちおくんが、友だちと、 (I下)
 【こさ】
 だんだん お客さんが 集まって、 (K下)
 【さま】
 みちおくんの おとうさんが、 (K下)
 【さん】
 と いう、歌を 読みました。 (I下)
 【声】

以上 3年

- ゆきこさ | んの おかあさんも おいでに なりました。 (C下)
 【ゆきおく | くん】
 では これから 始めます。 (B上)
 【を】
 わたくしたちは、これから 学芸会を します。 (B下)
 【が】
 「風の子、雪の子」 (C上)
 【雪】
 お客さんが ほめました。 (C中)
 【さま】
 だんだん お客さんが 集まって、 (C中)
 【さま】
 「風の子、雪の子」 (B上2)
 【と】
 まさおんたちは、「春が きた。」 (C下)
 【った】
 し かし力いっばい します。 (C下)
 【しっかり】
 あちらからも こちらからも ほくしゅ | が (B中)
 【 あちらこちらもこちらも | が】
 これから始めます。 (B中)
 【まり】
 「みんなで おどる ところが | かわいいね。」 (B上)
 【こ】
 力いっばい し | ます。では これから 始めます。 (B上)
 【した】
 学芸会を します。 (B上)
 【はじめます】
 じょうずに できないの も あります。 (C中)
 【で】
 まだ じょうずに できないの も あります。 (C中)
 【で】
 これから 学芸会を します。 (C中)
 【は】
 「風の子、雪の子」の 合唱を しました。 (B中)
 【と】

- 「わたしは 春の 使いです。」 (B中)
 【わたくし】
 のどを見たりしていただきました、 (G中)
 【どの】
 いつものような元気がありません。 (G下)
 【き】
 まもなく、お医者さんがおいでになって、 (G下)
 【も】
 まさおくんの 顔を見 | るなり、 (G下2)
 【な】
 三日ほど前のことです。 (G下)
 【の】
 その時、ふすまがすうっ^とあいて、 (G下)
 【う】
 まさおくんは、ひとつ大きく息をしました。 (G下)
 【を】
 「あ、熱もありますよ。」 (G下)
 【あつ】
 三日ほど前のことです。 (G下)
 【二】
 すずめの声が、気 | 持よく聞こえます。 (G下)
 【が】
 あわてて、ふとんをしいていただきました。 (G下)
 【か】
 その時、ふすまがすうっ^とあいて、 (G下)
 【あつ】
 いつ | ものような元気がありません。 (G中)
 【に】
 「まあ、よくねむっ た こと。気分はどう。」 (G中)
 【ている】
 学校を休んでずっとねているの | です。 (G下)
 【休み】
 おかさんがにこにこしながらはいつてきました。 (G中)
 【わら】
 あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G下)
 【なおる】
 「まあ、どうしたの、顔色が悪いわ。」 (G下)
 【また】
 顔色が悪いわ。」 | といいながら、ひたいに (G上)
 【ました】
 あたたかくしてねていたら | よくなるよ。」 (G上)
 【つ】
 ひたいに手をあててみられました。 (G中)
 【あたため】

まくらもとの女ばかりにかけた、やかんのお湯が、 (G上)
【火】

あなたも、お風呂に入り | よくなるよ。」 (G上)
【め】

以上 4年

人数を調べると、九対八。 (C下)
【の】

ぼくを目がけてボールが飛んで来た。 (C上)
【は】

西組の人のせなかに投げつけた。 (C下)
【の】

「ワアッ」という声が聞こえた。 (C上)
【に】

味方は三人になっていた。 (C上)
【の】

西組は、こんどこそはと、 (C下)
【の】

外野へわたすボールを、 (C中)
【は】

味方がつぎつぎに | ふえてきた。 (C上)
【に】

今度こそはと、全力をつくした。 (C下)
【と】

とりわけ女子が | ぐん | ぐんせめてくる。 (C下)
【ぐん】

道男君まで、たおされてしまった。 (C上)
【お】

いよいよ決勝戦に進む | ことになった。 (C中)
【に】

相手は五年西組である。 (C下)
【四】

しかし、西組もなかなかじゃうずである。 (C下)
【にく】

はく手を送っ | て | くれる。 | 西組のセンター (C中)
【いる】

かず子さんが投げる。春男君が投げる。 (C下)
【まさお】

かず子さんが、ボールを受けて、ぼくにわたしてくれた。 (C上)
【を】

場所をこうたいして、後半戦にはいった。 (C中)
【ぜん】

「フレー、フレー」と声をからしてさげんでいる。 (C中)
【け】

し | かも、こしから下をねらうので、 (C下)
【れ】

- 中の休みに、作戦をねった。(C下)
 【せん】
- 六年を三人たおしただけで、(C下)
 【ねん】
- 試合が始まった。相手はこの前、(C中)
 【しあい】
- また外野からせめられる時は、(C中)
 【そと】
- じょずにうけて、男子のセンターにわたし | ていく。(C上)
 【おとこ】
- みるみるうちに、内野はたおされていって、(C中)
 【外】
- 「外野からせめられる時、一方にかたまってはいけない。」(C中)
 【今】
- つぎつぎと六年をたおしていった。(C中)
 【の】
- 道男君まで、たおされてしまった。(C下)
 【お】
- こんどこそはと、全力をつくした。(C上)
 【と】
- 九対八。 | 一点のちがいで (C下)
 【点】
- 母の白い手がうすやみの中にういて、(J下)
 【に】
- 美しい歌声を聞いていた。(F中)
 【に】
- わたくしは、母にだかれたまま、(J下)
 【の】
- 自然が詩のように美しいことを、(J中)
 【で】
- 空気はすみ、(J上)
 【の】
- 学校のころに習った歌だといって、(J中)
 【を】
- そして、母 | と子は、やがて新聞社から (F下)
 【は】
- 「庭の千草」や「夕空晴れ | て」や (J下)
 【と】
- 「庭の千草」や「夕空晴れ | て」や (K上)
 【の】
- わたくしを | ささえ | た。(K上)
 【おさえ | た】
- 数々の鳥が、あわただしく大空を飛び去っていった。(F中)
 【ただ】

- もみじの木が一本はえて | いた。 (J中)
【はえ】
- いすを | 出してすわり、わたくしをひざの上にのせた。 (K下)
【た】
- わたくしをひざの上にのせた。 (J中)
【は】
- わたくしをひざの上にのせた。 (J中)
【に】
- わたくしをひざの上にのせた。 (J下)
【の】
- 母は、自然が詩のように美しいことを、 (J下, F下)
【の】
- こっこくと自然は色をかえ、 (J下)
【に】
- こっこくと自然は色をかえ、 (J下)
【か】
- 母の白い手が うすやみの中ういて、 (F中)
【を】
- わたり | 鳥であるということも、母からおそわった。 (J中)
【か】
- わたくし | に 教えた。 (F上)
【の】
- わたくし | に 教えた。 (J下)
【を】
- わたくし | に 教えた (K上)
【は】
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (K上)
【に】
- 母は学校のところに習った歌だといって、 (F中)
【と】
- もみじの木が一本はえていた。 (J中)
【が】
- やがて新聞社 から帰ってくる父を待つのがだった。 (K下)
【きしゃ】
- わたり | 鳥であるということも、 (F中)
【あるって】
- 青山の家は、ささやかなすまいであった。 (J中)
【ら】
- わたくし | に 教えた。 (F上)
【こた】
- こっこくと自然は色をかえ、 (J中)
【おと】

- わたくしは母にだかれたまま、 (J中)
 【だい】
- 白い手が うすやみの中に ういて わたくしをささえ | た。 (K上)
 【うごいて】
- ひざの上へのせた。そして、母 | と子は、 (J下)
 【その】
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (F下)
 【ご】
- 母の 顔 | を見つめて、 (K下)
 【あた】
- おさない心にし | みこませた。 (F下)
 【た】
- 目ににじませるくせがあった。 (J中)
 【せてくる】
- 目ににじませるくせがあった。 (K上)
 【て】
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J上)(J中)
 【って】
- 歌をうたう時ですら、 なみだを (J下)
 【なら】
- うたう時ですら、 (J下)
 【も】
- 母 は、家の中の用事をすませると、 (J中)
 【ちち】
- あたりは静かで、 (F下)
 【あたたか】
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (F下)
 【家】
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (J上)
 【とり】
- 空気はすみ、あたりは静かで、 (K下)
 【みず】
- 母 は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (J中)
 【わたし】
- 新聞社から帰ってくる父を待つのがあった。 (J下)
 【ると】
- 家の中の用事をすませると、 (K下)
 【する】
- 「ほたるの光」 (F上)
 【か】
- 美しい声でなんべんもうたって、 (F下)
 【たのしい歌】
- 母 は学校のころに習った歌だといって、 (F中)(F下)
 【わた】

- 空気がはすみ、 (F中)(K下2)
 【そら】
- 「夕空晴れ | て」 (J上)
 【ぼれ】
- 「夕空晴れ | て」 (K中, J中)(J下)
 【ぐれ】
- 「夕空晴れ | て」 (J中)
 【ぐ】
- 「夕空晴れ | て」 (K上)
 【たぐれ】
- 「夕空晴れ | て」 (K上)
 【たぞらそれ】
- 新聞社から帰ってくる父を待つのだった。 (K中)
 【も】
- 帰ってくる父を待つのだった。 (J上)
 【母】
- 大空を飛び去っていった。 (J下)
 【た】
- 大空を飛び去っていった。 (J下)
 【とぶ】
- かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
 【ゆ】
- 母は、かるい気持で歌をうたう時ですら、 (K下)
 【かえ】
- こっくと自然は色をかえ、 (K中)
 【こっこく】
- こっくと自然は色をかえ、 (J下)
 【こっこつ】
- 数々の鳥が、 (J中)
 【かず】
- 数々の鳥が、 (K中)
 【か】
- 小さい庭のすみに、 (J下)
 【いえ】
- 小さい庭のすみに、 (F中)
 【にえ】
- おさない心にし | みこませた。 (F下)
 【あた】
- 母の白い手がうすやみの中をういて、 (F上)(F下)
 【は】
- 母は、家の中の用事をすませると、 (K中)
 【わたくし】
- 母は、家の中の用事をすませると、 (F下)
 【家】

- おたり | 見てからということも、母 からおそわった。
【わたし】 (J下)
- 母 は、自然が詩のように美しいことを、 (F中)
【わたし】
- 母 は、家の中の用事をすませると、 (F下)
【おかあ】
- わたくしは 母 にだかれたまま、 (F下)
【おかあ】
- 母 の顔 | を見つめて、 (F下)
【おかあ】
- なんべんもうたって、わたくし | に教えた。 (F中)
【た】
- ひざの上のにのせた。そして、母 | と子は、 (F下)
【て】
- 数々の鳥が、あわただしく (F下)
【わ】
- わたくし | に教えた。母はかるい気持で (F中)
【わ】
- 夕暮れの庭にいすを | 出してすわり、 (J下)
【す】
- あわただしく大空を飛び去っていった。 (J下)
【い】
- 歌をうたう時ですら、 (J中)
【い】
- わたくし をささえた。 (J上)(K中)
【わたくしたち】
- わたくし をひざの上のにのせた。 (J上)
【わたくしたち】
- わたくし | に教えた。 (J上)
【わたくしたち】
- 母は学校のころに習った歌だといって、 (J下)
【が】
- 以上 5年
- どうも不思議でたまりません。」 | といった。 (G下)
【う】
- なかよく話し合っている | した。 (G下)
【す】
- なかよく話して行かれたことと思います。 (G下)
【し】
- 荷物を持った人に向けて、 (G下)
【て】
- こしかけた人を見えています。 (C中)
【て】

- さきにしにかけて喜んでいた人が、 (C下)
 【た】
- 「やれやれ、かけられて助かった。」 (G中)
 【た】
- いかにも残念そうな顔をして、 (G上)
 【な】
- その電車はわりにすいていて、 (G中)
 【に】
- なかよく話して行かれたことと思います。 (C中)
 【で】
- わたくしが電車から おりる時には、 (C中)(C下)
 【の】
- わたくしは | こしをかけていました。 (G下)
 【こうし】
- すると、さきにしにかけて喜んでいた人が、 (G下)
 【さっき】
- 「おばさん、どうぞ。」 (G下, C下)
 【おばあさん】
- 女の人が乗りこんで来ました。 (G中)
 【お】
- 声をそろえて送って くださいました。 (G中)
 【さ】
- といいながら、自分のひざの上に (G下)
 【わた】
- ひとりごとを 言っています。 (C下)
 【いい】
- きのう、電車の中でのことです。 (G下)
 【きょう】
- すると、さきにしにかけて喜んでいた人が、 (C中)
 【さっ】
- ひとりは荷物を持っていたために (C下)
 【ま】
- 席をゆずろうとしました。 (C下)
 【ゆずり】
- 「やれやれ、かけられて助かった。」 (G下)
 【らだ】
- 「やれやれ、かけられて助かった。」 (G下)
 【ら】
- 席をゆずろうとしました。 (G下)
 【って】
- ゆずり合 | うようになっただが、 (G下)
 【おう】
- むりやりに取って、ていねいに預かりました。 (G下)
 【と】
- わたくしのとなりにも、ひとりはかけられる (C下)
 【もが】

- 「おねえちゃん、子供だから、かけていらっしやい | よ。」 (C下)
 【だち】
- 少しおそかったので、席を取られてしまいました。 (G下)
 【らく】
- 荷物を持った人に 席をゆずろうとしました。 (C中)
 【こし】
- ふたりとも | 乗るがはやいか、 (G下)
 【あが】
- どうぞおかけください。お荷物があって (C下)
 【に も】
- 荷物を持った人は、いかにも残念そうな顔をして、 (C下)
 【せき】
- そう言ってから荷物を持った人に向かって、 (C中)
 【と】
- 「お 気をつけてね。さようなら。」 (G下)
 【げん】
- さきにこしかけて 喜んでいた人が、 (G上)
 【よる】
- さきにこしかけて 喜んでいた人が、 (G上)
 【より】
- おもしろいことって、どんことかね。 (G下)
 【な】
- 話して 行かれたことと 思います。 (G中)
 【だと】
- 自分のひざの上にもりやりに取って (C下)
 【やり】

以上 6年

(4) つけくわえ読みのあとで

- めだかは すうっと | に げました。 (F中, A中)
 【て】
- すうっと | に げました。 (A中)
 【てい】
- 以上 1年
- じょうずに できないのも あります。 (K上)(I下)
 【も】
- 以上 3年
- しかし 力いっぱい し | ます。 (C中)
 【て】
- これから 始めます。 | たかしくんは、 (C下)
 【そ】

ゆきこさ | んの おかあさんも (C上)
 【と】

「風の 子, 雪の 子」 (B中)
 【ど】

おど | り, げき, そのほか おもしろいものが (B中)
 【の】

お客さんが ほめました。 (B下)
 【て】

会場は いっぱいに になりました。 (C中)
 【に】

ひとつ大きく息をしました。 (G下)
 【の】

おかあさんは, まさおくんの顔を見 | るなり, (G下)
 【さ】

のきばで鳴いているすずめの声が, (G下)
 【く】

まさおくんはにっこりしてう | なずきました。 (G下)
 【わら】

すずめの声が, 気 | 持よく聞こえます。 (G中)
 【きこえ】

気 | 持よく聞こえます。 (G下2)
 【て】

ひとつ大きく息をしました。 (G下)
 【て】

以上 4年

とりわけ女子がぐん | ぐんせめてくる。 (C下)
 【ぐん】

ボールを受けて, ほくにわたしてくれた。 (C中)
 【とって】

それがわたり | 鳥であるということも (F上)
 【こと】

わたくし | に教えた。 (F上)
 【て】

いすを | 出してすわり, わたくしをひざの上ののせた。 (J下)
 【れ】

母は, かるい気持で歌をうたう時ですら, (J下)
 【あ】

自然は色をかえ、形をか | えていった。 (K下2)

わたくしをささえた。 (J中)

歌をうたう時ですら、 (F上2)(J中2)(J下)

「夕空 晴れ | て」 (J下)

歌をうたう時ですら、なみだを大きな (K上)

青山の夕暮れはすばらしかった。 (K下)

いすを | 出してすわり、 (K中)

以上 5年

電車の中でのことです。 (C下)

かけられま | した。ふたりは (C中)

少しおそかったので、席を取られてしまいました。 (C中)

あんなにかけたがっていた人が、 (C下)

預りました。 | それからふたりは、 (C中)

たいへんおもしろいと思いました。 (G下)

以上 6年

(5) くりかえし読みのおとて

たかしくんは、元気な 声で いいました。 (B下)

以上 4年

作戦をねった。その時受持の先生が (C中)

わたし | ていく。れんらくのみごとなこと。 (C中)

かるい気持で歌をうたう時ですら、なみだを (J中)

わたくしのおさない心にし | みこませた。 (F上)
【一】

以上 5年

ひとりは荷物を持っていたために (G下)
【~~~~】

以上 6年

(6) ひろい読みのあとで

まさおさんが すくいま | した。 (F下)
【--】

めだかすくい (A中)
【-】

めだかすくい (F下)
【--】

以上 1年

春が きた。】 | という げきを しました。 (B下)
【-】

はくしゅ | が おこりました。 (B下)
【--】

こちらからも はくしゅ | が おこりました。 (B下)
【-】

たかしくんが立って、 (B下)
【-】

以上 4年

美しい声でなんべんもうたって、 (F下)
【-----】

空気はすみ、あたりは静かで、 (F下)
【-】

それがわたり | 鳥であるということも、 (F下)
【-----】

こっくと自然は色をかえ、 (F中)
【-----】

以上 5年

(7) 不自然な休止のあとで

にこにこしながら | ら はいってきました。 (G上2)(G中)
【||】

学校を休んで、ずっとねているのです。 (G下)
【|】

おかあさんのあたたかいことばに、まさをくんは (G中)
【|】

以上 4年

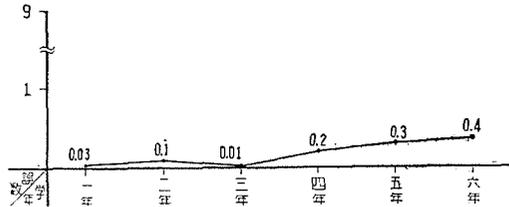
- とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C中)
【 | 】
- とちゅうで取っては逆にせめて来る。 (C下)
【 | 】
- 七対三でぼくらの勝であった。 (C下)
【 | 】
- 七対三でぼくらの勝であった。 (C中)
【 | 】
- 投げつけると、じょうずに受けて、 (C中)
【 | 】
- 相手は | この前ゆう勝した組で、 (C中)(C下)
【 | 】
- ゆう勝しただけ | あって、 (C下2)
【 | 】
- 道男君は取る | がはやいか西組の人のせなかに (C下)
【 | 】
- どの学年も、東組はぼくたちに (C中)
【 || 】
- 青山の夕暮れはすばらしかった。 (F下)
【 | 】
- 学校のところに習った歌だといって、 (F下)
【 | 】
- なみだを大きな | 目ににじませるくせがあった。 (F中)
【 | 】
- 「夕空晴れ | て」 (J下)
【 | 】
- わたくしのおさない心にし | みこませた。 (F下)
【 | 】
- 以上 5年
- わたくしのとにも、ひとりはかけられるぐらい (C中)
【 | 】
- 女の人がおしまいにはゆずり合 | うようになったのが、 (G下)
【 | 】
- どうしても かけようとしません。 (G下)
【 | 】
- 電車の中でのことです。 (G下)
【 | 】
- なかよく話して行かれたことと思います。 (C中)
【 | 】
- 荷物を持っていたために少しおそかったので (G下)
【 | 】
- 以上 6年

10. なんどもまちがえた後で正しく読む事例

10 なんどもまちがえたあとで正しく読む	41
----------------------	----

なんどもまちがえたあとで正しく読む事例について、学年別に1人当りの事例の平均数を出してみると、第21図のようになる。

第22図 なんどもまちがえた後で正しく読む
(学年別、1人当りの事例の平均数)



[マルでかこんだ数字は回数]

めだかは すうっと にげました。 (F中) ③

以上 1年

「トン、トン トン。」と、かいばおけを たたきました。 (C中) ⑤

こうしは きょんとん として、 (C中) ⑤

ちちを、おいしそうに のんで います。 (C下) ③

以上 2年

「たまころがしのようだね。」 (C中) ④

以上 3年

あちらからも こちらからも (G中) ③

つぎに みちおくんが 友だちと (C中) ③

じょうずに できない のも あります。 (C下) ②

たくさん あります。 (C中) ③

まさおくんはにっこりしてう ながきました。 (G中) ③

「あ、熱もありますよ。」と あわてて、ふとんをしいて (G下) ③

以上 4年

前半終りのふえは鳴った。(C下)
前半終りのふえは鳴った。(3)

後半戦にはいった。(C下)
後半戦にはいった。(4)

九対八。 | 一点のちがいで (C下)
九対八。(3)

わたくしをひざの上にのせた。(K下)
わたくしをひざの上にのせた。(5)

わたり | 鳥であるということも、母からおそわった。(K下)
わたり | 鳥であるということも、母からおそわった。(3)

わたくしのおさない心にし | みこませた。(K下)
わたくしのおさない心にし | みこませた。(4)

おさない心にし | みこませた。(J下)
おさない心にし | みこませた。(3)

大空を飛び去っていった。(F下)
大空を飛び去っていった。(3)

わたくしは母にだかれたまま、母の顔 | を (F下)
わたくしは母にだかれたまま、母の顔 | を (4)

わたり | 鳥であるということも、母からおそわった。(K下)
わたり | 鳥であるということも、母からおそわった。(4)

母の白い手がうすやみの中に入っていて、(K中)
母の白い手がうすやみの中に入っていて、(3)

青山の夕暮れはすばらしかった。(J下)
青山の夕暮れはすばらしかった。(3)

歌をうたう時ですら、なみだを大きな | 目に (F下, K下)
歌をうたう時ですら、なみだを大きな | 目に (4)

母は学校のところに習った歌だといって、(K下)
母は学校のところに習った歌だといって、(4)

こっくと自然は色をかえ、(K上)(K下)
こっくと自然は色をかえ、(3)

こっくと自然は色をかえ、(K中)(J下, K下)
こっくと自然は色をかえ、(3)

青山の家は、ささやかなすまいであった。(F下)
青山の家は、ささやかなすまいであった。(3)

学校のところに習った歌だといって、(F下)
学校のところに習った歌だといって、(4)

数々の鳥が、(F下)
数々の鳥が、(4)

母からおそわった。(F下)
母からおそわった。(4)

以上 5年

自分のひざの上にむりやりに取って、(C下)
自分のひざの上にむりやりに取って、(3)

さっきおしのけるようにして取った席を、 (C中)

席を取られてしまいました。 (C下)

おしまいにはゆずり合 | うようになったのが、 (G下)

席をゆずろうとしました。 (C下)

ひとりはかけられるぐらいあいていました。 (C中)

以上 6年

Ⅵ 読みあやまりの原因を推定する ための実験的調査

読みあやまりについての予想される原因の分析は、これまでの同種の研究を参照しながら、教室内の観察や面接によっておこなった。その結果については、年報4（昭和28年度）に報告した。

読みあやまりの原因についての推定は実際問題としてはきわめて困難である。読むということそのものが読み手の全人格的な行動であるので、ある読みあやまりについては必ずある原因が因果論的に成立する、ということにはならないからである。したがって、読みあやまりについての原因を推定するというとき、ある特定の読みあやまりが起る直接の原因として、いくつかの原因が想像されるという程度のことを指す。本質的な原因を推定するには、読みあやまりの類型をさらに整理するとともに、事例研究的な方法である個人について各方面から調べあげなければならない。したがって、この実験的調査では、読みあやまりの事例のうち、直接の原因が推定できそうなものについて取りあげた。

予想される原因を推定するために、いくつかの実験的調査をおこなった。回数が多い読みあやまりをいくつかえらびだし、読みの材料を変えることによって、読みあやまりの数がどのように変るかを見ようとするのである。その結果にもとづいて、予想される原因として考えたものの確かめをおこなうことにした。

とりあえずおこなったのは、読みの材料の側の原因と考えられるものについての実験的な調査である。そのために、小学校2年生および5年生をえらび、国語の学力の点でだいたい同じになるようなグループを二つづくり、甲組にはもとのままの形の材料で読ませ、乙組には材料の表記形式を変更したもので読ませた。調査の方法はこれまでの調査方法と同じである。それぞれの

組の人数は、2年生では甲組40人、乙組41人、3年生では甲組35人、乙組40人となっていた。

1. 実験的調査の1

(1) 実験的調査の意図

前の調査では、一つの文節を別行にわたって表記すると、改行したほうに読みあやまりがかなりあった。これを別行にせず、一つの文節としてつづけておけば、読みあやまりがふせげるのではないか。このような意図で、読みあやまりの回数が多かった箇所の一つをえらび、甲組と乙組について調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲組 完全に読めた者	乙組 完全に読めた者
走って いきま	走って いきます。
す。	
$\frac{20}{41} = 50.0\%$	$\frac{23}{41} = 56.0\%$

(2) 読みあやまりの事例

この材料について、読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲組 不完全率 = $\frac{20}{40} 50.0\%$	乙組 不完全率 = $\frac{18}{41} 44.0\%$
発音作用が正常でない ①	発音作用が正常でない ①
走って いきます ? 1 (中1)	走って いきます ? 1 (下1)
とぼし読み ⑤	とぼし読み ⑥
走って いきます □ 5 (上1, 中2, 下4)	走って いきます □ 9 (上2, 中7)
おきかえ読み ⑬	おきかえ読み ⑧

走って <u>い</u> きます した	8 (上2, 中2, 下4)	走って <u>い</u> きます した	2 (上1, 不明1)
走って <u>い</u> きます ました	3 (中3)	走って <u>い</u> きます ました	4 (上2, 中2)
走って <u>い</u> きます く	1 (下1)		
くりかえし読み	②		
走って <u>い</u> きます	1 (上1)		
走って <u>い</u> きます	1 (下1)		
		ひろい読み	①
		走って <u>い</u> きます	1 (下1)
		読みの休止が不自然	①
		走っていきます 	1 (上1)

(3) 結果についての考察

二つの組の読みあやまりの比率から考えると、どちらもほとんどちがわない。しかし、甲組の読みあやまりの事例をよく調べてみると、一つの文節が2行にまたがっているために、読みの流れが中断される結果と推定されるような読みあやまりが多いことがわかる。

2. 実験的調査の2

(1) 実験的調査の意図

「たまころがしのようだね」は、11字のひらがなの連続で、前の調査では、どの学校でもほとんど全員がつかずいた。これを二つに分割し、さらに「うんどうかいのときの」と注釈を加えれば、たいてい読めるのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数の比率は、次のとおりである。

甲 組 完全に読めた者	乙 組 完全に読めた者
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">たまころがしのようだね。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">うんどうかいのときの</div>
$\frac{0}{40} = 0\%$	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">たまころがしの ようだね</div> $\frac{3}{41} = 7.3\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲 組 不完全率 = $\frac{40}{40} = 100\%$	乙 組 不完全率 = $\frac{38}{41} = 92.7\%$
とばし読み ⑬	発音作用が正常でない ②
たまころがしのようだね <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 3 (上2, 中1)	たまころがしのようだね <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 15px; margin: 0 auto; text-align: center;">?</div> 1 (中1)
たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 1 (中1)	たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; margin: 0 auto; text-align: center;">の</div> 1 (上1)
たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 2 (中1, 下1)	とばし読み ⑥
たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 6 (上1, 中1)	たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 1 (下1)
たまころがしのようだね <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 1 (下1)	たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 3 (上2, 中1)
おきかえ読み ⑤	たまころがしの <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 2 (中2)
たまころがしの まさおさん 1 (下1)	おきかえ読み ⑨
たまころがしの たまころがした 1 (中1)	たまころがしの がしろ 1 (中1)
たまころがしの ができ 1 (中1)	たまころがしの また 2 (下2)
	たまころがしの ご 3 (上1, 中1, 不明1)

たまころがしの ご	2 (中1, 下1)	たまころがしの だるま	1 (中1)
つけ加え読み	②		
たまころがしの が	1 (上1)		
たまころがしのようだね え	1 (上1)		
くりかえし読み	⑨	くりかえし読み	⑩
たまころがしのようだね	1 (上1)	たまころがしの	7 (上2, 中5)
たまころがしのようだね 5(上2, 中1, 下2)		たまころがしの	1 (中1)
たまころがしのようだね	1 (上1)	たまころがしの ようだね	1 (下1)
たまころがしのようだね	1 (下1)	うんどうかいの ときの	1 (中1)
たまころがしのようだね	1 (上1)		
読みの休止が不自然	⑪	読みの休止が不自然	⑪
たまころがしのようだね 	4 (上2, 中1, 下1)	たまころがしのようだね 	4 (上2, 下2)
たまころがしのようだね 	3 (上1, 中2)	たまころがしの 	1 (上1)
たまころがしのようだね 	4 (上1, 中2, 下1)	たまころがしの 	2 (中1, 下1)
[二つ以上の欠陥を示したもの35名]		たまころがしの 	1 (下1)
		たまころがしの 	2 (中2)
		たまころがしの 	1 (中1)
		[二つ以上の欠陥を示したもの28名]	

(3) 結果についての考察

予期に反して成績はあまりよくない。どちらの組の読みあやまりを調べても、「たまころがし」という用語が児童の未知なことばであることが推定され、多くは「たまが…」とか「たまころが…」という予想で読もうとする。したがって、語いの抵抗によることが最大の原因で、ひらがなの数が多いということは副次的な原因と考えることができる。これはまた、ひらがなの一つ一つの読みは知っていても、ことばとして読めないことがあるというよい例を示すものである。

3. 実験的調査の3

(1) 実験的調査の意図

前の調査では訓読読みの複合動詞につまずくものがかなり多かった。もし次につづく動詞が補助動詞なら、それほどつまずかないのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの比率は、次のとおりである。

甲組	完全に読めた者	乙組	完全に読めた者
目をいろいろに	つけかえると,	目をいろいろに	つけてみると,
	$\frac{11}{40} = 27.5\%$		$\frac{26}{41} = 63.4\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲組	不完全率 = $\frac{29}{40} = 72.5\%$	乙組	不完全率 = $\frac{15}{41} = 36.6\%$
発音作用が正常でない	①		
つけかえると	1	(中1)	
?			

とぼし読み	⑤		
つけかえると □	1 (中1)		
つけかえると □	4 (上2, 中1, 下1)		
おきかえ読み	⑨	おきかえ読み	③
つけかえると く	1 (中1)	つけてみると る	1 (下1)
つけかえると か	1 (中1)	つけてみると て	1 (下1)
つけかえると け	1 (上1)	つけてみると ました	1 (上1)
つけかえると ま	2 (中2)		
つけかえると まし	1 (中1)		
つけかえると ました	3 (中1, 下2)		
くりかえし読み	⑥	くりかえし読み	④
つけかえると	3 (中1, 下2)	つけてみると	4 (中3, 下1)
つけかえると	3 (上2, 下1)		
		ひろい読み	③
		つけてみると	3 (中2, 下1)
読みの休止が不自然	⑧	読みの休止が不自然	⑤
つけかえると 	6 (上3, 中2, 下1)	つけてみると 	2 (中1, 下1)
つけかえると 	1 (下1)	つけてみると 	3 (上2, 不明1)
つけかえると 	1 (上1)		

(3) 結果についての考察

比率の点では予期したとおり、つまづきがずっとすくなくなった。ここで考えなければならないことは、補助動詞「みると」である。一般に現在の小学校では、こうした補助動詞の使いかたについての指導が比較的なおざりにされている。したがって、こうした「みると」などにしても、小学校2年生あたりでは抵抗のあることばと考えられる。そのため、2組の成績がそれほどあがらなかったのではないかと推定される。

4. 実験的調査の4

(1) 実験的調査の意図

これは実験的調査の1と同じ性質のものであるが、対象が5年生である。前回の実験では、一つの文節を別行にわたって表記すると、改行したほうに読みあやまりがかなりあった。これを別行にせずに一つの文節をつづけておけば、読みあやまりがふせげるのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲組	完全に読めた者	乙組	完全に読めた者
わたくしを ささえ		わたくしを ささえた。	
た。	$\frac{23}{35} = 65.7\%$		$\frac{31}{40} = 77.5\%$

(2) 読みあやまりの事例

甲組	不完全率 = $\frac{12}{35} = 34.3\%$	乙組	不完全率 = $\frac{9}{40} = 22.5\%$
つけ加え読み	②	つけ加え読み	③
わたくしを ささえ		わたくしを ささえ	
てい		てい	
	2 (上1, 下1)		3 (上1, 中1, 下1)
くりかえし読み	④	くりかえし読み	④
ささえ		ささえ	
た		た	
	2 (下2)		1 (下1)

<u>さ</u> さえた	2	(上2)	<u>さ</u> さえた	1	(中1)
			<u>さ</u> さえた	2	(上1, 中1)
読みの休止が不自然	⑥		読みの休止が不自然	②	
ささえた 	6	(中2, 下4)	ささえた 	2	(上1, 中1)

(3) 結果についての考察

比率の点ではほんのすこししかちがわれないが、それでも乙組のほうがいくぶんよくなっている。「ささえた」ということばそのものに抵抗があったという原因も無視できない。前の調査でも、この「ささえた」についての読みあやまりが多かったのである。

5. 実験的調査の 5

(1) 実験的調査の意図

実験的調査の 4 と意図は同じである。

それぞれの組の完全に読めたものの比率は、次のとおりである。

甲 組	完全に読めた者	乙 組	完全に読めた者
「夕空 晴れ		「夕空 晴れて 」	
て」や「ほたるの光」を、		や「ほたるの光」を、	
$\frac{20}{35} = 57.1\%$		$\frac{25}{40} = 62.5\%$	

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲 組	不完全率 = $\frac{15}{85} = 42.9\%$	乙 組	不完全率 = $\frac{15}{40} = 37.5\%$
文字の読みがわからない	①	文字の読みがわからない	⑤
夕空晴れて ×	1	夕空晴れて ×	4 (上1, 中1, 下2)
	(下1)		

			晴れて ×	1	(下1)
とばし読み	①				
夕空晴れて 	1	(中1)			
おきかえ読み	⑥		おきかえ読み	②	
晴れて ば	5	(上4, 中1)	晴れて なが	1	(中1)
はれて た	1	(上1)	晴れて ば	1	(上1)
			つけ加え読み	①	
			晴れて へ れ	1	(中1)
くりかえし読み	④		くりかえし読み	⑧	
晴れて	1	(上1)	晴れて	1	(中1)
晴れて	2	(下2)	晴れて	5	(中2, 下3)
晴れて	1	(上1)			
読みの休止が不自然	③		読みの休止が不自然	①	
晴れて 	3	(下3)	晴れて 	1	(下1)

(3) 結果についての考察

比率としてはほとんどちがわないが、このばあいにも漢字の抵抗による原因が強力であったと推定される。

6. 実験的調査の 6

(1) 実験的調査の意図

前の調査では、「かるい気持」を「あかるい気持」と読みあやまるものがかなりあった。それゆえ、いっそのこと、漢字で表記したらかえって読みあやまりがふせげるのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの比率は、次のとおりである。

甲組 完全に読めた者	乙組 完全に読めた者
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">かるい気持で</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">軽い気持で</div>
$\frac{32}{35} = 91.4\%$	$\frac{15}{40} = 37.5\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲組 不完全率 = $\frac{3}{35} = 8.6\%$	乙組 不完全率 = $\frac{25}{40} = 62.5\%$
とばし読み ①	文字の読みがわからない ㊸
かるい気持で □ 1 (下1)	軽い気持 × 22 (上2, 中10, 下10)
おきかえ読み ①	軽い気持 ×× 1 (中1)
気持で げんき 1 (上1)	おきかえ読み ①
くりかえし読み ①	軽い気持 ところよ 1 (中1)
かるい 〰 1 (上1)	くりかえし読み ①
	気持で 〰 1 (上1)

(3) 結果についての考察

漢字そのものが読めぬため、逆に成績が悪くなった。したがって、このばあいに「かるい」というひらがなの単語の読みあやまりが前の調査で多かったというのは、このことばが児童がふつうに知っている「かるい」（目方の）とはちがった意味に用いられていて、やはり語いに抵抗をおこしているためであると考えられる。「かるい気持」ということばに抵抗があったのである。

7. 実験的調査の 7

(1) 実験的調査の意図

前の調査では、どの学校の児童も例外なしにこの「すら」で全員がつまづいた。語いの抵抗を取りのぞくために、もしこれを児童がよく知っている「さえ」にかえたら、どのくらいつまづきがふせげるかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲 組	完全に読めた者	乙 組	完全に読めた者
歌を うたう時ですら、	$\frac{0}{35} = 0\%$	歌を うたう時でさえ、	$\frac{13}{40} = 32.5\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組において整理すると、次のようになる。

甲 組	不完全率 = $\frac{35}{35} = 100\%$	乙 組	不完全率 = $\frac{27}{40} = 67.5\%$
発音作用が正常でない ①		発音作用が正常でない ①	
歌をうたう時ですら ? 1 (上1)		歌をうたう時でさえ ? 1 (上1)	
おきかえ読み ①		おきかえ読み ⑬	
うたう時ですら さ 1 (中1)		うたう時 こえ 1 (中1)	
		うたう時 い 2 (上2)	
		うたう時 え 2 (中1, 下1)	
		うたう時 った 8 (上3, 中3, 下2)	
つけ加え読み ⑳			
うたう時ですら か 19(上7, 中5, 下7)			

うたう時ですら ^な	1 (上1)		
〔「すら」のほか、他の部分にも欠陥のあるもの9人〕			
くりかえし読み	⑧	くりかえし読み	④
うたう時ですら	2 (上2)	うたう時でさえ	2 (下2)
うたう時ですら	2 (上1, 中1)	うたう時でさえ	2 (中1, 下1)
うたう時で すら	1 (下1)		
うたう時ですら	3 (上3)		
読みの休止が不自然	⑤	読みの休止が不自然	⑨
うたう時ですら 	2 (上1, 中1)	うたう時でさえ 	1 (上1)
うたう時ですら 	1 (下1)	うたう時でさえ 	3 (上2, 中1)
うたう時ですら 	1 (上1)	うたう時でさえ 	5 (中2, 下3)
うたう時ですら 	3 (上3)		

(3) 結果についての考察

予期したとおり、「すら」ということばの抵抗が原因となっていたから、その部分をかえることによって、つまづきがずっとすくなくなった。読みあやまりの具体例でもわかるように、「すら」を「ですから」「ですなら」「です…」と、ふだん知っていることばに読んでしまう。このばあいは文字抵抗はほとんどないのであるから、ここでも文字が読めることはことばが読めることに必ずしもならないということを示している。

8. 実験的調査の 8

(1) 実験的調査の意図

前の調査では、「すみ」を自信なさそうに読むものが多かった。「きよく」という単語を挿入して意味の理解を助ければ、自信のある読みができるのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲 組	完全に読めたもの	乙 組	完全に読めたもの
空気は すみ	$\frac{32}{35} = 91.4\%$	空気は きよくすみ	$\frac{18}{40} = 45.0\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲 組 不完全率 = $\frac{3}{35} = 8.6\%$

乙 組 不完全率 = $\frac{22}{40} = 55.0\%$

文字の読みがわからない	①
空気は きよくすみ ×××	1 (下1)
とぼし読み	③
空気は きよくすみ □	2 (上1, 下1)
きよくすみ □	1 (中1)
おきかえ読み	①
きよく すみ んで	1 (中1)
つけ加え読み	③
きよく すみ も [^] ち	1 (上1)
きよく すみ [^] に	1 (上1)

			きよくすみ ^へ		
				1	(下1)
くりかえし読み	(3)	くりかえし読み		(12)	
空気はすみ	1	きよくすみ		1	(上1)
空気はすみ	2	きよくすみ		2	(中1, 下1)
		きよくすみ		8	(上1, 中7)
		きよくすみ		1	(下1)
		読みの休止が不自然		(2)	
		きよくすみ		2	(上1, 中1)

(3) 結果についての考察

「きよく」につまずいて逆に成績がおちた。「きよく」ということばの抵抗も加わったのである。元来「すみ」ということばに抵抗があるので、ほかのことばを加えて理解を助けようとするのは、加えることばがよほど説明力をもっていないと、効果があらわれないとも考えられる。

9. 実験的調査の9

(1) 実験的調査の意図

「こっこくと」ということばは、「刻々と」を漢字だけひらがなになおしたものである。このようなことばをたんにひらがなで表記したからといって、すぐ理解できる単語ではない。単語そのものを言いかえる必要があると思われるとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲組	完全に読めた者	乙組	完全に読めた者
こっこくと	自然は色をかえ、	時がたつにつれて	自然は
	$\frac{6}{35} = 17.1\%$	つぎつぎに	色をかえ
			$\frac{23}{40} = 57.5\%$

(2) 読みあやまりの事例

このばあいの読みあやまりの具体例をそれぞれの組にわけて整理すると、次のようになる。

甲組	不完全率 = $\frac{29}{35} = 82.9\%$	乙組	不完全率 = $\frac{17}{40} = 42.5\%$
		文字の読みがわからない	②
		時がたつにつれて	
		×	2 (中1, 下1)
とぼし読み	⑥	とぼし読み	①
こっこくと □	4 (上1, 下3)	つぎつぎに □	1 (下1)
こっこくと □	1 (中1)		
こっこくと □	1 (下1)		
おきかえ読み	⑩	おきかえ読み	⑤
こっこくと つ	1 (中1)	時がたつにつれて ぎ	1 (中1)
こっこくと つ つ	3 (上2, 中1)	時がたつにつれて と	1 (上1)
こっこくと くり	7 (上3, 中2, 下2)	時がたつにつれて だ	1 (下1)
		たつにつれて あった	1 (下1)
		つぎつぎに すぎ	1 (中1)
		つけ加え読み	②
		時がたつにつれて う	1 (下1)
		たつにつれて ゆくに	1 (中1)
くりかえし読み	⑫	くりかえし読み	⑦
こっこくと	1 (上1)	時がたつにつれて	1 (中1)
こっこくと	8 (上6, 中1, 下1)	時がたつにつれて	1 (下1)

<u>こ</u> こくと	1	(下1)	<u>時</u> がたつにつれて	1	(中1)
<u>こ</u> こくと	2	(上2)	時が <u>た</u> つにつれて	2	(中1, 下1)
			<u>つ</u> ぎつぎに	1	(上1)
			つぎつぎに	1	(中1)

(3) 結果についての考察

予期したとおり成績がよくなった。「時」という漢字の抵抗がなくなると、もっと成績があがったと推定される。単語そのものがむずかしいばあいは、漢字をかな書きにすれば、やさしくなるとはかぎらないことを明かに示すよい例である。

10. 実験的調査の 10

(1) 実験的調査の意図

前の調査では、「数わ」はカズワと読むものが多かった。「五六わ」とすれば読み誤りはなくなるのではないかとの意図で調べてみる。

それぞれの組の完全に読めたものの数と比率は、次のとおりである。

甲組	完全に読めた者	乙組	完全に読めた者
数わの鳥が	$\frac{10}{35} = 28.6\%$	五六わの鳥が	$\frac{9}{40} = 22.5\%$

(2) 読みあやまりの事例

甲組	不完全率 = $\frac{25}{35} = 71.4\%$	乙組	不完全率 = $\frac{31}{40} = 77.5\%$
文字の読みがわからない	④		
数わの鳥 ×	1 (中1)		
数わの鳥 ××	3 (上2, 下1)		
とぼし読み	②	とぼし読み	③
数わの鳥 □	2 (中1, 下1)	ごろくわの鳥 □	2 (中1, 下1)

			五六わの鳥 □	1	(下1)
おきかえ読み	⑬	おきかえ読み	⑦		
数わの鳥 かず	8 (上5, 中3)	五六わの鳥 いっつむっつ	2	(下2)	
数わの鳥 すえ	1 (下1)	五六わ 六七	1	(上1)	
数わの鳥 なん	1 (上1)	五六わの鳥 ろ	1	(中1)	
数わの鳥 す	1 (下1)	五六わの鳥 ごじゅうろく	2	(上2)	
数わの鳥 おし	1 (下1)	五六わの鳥 ごいろの	1	(下1)	
数わの鳥 な	1 (下1)				
つけ加え読み	①	つけ加え読み	④		
数わの鳥 の	1 (下1)	五六わの鳥 の	4	(上1, 中3)	
くりかえし読み	④	くりかえし読み	⑬		
数わの鳥	4 (上2, 中2)	五六わの鳥	3	(上2, 中1)	
		五六わの鳥	7	(上2, 中3, 下2)	
		五六わの鳥	1	(上1)	
		五六わの鳥	1	(上1)	
		ごろくわの鳥	4	(上3, 下1)	
読みの休止が不自然	①	読みの休止が不自然	①		
数わの鳥 	1 (上1)	五六わの鳥 	1	(中1)	

(3) 結果についての考察

予期に反して逆にすこし読みあやまりがふえた。いわゆる助数詞はこれまで多くは漢字で表記されてきた。これを機械的にひらがなで書くのは問題である。「数」の漢字の抵抗とともに、「わ」(羽)の問題が大きな原因であることがわかる。

Ⅶ 総合的な考察

読みあやまりの原因についての分析は、VIに述べたような性質の実験的調査と個人個人の事例研究とをさらにくわしく実施しなければ確実な作業がすすめられない。

したがって、その面の報告は別の機会にゆずり、本書では、事例の整理の途中で推定されたことがらを主にして、いわば試論的に述べてみることにする。

1. 読みあやまりの原因についての推定

読みあやまりの原因についての分類は、これもアメリカの文献に多くのことが述べられているが、だいたいにおいて大きな相違がない。ただ、読みあやまりについての研究の初期には、言語障害の研究の初期と同じように、原因をより多く病理的なものに求める傾向があった。

現在では、だいたい教育心理学的な原因論に変わってきたのが目立った特色である。たとえば、初期のころの代表的なゲーツの著書^(註2)では、読みあやまりの原因を次のように要約している。

1. 語音症 (word blindness) あるいは逆視症 (strephosymbolia) のような有機的な困難
2. 左手ききおよび左目きき
3. 視力や聴力の識別のような心理学的な欠陥
4. 精神的な未成熟または低い精神年齢
5. 読みの学習準備が欠けていること
6. 動機づけがまずかったこと
7. 本質的な技術の獲得に失敗したこと
8. 効果のあがらない教えかた

(註2) Gates, Arthur I. *The Improvement of Reading*. Revised Edition. New York: The Macmillan Company, 1953.

平井はすでに、ベッツ(註3)、ドルチ(註4)、デュレル(註5)、ハリス(註6)、モンロー(註7)などの原因分類を検討のうえ、私見を加えて、次のような原因分類を発表しているので、読みあやまりの原因の推定をはじめるときには、いちおうそれにしたがった。

1. 身体および感覚器管に関係のある原因

- (1) 見る機能の障害（近視，遠視，弱視，斜視，その他の異常視）
- (2) 眠球運動の不正
- (3) 聞く機能の障害と困難（発音識別の障害，発音記憶の困難，難聴，制限された単語の知識）
- (4) 話す機能の困難（発音困難，不正調音，どもり，その他）
- (5) 神経障害
- (6) 全身的異常（栄養不良，虚弱，全身疾病，左きき，その他）

2. 知能に関係のある原因

- (1) 知能の発達がおくれている（精神薄弱児）
- (2) 学習に必要な最低量の経験の欠如
- (3) 簡単な事柄の記憶再生の困難

3. 心理的な異常に関係のある原因

- (1) 家庭環境が悪い
 - (a) 食事の不適當と不じゅうぶん
 - (b) ねむりの不じゅうぶん
 - (c) 家事手伝の過重
 - (d) 両親や兄弟姉妹の不和
 - (e) 過度のあまやかせ
 - (f) 家庭が乱れている
 - (g) 過度の貧困
- (2) 情意発達の異常

(註3) Betts, Emmett Albert. Foundations of Reading Instruction. New York : American Book Company, 1946.

(註4) Dolch, Edward William. A Manual for Remedial Reading. Champaign, Illinois : The Garrard Press, 1939.

(註5) Durrell, Donald O. Improvement of Basic Reading Abilities. Yonkers-on-Hudson, New York : World Book Company, 1940.

(註6) Harris, Albert G. How to Increase Reading Ability. New York : Longmans, Green, and Company, 1940.

(註7) Monroe, M. Children Who Cannot Read. Chicago : The University of Chicago Press, 1935.

- (a) 学習への過度の恐怖心や反感
- (b) 学習への自信の欠如
- (c) 注意力の欠如
- (d) 学習活動の不活潑
- (e) 作業および学習への習慣の欠如
- (f) 目的意識の欠如
- (g) 学習環境への不適當
- (h) 怠ける習慣
- (i) 泣きむし
- (j) 家庭教育の不適當
- (k) 不良児（悪友による刺激，その他）
- (l) 読書を極度にきらう

4. 学習指導法に関係のある原因

- (1) 指導法の不じゅうぶん
 - (a) 入学がおくれた
 - (b) 初学年での長期欠席
 - (c) 欠席がち
 - (d) 教師がたびたび変った
 - (e) 教師への反感が強い
 - (f) 進級のさせ方が不適當であった
 - (g) 国語になじまなかった
- (2) 指導法の不適當
 - (a) 音読の過度の重視
 - (b) 音読の過度の軽視
 - (c) 読む速さの過度の重視
 - (d) 文字習得および語い拡大への過度の指導（正確な認知と必要なくなりかえしがともなわず，字形および意味を適確に理解させない）
 - (e) 機械的な一斉指導
 - (f) 学習準備期をおかずに，ただちに教科書指導をはじめた
 - (g) 講義式指導に終始した
 - (h) 抽象的な説明や，ことばだけの説明を主とした
 - (i) 教材が難しい
 - (j) 教材がおもしろくない
 - (k) たのしみ読み，自主的な読み，治療的読みを長期間にわたって課したために，均衡のとれた読む能力を発達させない

読みあやまりの原因について分析をすすめていくにつれて、

- (1) 一つ一つの具体的な事例についてのこまかい検討、
- (2) そうした事例を示した児童についての事例研究、

をおこなった。その結果、種々雑多な具体的な事例を整理する必要からも、予想される原因の分類を再検討することになり、年報(5)に述べたように、

- (1) 児童生徒自身の側の原因、
- (2) 文字言語の側の原因
- (3) 学習指導の側の原因、

の三つに大きくわけ、それぞれ次のように細分類を試みた。

音読の障害の予想される原因

1. 児童生徒の側の原因

- (1) 視力が弱い
- (2) 視野がせまい
- (3) 音声器管に欠陥がある
- (4) 呼吸のしかたが不正である
- (5) 字形を見分ける力がとぼしい
- (6) 眼球運動がなめらかでない
- (7) 眼球運動と発音作用との調節ができない
- (8) 知能が低い
- (9) 知能が高すぎる
- (10) ことばと思想とを結びつける力がとぼしい
- (11) 求知心に欠けている
- (12) 記憶力が弱い
- (13) 語いが不足している
- (14) 単語の発音を不正確に記憶している
- (15) 集中力がない
- (16) 神経過敏のためあがってしまう
- (17) 落ちつきに欠けている
- (18) 自信がない
- (19) 読むことの経験が少ない
- (20) よく知っている使いなれたことばで読む
- (21) 一字一字読む習慣がある
- (22) 幼児音、訛音が残っている

- ㉓ 経験かとぼしい
- ㉔ 読む力が全般におくれている
- ㉕ 前日の睡眠不足

2. 文字言語の側の原因

- ㉖ 未習得の文字である
- ㉗ 発音しにくい文字である
- ㉘ むずかしい字体の文字である
- ㉙ 似かよった字形をもつ文字である
- ㉚ 似かよった発音をもつ文字である
- ㉛ 似かよった意味をもつ文字である
- ㉜ 二つ以上の漢字が重なってできた熟語である
- ㉝ 生活語とかけはなれた単語（特殊な修飾語、敬語、文語）である
- ㉞ 新しく提出する字数が多すぎる
- ㉟ 新しく提出する語数が多すぎる
- ㊱ 表現が不自然または不足な単語、文節、文である
- ㊲ 文字および単語の自然なくりかえしがすくない
- ㊳ 固有名詞（特に人名、地名）である
- ㊴ ひらがなばかりが長く続く単語、文節または句である
- ㊵ 次の行にまでわたっている単語である
- ㊶ つまる音、よう音、よう長音、長音など特殊な表記である
- ㊷ 見なれない擬音語、擬声語、擬態語をいきなり提出する
- ㊸ 接頭語、接尾語（またはそれらのついた単語）をいきなり提出する
- ㊹ 助詞のまぎらわしい使いかたである
- ㊺ 行間がせますぎる
- ㊻ 行間がひろすぎる
- ㊼ 一行がながすぎる
- ㊽ 句読点の使いかたが多すぎ、またはすくなくすぎる
- ㊾ 文型が複雑すぎる
- ㊿ 文が長すぎる
- ㉑ 文の内容がむずかしすぎる
- ㉒ 文の内容がつまらない

3. 学習指導の側の原因

- ㉓ 文字、単語を熟知させる指導が不じゅうぶんである
- ㉔ 文字は発音をあらわすものだと考えて、意味をあらわす記号として教えない
- ㉕ 語いをひろげ、豊富にする指導がなされていない

- (56) 文脈に適した単語の読みの指導がなされていない
- (57) 漢字の音訓両読みの指導がなされていない
- (58) 漢字の指導練習がなされていない
- (59) 動詞、形容詞などの変化形についての指導が不じゅうぶんである
- (60) 文節や句で読む指導が不じゅうぶんである
- (61) 読書指導が不じゅうぶんである
- (62) 幼児音を早くのぞく指導ができていない
- (63) アクセントの指導がなされていない
- (64) 方言音の矯正指導がよくできていない
- (65) 音読技術の指導ができていない
- (66) 活用語尾をはっきりさせる指導ができていない
- (67) 句読点の指導がなされていない
- (68) 正しい「いき」のつぎかたの指導がなされていない
- (69) 意味を理解しながら音読する指導がなされていない
- (70) 不正確な黙読の速読みをさせすぎた
- (71) 目と声とのひろがりひろげを指導がなされていない
- (72) 学習準備の指導ができていない
- (73) 動機づけがよくできていない
- (74) 読みの個人差に応じた個別指導がとられていない
- (75) 教具の利用が不じゅうぶんである
- (76) テストによってつねにあやまりの原因を知ることがなされていない
- (77) 読むことに興味をおこさせない

2. 今後の課題

以上のような、推定された読みあやまりの原因を、音読にあらわれた読みの具体的な例とただちに結びつけることはきわめて困難である。ふつうの児童では、そうした原因の効果がきわめてまちまちであるからである。外国の研究者などでも、こうした条件では、読みあやまりの一つ一つの事例からただちに原因を推定することをせず、いくつかの予想される原因を列挙して示し、現場の国語教師の指導上の参考に行っているのがふつうである。われわれが推定される原因としてあえて報告するのも、実践上の参考に資したためである。

原因をはっきり確定する研究は、読みの力がとくに遅れてしまった児童、

いわゆる読みの遅滞児や読みの無能力児（大ざっぱに言うと、精神薄弱児ではない普通児が1学年以上も読みの学力がおくれてしまっていて、ふつうの教室では学習が困難な児童）についておこなわれるのが多い。用いられる研究方法は主として事例研究である。こうした研究で特に有名なのはロビンソン^(註8)等のものである。こうした研究は、読みの学力がとくにおくれた児童について少数の調査対象をえらび、音読よりも黙読を手がかりとして、組織的に原因を追究しようとするものである。

われわれのこの調査研究の目的は、音読にあらわれた読みあやまりの類型をあますところなく明らかにしようということにあったので、原因への推定もこの程度にとどめなければならなかった。したがって、次の課題として、黙読を手がかりとする読みあやまりや困難とその原因への調査研究が予定されなければならないことになる。

音読にあらわれた読みあやまりの事例を一つ一つめみつに調べていっても、いくつかのはっきりした事実や実践上に注意すべき問題がある。これらを整理して、読みの学習指導の改善に資することはきわめてたいせつな仕事であるので、現在も分析をつづけている。したがって、今回の報告書では、ページ数のことをも考えて、いちおうはぶいてある。いずれ別の機会に発表する予定であるが、とくに注目すべきことは、音読の場合でも、読むということは文字を順に追っていくことではなく、意味の統一として概念の再構成をおこなっていくことであると言える事例がたくさんあらわれていることである。「たまころがしのように」というかな表記のことは、ほとんどすべての児童が音読として失敗していることは、そのいちじるしい例と言えよう。意味の統一として概念の再構成をおこなうのに抵抗が強いために、文字としては音声化ができるはずであるのに、読みちがえてしまうのである。

なお、文字(かな、および漢字)の抵抗による読みあやまりは、類型として特に

(註8) Robinson, Helen M. Why Pupils Fail in Reading. Chicago : University of Chicago Press, 1946.

項目にあげた以外にも、多くの読みあやまりの原因となっていると推定できる。ためらったり、ほかの文字や単語に読みちがえたり、とぼしたりなどの読みあやまりのうち、文字抵抗が原因だと考えられる事例がきわめて多いことも注意すべき点であろう。

数 表 ・ 図 表 一 覧

IV

(*を付けたものが数表)

*読みあやまりの種類と事例数	24	
*学年別読みあやまりの事例数	26	
音読の全般的な態度にあらわれた読みの異常の種類と人数	27	
〃	と学年別の人数	28
*全般的な読みの異常を示した児童と示さない児童との比較	29	
読みあやまり別に見た1人当りの読みあやまり数	29	
読みあやまり別に見た1人当りの平均読みあやまり数と国語の学力との関係	30	
学年別にみた1人当りの読みあやまり数と各種の読みあやまりとの関係	31	
同一教材による学年別1人当りの読みあやまり数の比較 (3,4学年)	32	
教材別に見た1人当りの読みあやまり数 (3学年)	32	
〃	(4学年)	33
〃	(5学年)	33
国語の学力別に見た1人当りの読みあやまり数 (3学年)	34	
〃	(4学年)	35
〃	(5学年)	36
*音読の早さ (1年生)	36	
*音読の早さ (2,3,4年生)	37	
*音読の早さ (5,6年生)	38	

V

文字の読みがわからない	(学年別の1人当りの読みあやまりの平均数)	41
発音作用が正常でない	(〃)	50
とぼし読みをする	(〃)	75
おきかえ読みをする	(〃)	92
つけ加え読みをする	(〃)	137
くりかえし読みをする	(〃)	148
ひろい読みをする	(〃)	190
読みの休止が不自然である	(〃)	208
初め読みちがえて後に正しく読む	(〃)	236
なんどもまちがえた後で正しく読む	(〃)	254

— 国立国語研究所刊行書 —

- 国立国語研究所報告 1 八 丈 島 の 言 語 調 査
- 国立国語研究所報告 2 言 語 生 活 の 実 態 (秀英出版刊
—白河市および附近の農村における— ¥ 300.00)
- 国立国語研究所報告 3 現 代 語 の 助 詞 ・ 助 動 詞
—用 法 と 実 例—
- 国立国語研究所報告 4 現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語
- 国立国語研究所報告 5 地 域 社 会 の 言 語 生 活 (秀英出版刊
—篇岡における実態調査— ¥ 600.00)
- 国立国語研究所報告 6 少 年 と 新 聞
—小・中学生の新聞への接近と理解—
- 国立国語研究所報告 7 入 門 期 の 言 語 能 力
- 国立国語研究所報告 8 談 話 語 の 実 態
- 国立国語研究所報告 9 読 み の 実 験 的 研 究
—音読にあらわれた読みあやまりの分析—

- 国立国語研究所資料集 1 国 語 関 係 刊 行 書 目 (昭和17—24年)
- 国立国語研究所資料集 2 語 彙 調 査
—現代新聞用語の一例—
- 国立国語研究所資料集 3 送 り 仮 名 法 資 料 集

- 昭和 24 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 1
- 昭和 25 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 2
- 昭和 26 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 3
- 昭和 27 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 4
- 昭和 28 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 5

昭和 30 年 3 月

国立国語研究所

東京都千代田区神田一ツ橋 1-1

電話九段 (33) $\left\{ \begin{array}{l} 4\ 2\ 9\ 5 \\ 4\ 2\ 9\ 6 \end{array} \right.$

UDC 495.6-073.2(06)

NDC 810.75

Experimental Research of Reading Deficiencies
—Analytical Classification of
Oral Reading Deficiencies—

CONTENTS

Foreword

Preface

- I Aims of the Research
- II Planning of the Research
- III Procedure of the Research
- IV Analytical Classification of the Research Issues
- V Comprehensive Collection of the Cases of Oral Reading Deficiencies
 - 1. Difficulties of Reading Written Symbols 2. Incorrect Articulations 3. Omissions 4. Substitutions
 - 5. Additions 6. Repetitions 7. Letter-by-letter Readings
 - 8. Unnatural Stops of Reading 9. Correct Readings after First Misreading 10. Correct Readings after Repeated Misreadings
- VI Experimental Study to Ascertain the Causes of Oral Reading Deficiencies
- VII Synthetic Consideration

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
KANDA-HITOTUBASI, TIYODA, TÔKYÔ

1 9 5 5